

第 1 1 回金沢市教育委員会定例会議

1 日 時：平成 2 9 年 1 1 月 1 5 日（水） 1 6 時 0 0 分～1 7 時 3 0 分（予定）

2 場 所：金沢市庁舎 2 階 2 0 1 会議室

3 審議等

頁

議案第 2 9 号 平成 2 8 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
(教育総務課)・・・ 1

議案第 3 0 号 金沢市指定文化財の指定について (文化財保護課)・・・ 2

議案第 3 1 号 金沢市社会教育委員の委嘱について 【非公開案件】(生涯学習課)・・・ 5

議案第 3 2 号 平成 2 9 年度金沢市議会 1 2 月定例会月議会提出予定案件について
【非公開案件】(教育総務課他)・・・ 7

報告第 2 9 号 第 2 回金沢市教育実践セミナーの開催について (教育総務課)・・・ 1 0

報告第 3 0 号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果(平成 2 9 年 7 月～9 月分)
について (学校職員課)・・・ 1 2

報告第 3 1 号 平成 2 9 年度「金沢市 hyper-Q U アンケート」実施状況調査について
(学校指導課)・・・ 1 6

報告第 3 2 号 平成 2 9 年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の
結果概要について (学校指導課)・・・ 1 9

報告第 3 3 号 平成 2 9 年度金沢市社会教育功労者表彰について (生涯学習課)・・・ 2 1

その他

(1) 第 4 1 回(平成 2 9 年度)金沢市市民大学講座の実施報告について

(2) 金沢市図書館の図書等特別整理期間について

(3) 次回の定例会議の日程について

平成28年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

【別紙資料参照】

平成29年11月15日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

金沢市指定文化財の指定について

平成29年11月15日提出

金沢市文化スポーツ局

局長 嶋浦 雄峰

答 申 書

平成29年6月28日の教育委員会で金沢市指定文化財に指定の諮問があった下記の文化財について、金沢市指定文化財としてふさわしいものとして答申します。

記

- 1 有形文化財 建造物 「ほんりゅうじほんどう本龍寺本堂・さんもん山門・どべい土塀・しょうろう鐘楼 つけたりむなふだ附 棟札」

平成29年11月2日

金沢市文化財保護審議会
会 長 東四柳 史明



答 申 書

平成29年10月25日の教育委員会で金沢市指定文化財に指定の諮問があった下記の文化財について、金沢市指定文化財としてふさわしいものとして答申します。

記

- 1 記念物 史跡 かなざわじょうそうがまえあと 「金沢城惣構跡」

平成29年11月2日

金沢市文化財保護審議会
会 長 東四柳 史明



金沢市社会教育委員の委嘱について

【非公開案件】

平成29年11月15日提出

金沢市教育委員会
教育長 野口 弘

平成 29 年度金沢市議会 12 月定例会議会提出予定案件について
【非公開案件】

平成 29 年 11 月 15 日提出

金沢市教育委員会
教育長 野口 弘

第 2 回金沢市教育実践セミナーの開催について

平成 29 年 11 月 15 日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

第2回金沢市教育実践セミナーの開催について

本市では、平成27年10月に学校教育を通したひとづくり、生涯学習を通したひと・まちづくりをめざし、金沢市教育行政大綱を策定しその実践に努めている。

今回、学校や地域等で教育活動等に携わる人を対象に、専門家や行政職員による第2回セミナー（全3回）を開催し、本市が進める教育施策への理解を深めるとともに、今後の教育振興について考える契機とする。

1 全体テーマ

「学校教育を通したひとづくり、生涯学習を通したひと・まちづくり」

2 第2回セミナーの概要

- (1) 日 時 平成29年11月21日（火）15時～16時40分
- (2) 場 所 金沢21世紀美術館 シアター21
- (3) テーマ 「特別支援教育の充実」
- (4) 内 容 ① 金沢市の教育施策について
金沢市の特別支援教育の取り組み
教育プラザの教育相談・支援体制
特別支援教育サポートセンター（仮称）整備基本構想 など
- ② 講演
河野 俊寛 氏（金沢星稜大学教授 金沢市教育委員）
演題 「『困った子ども』ってどんな子？
—通常学級での特別支援教育—」

3 今後の予定

〔第3回セミナー〕

- (1) 日 時 平成30年1月（予定）
- (2) テーマ 「家庭・地域の教育力の向上」「生涯を通じた学びの支援」

金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果
(平成29年7月～9月分) について

平成29年11月15日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果
(平成29年7月～9月分)について

- 1 対象者数 (再任用拠点校指導教員、短時間再任用教諭、短時間非常勤講師は除く)
 小学校 55校 1,331名、中学校 24校 738名
 ※7月31日調査時点の人数
- 2 対象職種
 校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務職員、講師、
 栄養教諭、栄養職員

3 時間外勤務時間の平均と時間外勤務の内容
(1) 小学校

	時間外勤務時間の平均	時間外勤務の内容 (割合：%)			
		教材研究・学習指導	校務分掌	部活動	その他
7月～9月の平均	35時間43分	36.6%	37.1%		26.3%
7月	46時間04分	34.4%	35.2%		30.4%
8月	6時間02分	—	—		—
9月	55時間02分	38.9%	38.9%		22.2%
4月～6月の平均	59時間47分	36.6%	36.2%		27.2%

(2) 中学校

	7月～9月の平均 (時間/月)	時間外勤務の内容 (割合：%)			
		教材研究・学習指導	校務分掌	部活動	その他
7月～9月の平均	63時間08分	20.9%	20.7%	37.7%	20.7%
7月	76時間50分	22.6%	21.9%	34.3%	21.2%
8月	31時間39分	17.3%	19.2%	45.2%	18.3%
9月	80時間55分	22.9%	20.8%	33.6%	22.7%
4月～6月の平均	87時間28分	25.0%	23.6%	29.5%	21.9%

- ※1 時間外勤務の内容は、1か月100時間を超えた者及び2か月連続80時間を超えた者のみが回答
 ※2 時間外勤務の内容の「その他」は、生徒指導、進路指導、学校行事 等

4 時間外勤務時間の分布
(1) 小学校

	0～45時間	～60時間	～80時間	～100時間	100時間超
7月～9月の平均	61.6%	15.2%	16.0%	5.6%	1.6%
7月	49.2%	24.3%	20.1%	5.3%	1.1%
8月	98.8%	1.0%	0.2%	0.0%	0.0%
9月	36.8%	20.3%	27.5%	11.6%	3.8%
4月～6月の平均	30.5%	20.2%	28.3%	14.4%	6.7%

(2) 中学校

	0～45時間	～60時間	～80時間	～100時間	100時間超
7月～9月の平均	40.5%	11.2%	13.9%	13.0%	21.4%
7月	26.0%	13.3%	16.5%	15.1%	29.1%
8月	74.4%	9.5%	8.9%	4.9%	2.3%
9月	21.2%	10.8%	16.0%	19.2%	32.8%
4月～6月の平均	18.0%	10.5%	16.7%	16.8%	38.1%

5 職種別の時間外勤務時間
(1) 小学校

	校長	教頭	教諭等
7月～9月の平均	40時間26分	66時間46分	37時間25分
7月	49時間39分	77時間39分	49時間00分
8月	15時間39分	31時間32分	4時間39分
9月	56時間00分	91時間06分	58時間37分
4月～6月の平均	58時間45分	95時間27分	63時間49分

(2) 中学校

	校長	教頭	教諭等
7月～9月の平均	44時間27分	72時間04分	68時間58分
7月	50時間48分	87時間32分	84時間53分
8月	19時間16分	37時間08分	34時間49分
9月	63時間16分	91時間31分	87時間12分
4月～6月の平均	66時間21分	109時間26分	95時間01分

- ※3 教諭等は、主幹教諭、指導教諭、教諭

6 7月～9月の職種別・年齢別・男女別の集計

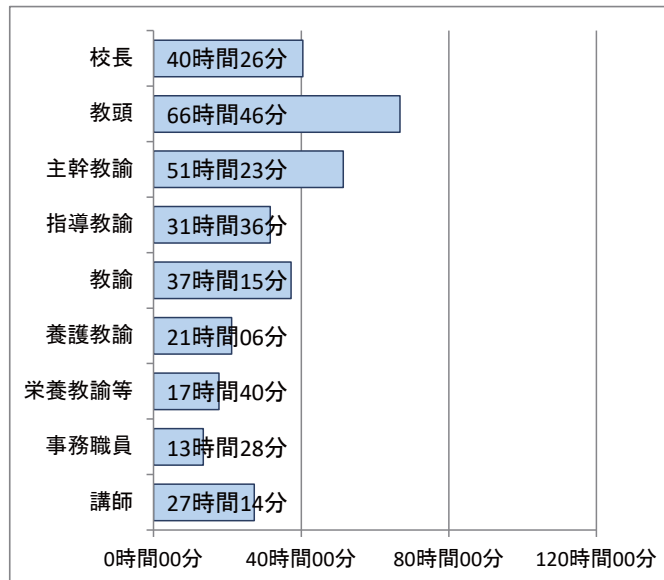
表の項目について

○平均・・・1か月あたりの時間外勤務時間の平均
 ○80～100h割合・・・1か月あたりの時間外勤務時間の平均が80～100時間の人数の割合
 ○100h超割合・・・1か月あたりの時間外勤務時間の平均が100時間を超えた人数の割合

(1) 職種別

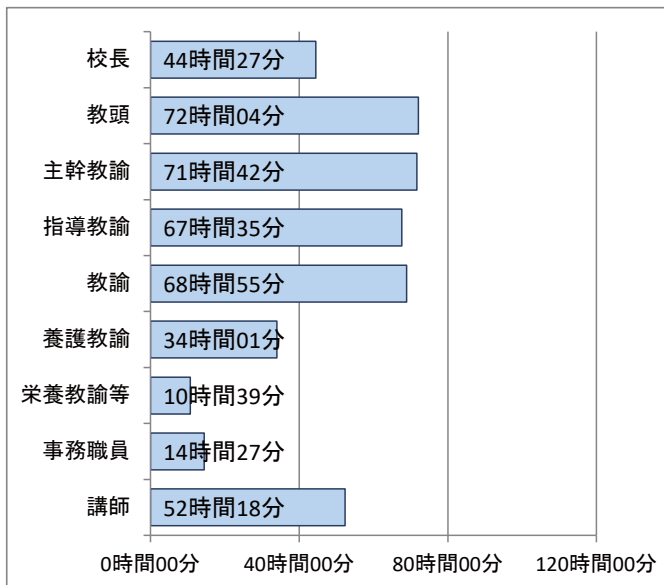
①小学校

職種	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
校長	40時間26分	1.9%	0.6%	52
教頭	66時間46分	23.2%	9.5%	56
主幹教諭	51時間23分	14.3%	2.4%	14
指導教諭	31時間36分	0.0%	0.0%	6
教諭	37時間15分	6.0%	1.7%	926
養護教諭	21時間06分	0.7%	0.0%	51
栄養教諭等	17時間40分	0.0%	0.0%	17
事務職員	13時間28分	0.0%	0.0%	54
講師	27時間14分	2.3%	0.0%	155
総計	35時間43分	5.6%	1.6%	1331



②中学校

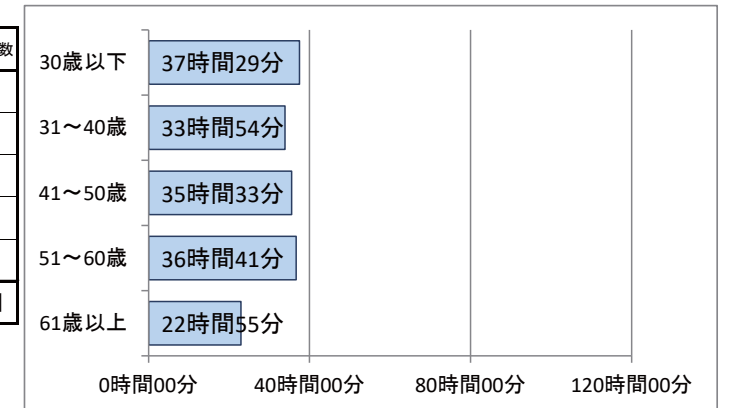
職種	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
校長	44時間27分	5.6%	4.2%	24
教頭	72時間04分	21.3%	21.3%	25
主幹教諭	71時間42分	15.4%	23.1%	13
指導教諭	67時間35分	11.1%	22.2%	3
教諭	68時間55分	13.9%	25.7%	546
養護教諭	34時間01分	4.3%	4.2%	24
栄養教諭等	10時間39分	0.0%	0.0%	5
事務職員	14時間27分	0.0%	0.0%	27
講師	52時間18分	13.9%	9.4%	71
総計	63時間08分	13.0%	21.4%	738



(2) 年齢別

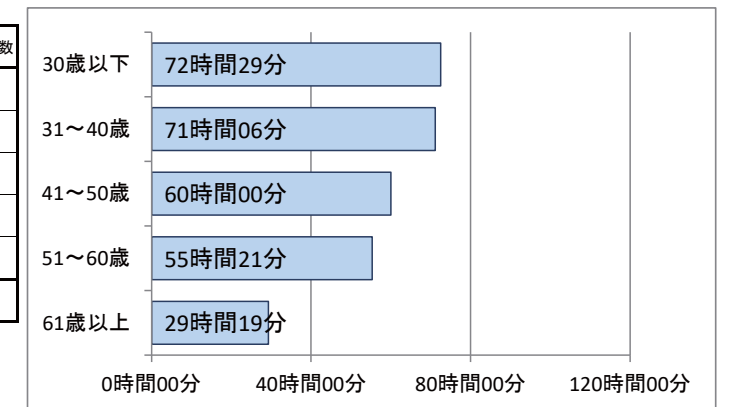
①小学校

年齢	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
30歳以下	37時間29分	6.7%	1.7%	305
31～40歳	33時間54分	5.0%	1.1%	326
41～50歳	35時間33分	5.6%	2.0%	272
51～60歳	36時間41分	5.5%	1.6%	404
61歳以上	22時間55分	1.4%	1.3%	24
総計	35時間43分	5.6%	1.6%	1331



②中学校

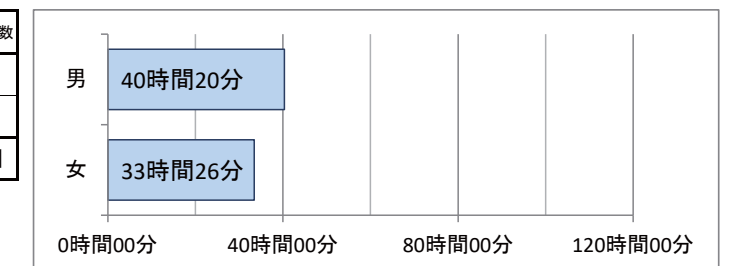
年齢	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
30歳以下	72時間29分	16.2%	26.9%	180
31～40歳	71時間06分	14.8%	28.0%	149
41～50歳	60時間00分	11.5%	20.5%	133
51～60歳	55時間21分	11.0%	15.1%	264
61歳以上	29時間19分	5.6%	5.6%	12
総計	63時間08分	13.0%	21.4%	738



(3) 男女別

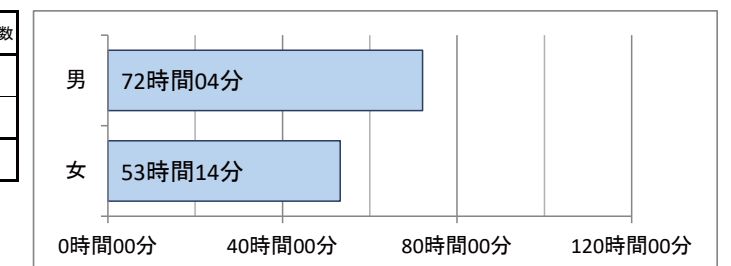
①小学校

男女	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
男	40時間20分	7.6%	2.3%	439
女	33時間26分	4.7%	1.2%	892
総計	35時間43分	5.6%	1.6%	1331



②中学校

男女	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
男	72時間04分	13.6%	28.3%	387
女	53時間14分	12.4%	13.8%	351
総計	63時間08分	13.0%	21.4%	738



(参考) 4月～6月の職種別・年齢別・男女別の集計

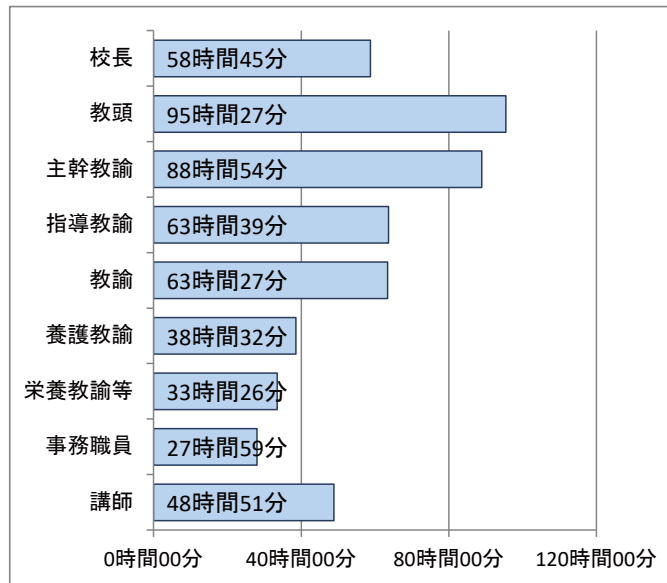
表の項目について

○平均・・・1か月あたりの時間外勤務時間の平均
 ○80～100h割合・・・1か月あたりの時間外勤務時間の平均が80～100時間の人数の割合
 ○100h超割合・・・1か月あたりの時間外勤務時間の平均が100時間を超えた人数の割合

(1) 職種別

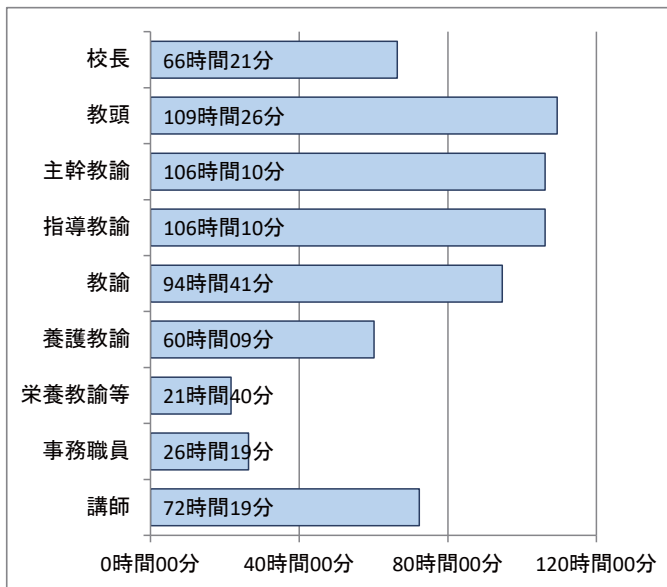
①小学校

職種	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
校長	58時間45分	5.8%	1.9%	52
教頭	95時間27分	36.3%	30.4%	56
主幹教諭	88時間54分	35.7%	21.4%	14
指導教諭	63時間39分	16.7%	5.6%	6
教諭	63時間27分	16.7%	6.9%	933
養護教諭	38時間32分	4.6%	0.0%	51
栄養教諭等	33時間26分	0.0%	0.0%	17
事務職員	27時間59分	0.0%	1.2%	55
講師	48時間51分	5.0%	1.7%	154
総計	59時間47分	14.4%	6.7%	1338



②中学校

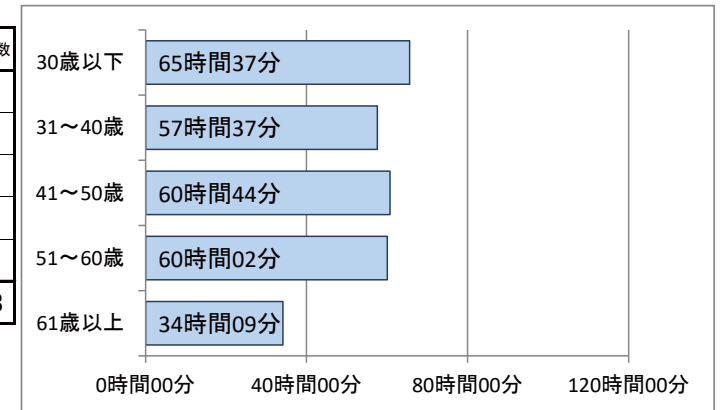
職種	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
校長	66時間21分	12.5%	13.9%	24
教頭	109時間26分	29.3%	52.0%	25
主幹教諭	106時間10分	17.9%	51.3%	13
指導教諭	106時間10分	22.2%	55.6%	3
教諭	94時間41分	18.2%	44.2%	548
養護教諭	60時間09分	5.7%	15.8%	23
栄養教諭等	21時間40分	0.0%	0.0%	5
事務職員	26時間19分	0.0%	0.0%	27
講師	72時間19分	18.5%	20.4%	70
総計	87時間28分	16.8%	38.1%	738



(2) 年齢別

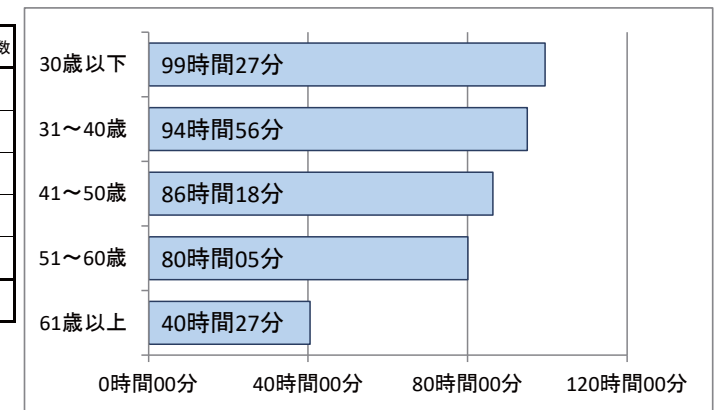
①小学校

年齢	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
30歳以下	65時間37分	18.8%	7.4%	311
31～40歳	57時間37分	13.4%	6.1%	328
41～50歳	60時間44分	14.2%	7.6%	270
51～60歳	60時間02分	13.1%	6.3%	405
61歳以上	34時間09分	5.6%	1.4%	24
総計	59時間47分	14.4%	6.7%	1338



②中学校

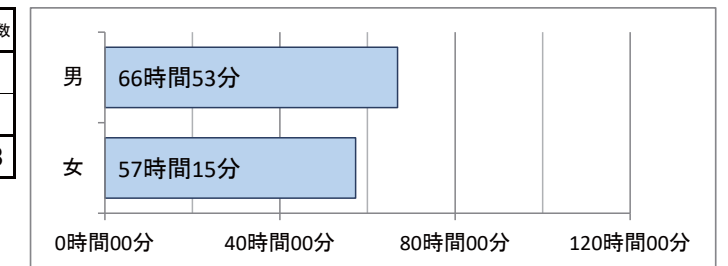
年齢	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
30歳以下	99時間27分	17.3%	49.8%	179
31～40歳	94時間56分	18.2%	44.6%	151
41～50歳	86時間18分	14.4%	38.0%	132
51～60歳	80時間05分	18.4%	29.2%	264
61歳以上	40時間27分	11.1%	5.6%	12
総計	87時間28分	16.8%	38.1%	738



(3) 男女別

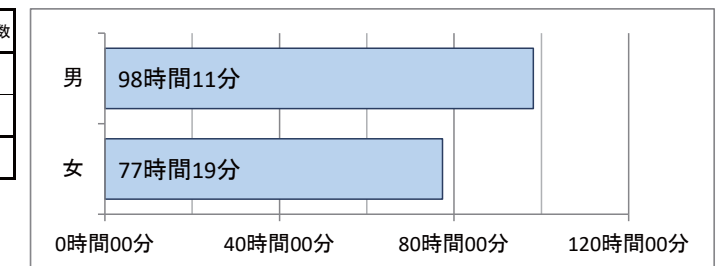
①小学校

男女	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
男	66時間53分	18.5%	9.7%	438
女	57時間15分	12.7%	5.2%	900
総計	59時間47分	14.4%	6.7%	1338



②中学校

男女	平均	80～100h割合	100h超割合	対象人数
男	98時間11分	16.5%	49.1%	388
女	77時間19分	18.0%	26.9%	350
総計	87時間28分	16.8%	38.1%	738



平成 2 9 年度「金沢市 hyper-Q U アンケート」実施状況調査について

平成 2 9 年 1 1 月 1 5 日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

平成29年度「金沢市 hyper-Q Uアンケート」実施状況調査について

1 Q-Uアンケートについて

(1) 調査目的

学校生活における児童生徒個々の意欲や満足感及び学級集団の状態を質問用紙によって測定するもので、結果からは、①児童生徒個々の学級生活における満足感や学校生活における意欲、②学級集団の雰囲気や良好な人間関係、③児童生徒の学級内での相対的位置の情報を得ることができる。それに基づき、各学校がよりよい学級集団づくりや好ましい人間関係づくり、不登校やいじめの未然防止等に活用することを目的としている。

(2) 実施時期

1回目 平成29年 5月下旬～ 5月29日(月)

2回目 平成29年 9月下旬～10月10日(火)

(3) 対象児童生徒

金沢市立小学校第4学年、中学校第1学年に在籍する全ての児童生徒

2 本市小中学校の傾向

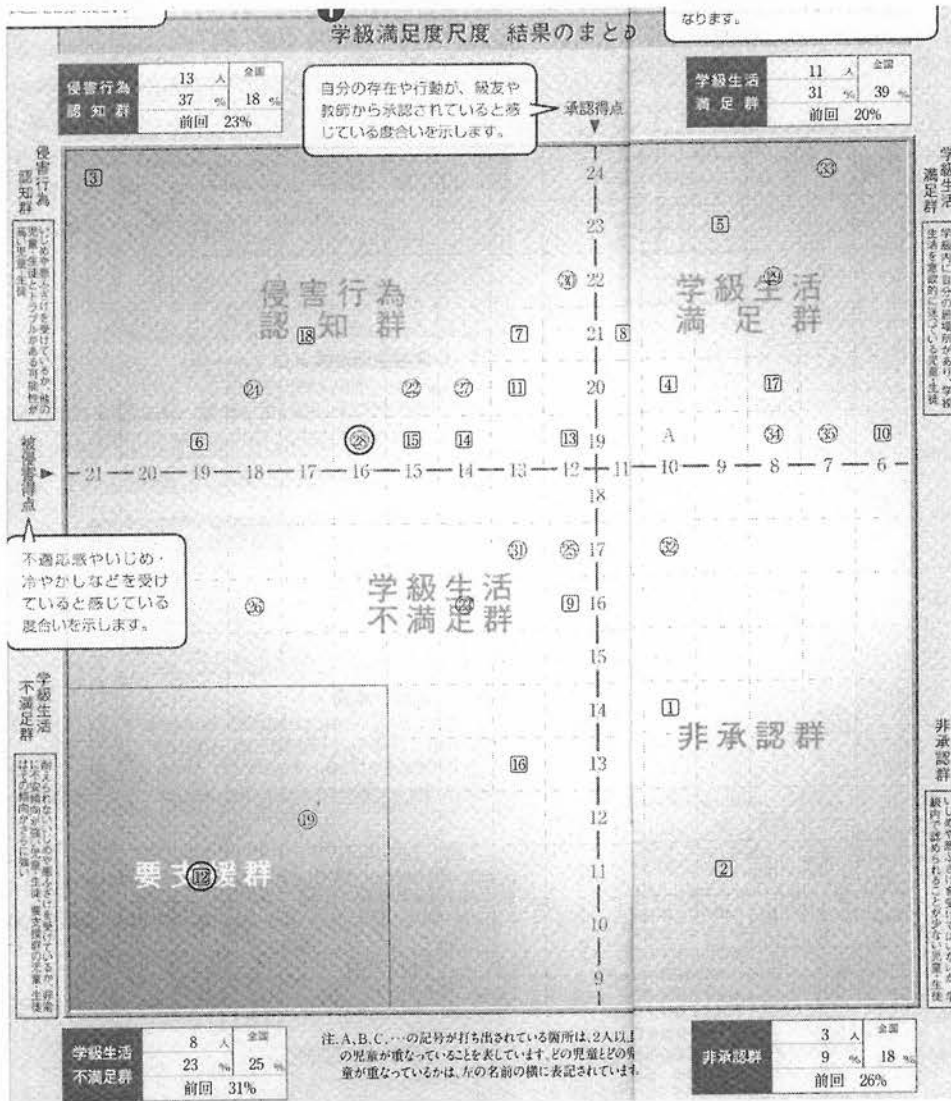
- ・全体的に学習意欲が高く、友人関係も良好な児童生徒の割合が多く、親和的でまとまりのある学級集団が多い。
- ・自主的に行動することが苦手で、認められていないと感じる児童生徒も2割程度存在しており、かたさのみられる学級集団が多い。

3 小中学校での活用方法（複数回答可）

	活用方法	全体 (%)	小学校 (%)	中学校 (%)
1	児童生徒理解の把握	90.0	91.9	87.5
2	学級の雰囲気づくり	58.8	57.1	62.5
3	好ましい人間関係づくり	57.5	62.5	45.8
4	組織的な情報交換	56.3	48.2	75.0
5	校内研修会等での活用	51.3	46.4	62.5

4 効果的な実践例

- ・子ども一人一人の満足感や意欲度、人間関係等が可視化されることで、より児童生徒を理解できるようになり、学級指導や個に応じた支援がしやすくなった。
- ・要支援群（いじめられている・不登校になる可能性がある）児童生徒に対しては、家庭訪問や個別面談の機会を多く設け、本人の思いに寄り添うよう対応した。
- ・結果を踏まえて、学年会で気になる生徒の情報交換を行い、担任だけではなく養護教諭や教育相談担当を含めて個人面談や個別相談を行うことで、いじめや不登校の未然防止、早期対応につながった。
- ・hyper-Q U実施にあたり、事前校内研修を行い目的、留意点、結果の見方・活用の仕方について校内で情報共有を行った。



学級満足度尺度からみた学級集団のようす

「学級満足度尺度」に含まれる承認得点（縦軸）と被侵害得点（横軸）の分布のようすから、現在の学級集団がどのような状態かを把握することができます。

今回の結果をみると、本学級の多くの子どもたちが緊張感も少なく、自由に活動できていると想定されます。しかし、被侵害得点の広がりから、子どもたちの間における学級のルールや行動規範の定着に不十分な面があると想定されます。自己主張ができ自分の思い通りに活動できる子どもたちが満足している反面、自分の思いをうまく伝えることができない子どもたちは、さまざまな活動や対人関係の面で、つらい思いをしている可能性があります。

このような状態の子どもたちが集まった学級は、「ゆるみのある学級集団」と判定されます。一見元気でびのびとしている雰囲気のある学級に見えますが、学級内の行動規範が低下している可能性があり、授業では私語がみられたり、係活動の遂行などにルーズな面がでていたりしている可能性が考えられます。子どもたちの間にも、小さなトラブルが少なからず発生していると推測されます。また、自己主張が強い、あるいは力のある特定の子どもたちに、学級全体が影響を受けてしまう可能性もあります。

hyper-GUの結果から考えられる今後の指針

本学級は、行動規範が低下しやすい「ゆるみのある学級集団」の傾向をもつと考えられますので、先生が現在行われている学級経営方針は、一部を修正されることが望ましいと判断されます。自由な雰囲気があることはいいのですが、学級内のルールや行動規範の定着が不十分な中で、「なれあい」や「ゆるみ」が生じやすく、集団活動が低下していくことが考えられます。そこで、活動の前などに基本的なルールを確認したり、活動後ルールに沿って活動できたかの評価を、短時間で行うことが求められます。

学校生活意欲尺度の得点は、全国平均とほぼ同じですが、子どもたちはまだ伸びる可能性があります。特に、満足群以外の子どもたちは友人関係の軋みなどで、意欲が低下している場合がありますので、その面での支援が求められます。学級内にルールが定着してトラブルが減り、学級生活・活動のリズムができると、子どもたちの学校生活意欲もより高まっていくことでしょう。

今後、学級経営上で配慮すべき点は、一つの活動を短めにして、短時間でもルールのもとに活動しきった、という体験を積み重ねることが効果的だと思います。その際は、ある程度パターン化した活動形態にするなど、簡単でわかりやすい方法で活動を展開するといでしょう。また、ルールを守って活動している子どもを積極的にほめることで、学級内にルールを定着させることが必要です。

平成29年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の
結果概要について

平成29年11月15日提出

金沢市教育委員会

教育長 野口 弘

平成29年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の結果概要について

1 調査概要

(1) 調査目的

金沢市立小・中・高等学校児童生徒の携帯電話やインターネット等の利用状況について実態等を把握し、今後の取組に生かす。

(2) 実施時期

- ・アンケートの配付 平成29年6月26日（月）～6月30日（金）
- ・アンケートの回収 平成29年6月27日（火）～7月7日（金）

(3) 調査対象

金沢市立小学校に在籍する4年生以上の全児童
金沢市立中学校・高等学校に在籍する全生徒

(4) 内 容

無記名方式で実施

(5) 調査人数

小学校：11,523名 中学校：11,148名 高等学校：718名

2 調査結果：別紙資料参照

(1) 携帯電話・スマートフォンの所持状況（問1）

- ・所持率は、前年度より、小では2.2ポイント、中では6.0ポイント、高では1.1ポイント増加した。

(2) フィルタリングサービスの設定状況（問2）

- ・「設定されている」と回答した割合は、小は51.1%、中は42.3%、高は47.2%であり、中のフィルタリングの設定状況の割合が最も低い。

(3) インターネット接続可能機器の所持状況（問3）

- ・小は84.9%、中は89.0%、高は84.3%が所持している。小・中・高とも「ゲーム機」が最も多く、小・中では「パソコン」より「タブレット端末」の所持率が上回った。

(4) 携帯電話、インターネット接続可能機器等の使用時間（問4）

- ・年齢が上がるほど長くなる傾向があり、1日3時間以上の使用について、前年度より小では1.0ポイント、中では2.1ポイント増加した。一方、高では3.2ポイント減少した。

(5) 携帯電話、インターネット接続可能機器等の使用時のルール（問5）

- ・小・中・高とも使用時のルールを「特に決めていない」と回答した割合が減少傾向にあり、小・中では「使う時間を決めていない」が最も多い。

(6) インターネットの使用内容（問6）

- ・小、中、高とも、調べ物やゲームが多いが、中・高と年齢が上がるにつれて、メールや無料通話アプリ、コミュニティサイト、音楽のダウンロードなど、使用範囲が広がっている。

(7) インターネットによる被害を受けた状況（問7）

- ・小・中・高とも「チェーンメールを送られた」の割合が多い。

(8) インターネットによる不適切な行為の状況（問8）

- ・「特になし」と答えた児童生徒の割合が、小・中・高とも増加傾向にあり、高では5.9ポイント増加した。

(9) インターネットに関する知識理解の状況（問9）

- ・インターネットによる誹謗中傷は犯罪であることについて小は91.9%、中は88.9%、高は85.1%が「思う」と答えているが、年齢が上がるにつれて減少している。

平成29年度金沢市社会教育功労者表彰について

平成29年11月15日提出

金沢市教育委員会
教育長 野口 弘

平成29年度金沢市社会教育功労者表彰について

表彰式 日時：12月1日（金）13：30～14：30

場所：市役所7階 全員協議会室

番号	氏名	所属団体・役職名
1	おおと しょうじ 大音 章二	金沢市子ども会連合会 育成委員会委員長
2	せまち たかいち 瀬町 隆一	金沢市城南公民館 館長
3	たかぎ たけお 高木 武夫	金沢市薬師谷公民館 館長
4	たかやなぎえいじ 高柳 英二	金沢市富樫公民館 総務管理部副部長
5	なかむら たつお 中村 辰雄	ボーイスカウト金沢第2団 副団委員長 ボーイスカウト金沢地区 総務副委員長
6	にしなが ひろこ 西永 紘子	金沢市校下婦人会連絡協議会 会計
7	ひさの たかし 久野 隆司	金沢市PTA協議会 副会長
8	まつもと ただあき 松本 忠明	金沢市公民館連合会 副会長 金沢市諸江公民館 館長

第41回（平成29年度）金沢市市民大学講座の実施報告について

□概要

今日的課題について、各界の著名人を招き、その講演を聴き学ぶことで、市民が夢や志の実現のために積極的に行動を起こすきっかけとなるよう、学習の場を提供する。

□テーマ

ともに学び ともに拓く 創造性あふれる 金沢のひと・まちづくり

□会場

金沢市文化ホール 大ホール

□各講座における受講者数

回数	開催日	講師	演題	入場者数
第1回	9月7日	齋藤 孝	「人間関係をつくるコミュニケーション力」	809人
第2回	9月29日	増田 明美	「スポーツと地域と人づくりと」	729人
第3回	10月12日	重松 清	「ことばの力」	724人
第4回	10月24日	島 敦彦	「美術の楽しみ方」	618人
第5回	10月31日	東村 アキコ	「漫画はアート!？」	630人
第6回	11月9日	藤原 和博	「『坂の上の坂』をどう生きるか」	696人
			合計	4,206人

（参考：平成20年度以降の市民大学講座参加者数推移）

	回数	延べ人数（人）	平均人数（人／回）
平成20年度	6回	3,249人	542人
平成21年度	6回	3,246人	541人
平成22年度	6回	3,966人	661人
平成23年度	6回	4,492人	749人
平成24年度	6回	4,267人	711人
平成25年度	6回	3,997人	666人
平成26年度	6回	3,932人	655人
平成27年度	6回	4,189人	698人
平成28年度	6回	4,359人	726人
平成29年度	6回	4,206人	701人

金沢市図書館の図書等特別整理期間について

金沢市図書館は金沢市図書館規則第３条の規定により、資料の特別整理のため、下記の期間を休館とします。

記

１．休館期間

平成２９年１１月２７日（月）から１２月８日（金）まで（１２日間）

２．休館中の業務内容

蔵書点検、資料整理、書架整理、書庫整理、職員研修、消防訓練等を実施

３．対象図書館

- （１）玉川図書館
- （２）泉野図書館
- （３）玉川こども図書館
- （４）金沢海みらい図書館
- （５）玉川図書館城北分館
- （６）玉川図書館近世史料館
- （７）平和町児童図書館

資 料

議案第29号

金沢市教育委員会事務事業
点検・評価報告書
(平成28年度執行分)
(案)

平成29年11月
金沢市教育委員会

平成28年度金沢市教育委員会事務管理及び執行状況の点検評価について

金沢市教育委員会は、市長が市議会の同意を得て任命した教育長及び6名の教育委員により組織された合議制の執行機関であり、多様化する教育ニーズに対応し、時代にふさわしい特色のある金沢の教育施策の実現を目指し、権限に属する教育に関する事務を管理執行している。

平成27年4月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化など制度の抜本的な改革が行われた。これに伴い、平成27年度には、市長と教育委員会で構成する総合教育会議を開催し、教育に関する諸問題について協議を行うとともに、本市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」及び「生涯学習振興基本計画」の基本理念を踏まえた「金沢市教育行政大綱」を策定した。

この度「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成28年度における教育委員会の活動及び所管事務について、その管理及び執行状況の点検評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめた。

はじめに、教育委員会の活動状況として、教育委員会（教育長及び教育委員）、教育委員会議の概要、教育委員会の活動、総合教育会議と教育行政大綱、学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画について、その具体的な内容を記述し点検評価を行うとともに、今後の方向性についても記載した。

次に、教育行政大綱の具現化に向けて、学校教育振興基本計画及び生涯学習振興基本計画の方向性に基づき、事務事業を施策ごとにまとめ、事業の概要、実績の推移、評価した経緯等を記述し点検評価を行うとともに、今後の課題と方向性についても記載した。

また、法により定められている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、元金沢市教育委員会教育委員長の金沢大学名誉教授 佐藤秀紀氏及び金沢市社会教育委員の金沢美術工芸大学教授 桑村佐和子氏から、点検評価に対する意見を頂いた。

金沢市教育委員会は、今後もこのような活動・事務に対する点検評価を行い、議会への提出や公表を通じて、教育委員会の活動を市民にわかりやすく説明していくとともに、教育委員会制度改革の趣旨に則り、教育行政における地域住民の意向のより一層の反映と教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的な推進に取り組む所存である。

平成29年11月

金沢市教育委員会

目 次

学識経験者の意見等	1
平成28年度金沢市教育委員会の活動状況	
〔1〕 教育委員	3
〔2〕 教育委員会議の実施状況	3
〔3〕 教育委員の活動	4
〔4〕 総合教育会議と教育行政大綱	6
〔5〕 学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画	8
〔6〕 点検評価及び今後の方向性	9
平成28年度金沢市教育委員会施策概要及び主要事務の評価について	11
学校教育振興基本計画	
【方向性1】豊かな人間性を育む教育に取り組みます	
（1）金沢型学校教育モデルの実践	14
（2）金沢「絆」活動の推進	15
（3）いじめ・不登校・問題行動対策の充実	16
（4）金沢型工業教育モデルの推進	17
（5）ものづくり教育の充実	18
（6）学校司書の資質・能力向上のためのサポート体制強化	19
【方向性2】確かな学力を育む教育に取り組みます	
（1）金沢型学習スタイルの推進	20
（2）ICT機器活用教育の推進	21
（3）小中一貫英語教育の充実	22
【方向性3】健康や体力を育む教育に取り組みます	
（1）学校給食調理場施設整備の推進	23
（2）学校給食の充実	24
（3）健康教育プラン2014の実践	25
（4）中学校部活動の振興	26

【方向性4】ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます	
(1) 金沢ふるさと学習の推進	27
(2) 金沢ユネスコスクールの実践	28
(3) 防災教育の実践	29
【方向性5】特別支援教育の充実に取り組みます	
(1) 特別支援教育サポートセンターに関する基本構想の策定	30
(2) 特別支援教育の充実	31
【方向性6】福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます	
(1) 教育相談の充実（多様化・複雑化への対応）	32
【方向性7】家庭、地域と連携したひとづくりに取り組みます	
(1) コミュニティ・スクールのモデル事業の実施	33
【方向性8】教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます	
(1) 新学校規模適正化計画の策定	34
(2) 学校施設の耐震化の推進	35
(3) 泉小学校と泉中学校の一体的整備	36
(4) 学校施設整備の推進	37
(5) 教育環境（ICT機器）の充実	38
(6) 校務士配置体制の整備	39
(7) 教職員・保育職員研修の充実	40
(8) 市立工業高等学校の優秀な教員確保	41
(9) 児童生徒の就学援助	42

生涯学習振興基本計画

【方向性1】すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます	
(1) 市民大学講座の充実	43
(2) 地域コミュニティ活性化支援事業の充実	44
(3) 高砂大学校・高砂大学院の開設	45
(4) Book Bankモデル事業の実施	46
(5) 読書普及活動の推進	47
【方向性2】青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます	
(1) 家庭教育振興室の設置	48
(2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動の推進	49
(3) 次代を担う青少年の育成	50

(4) 人権教育の推進	51
(5) 金沢子ども読書推進プラン21（第三次）の実践	52
【方向性3】市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます	
(1) 図書館機能充実策の検討事業の実施	53
(2) 図書館の機能を活用した課題解決支援	54
【方向性4】学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に取り組みます	
(1) キゴ山3施設の統合	55
(2) 宇宙教育の推進	56
(3) キゴ山の豊かな環境を活かした里山教育の推進	57
(4) 長土塀青少年交流センター（仮称）の整備	58
(5) 地区公民館の施設整備	59
【方向性5】金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます	
(1) ふるさと教育の推進	60
(2) 姉妹都市提携図書館との交流促進	61
文化財の保護	
【文化財の保存・整備】	
(1) 文化財指定の推進	62
(2) 文化財の保存・整備	63
(3) 伝統的建造物群保存地区の保存・整備の促進	64
【文化財の活用】	
(1) 文化財の魅力発信	65
用語説明	66

学識経験者の意見等

金沢大学名誉教授 佐藤 秀紀

平成28年度報告書を拝見したが、主要事務の評価について、これまでのものと重なる面もあるが以下に意見を述べてみたい。

(1) 構成について

- 1) 基本構成について：学校教育と生涯教育の振興基本計画の「方向性」に基づき実施事業を分類しているが、27年度には教育行政大綱が策定され、両振興基本計画を体系的に整理し、わかりやすく表現した基本方針を掲げているのであるから、それに基づく分類のほうが適切ではないかと思われるがいかがであろうか。
- 2) 事業の「施策」との関係について：振興基本計画の各「方向性」には「取り組むべき施策」が挙げられている。しかし、評価書では「方向性」の下に「事業名」がきており、事業と「施策」との関連が不明である。「取り組むべき施策」との関連性を示すことが必要ではないか。
- 3) 資料一覧作成について：各事業で多くの資料が作成されている。資料一覧を報告書最後に掲載し、本文引用することにより、活動実績広報の一助ともなるのではないか。

(2) 個別評価票について

1) 事業概要（目標・目的）

大きい目標だけで、当該年度の目標が明示されていない場合が多く見受けられる。事業にもよるが、当該年度の具体的な目標が明示されてこそ、評価が明確になると思われる。また、前年度の「課題・方向性」との関連記述があると流れが理解しやすい。

2) 実績と点検・評価

- ・可能なものは原則数値化と経年比較を行い、評価の明確化を目指してほしい。
- ・推進資料の作成やイベントの実施だけでなく、実態調査による効果の検証が欲しい。
- ・評価の根拠が明確なものもあるが、わかりにくい、あいまいなものも見受けられる。アンケート調査や全国的比較など、わかりやすい客観的根拠提示が望まれる。

(3) 特に関心を持った施策

1) 金沢ユネスコスクールの実践

全ての小・中学校の加盟達成が見込まれることになったことは大変素晴らしい成果である。今後は、これからのグローバル社会で活躍していく子供たちの為にも、地球的規模の課題を世界の子供達と連携して考えていく国際連携に力を入れてほしい。

2) コミュニティ・スクールのモデル事業の実施

学校運営協議会の設置が法的努力目標とされるのに向けて、当該年度はモデル校を設け課題を研究し、次年度のモデル校拡大の参考となる取り組みができたことは、地域に支えられた学校運営を進める上で大いに評価したい。

最後に、年を追って報告書は充実されてきていると実感する。今一步確実に推し進めるために、報告書の在り方に関する原則を今一度吟味・検討・徹底されますよう希望します。

ここ数年、点検・評価報告書に意見を寄せさせていただいてきました。今年度も「A」評価が並び、教育委員会のご努力を感じております。また、「B」評価についてもうまくいっていないというよりは、もっと何かできるのではないかと、という意欲を感じ、今後に大いに期待しております。ただ、以前にも指摘させていただきましたが、目的と目標の、それぞれの意識化がもう少し必要ではないかと感じる項目もあります。同じ目的でも異なるアプローチによって実現することが可能な場合もありますし（目標に届かない場合には、異なるアプローチを考え、異なる目標を立てることも考えられる）、目標に届いていないとしても実はすでに目的は果たしている場合もあると思います。アウトプット評価だけでなく、そのようなアウトカム評価も入れていくべきではないでしょうか。実はなされているものの、報告書には表現されていないのかもしれませんが。多くの人にとっては（すぐには）報告書でしか知ることはできないのではないかと推測すると、目標、目的に照らした評価とその分析になるよう取り組んでいただけると良いと思いました。また、年度内で思いがけず早く目標を達成し、さらに良い方法を取り入れ、新たな目標を立て、それを達成するということもあるのだらうと思います。そのような喜ばしい、予期せざる結果についても、ぜひ報告していただきたいと思えます。

さて、生涯学習は生活の様々な場面で行われます。そのため、生涯学習支援も教育委員会だけでなく、市長部局（一般行政部局）の部課局もかかわっています。平成 27 年 10 月には金沢市教育行政大綱が策定されました。これはその前の学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画を合わせた本市の教育振興基本計画を受けて策定されていますが、市全体の教育、学術及び文化の振興に関する施策を総合的に推進する方向を示すものとして重要な役割を果たすものと期待されます。平成 28 年度はその具体的なスタートの年といってもよいかもしれません。この教育行政大綱は教育行政に市長の考えを反映させやすくするものとされていますが、逆に、教育委員会が施策を実施するうえで、市長部局の理解と協力がより一層得られやすくなるように働くものでもありと期待しています。

昨年度は、家庭教育推進懇話会に参加させていただきました。金沢市教育委員会が家庭教育を支援するために何ができるのかということ、様々なお立場の方々と共に考え、また市民のご意見を伺いました。社会教育委員の方々にも大いに意見を届けてもらいました。平成 29 年度はその種を育て始める年度です。その取り組みの経過を社会教育委員の会議でも報告を受けております。これは、ほんの一例にしかすぎません。しかし、そのような報告を伺いながら、教育行政は多くの方の願いと行動（すぐには動かず、じっと見守ることも含めて）によって支えられていることを感じます。本報告書が、私たち市民が教育行政に対して何ができ、何をお待ちしたらよいのかを考える手掛かりとなることを期待しています。

平成28年度金沢市教育委員会の活動状況

〔1〕教育委員会（教育長及び教育委員）

平成28年4月1日～平成28年9月30日

職名	氏名	任期	職業
教育長	野口 弘	H28. 4. 1～H31. 3. 31	（教育長）
教育長職務代理	田邊 俊治	H25. 10. 3～H29. 10. 2	大学教授
委員	早川 芳子	H27. 10. 2～H31. 10. 1	会議通訳・翻訳者
委員	岡 能久	H24. 10. 1～H28. 9. 30	会社会長
委員	小山 信	H24. 10. 1～H28. 9. 30	医療法人社団理事
委員	河野 俊寛	H27. 1. 1～H30. 12. 31	大学教授
委員（保護者）	大島 淳光	H28. 4. 1～H32. 3. 31	会社社長

平成28年10月1日～平成29年3月31日

職名	氏名	任期	職業
教育長	野口 弘	H28. 4. 1～H31. 3. 31	（教育長）
教育長職務代理	田邊 俊治	H25. 10. 3～H29. 10. 2	大学教授
委員	早川 芳子	H27. 10. 2～H31. 10. 1	会議通訳・翻訳者
委員	岡 能久	H28. 10. 1～H32. 9. 30	会社会長
委員	河野 俊寛	H27. 1. 1～H30. 12. 31	大学教授
委員（保護者）	大島 淳光	H28. 4. 1～H32. 3. 31	会社社長
委員	丸山 章子	H28. 10. 1～H32. 9. 30	大学准教授

〔2〕教育委員会議の実施状況

1. 開催回数

定例会議：12回（原則として毎月第3水曜日）

臨時会議：4回（随時）

2. 付議件数

区 分	内 容	件 数
議 案	規則等に関する事	5
	議会の議決を経るべき議案に関する事	3
	人事に関する事	4
	教科用図書採択に関する事	2
	文化財の指定等に関する事	3
	委員の委嘱等に関する事	5
	教職員研修に関する事	1
	その他	12
	計	35
報 告		27
その他		32

3. 運営上の工夫

(1) 資料の事前配付

事前に内容についての検討等の準備を行うために、会議開催日の3日前までに議案書や資料等を送付した。

(2) 公開

会議は、人事に関する事や教育委員会に決定権のない案件、個人情報を含む案件等一部の非公開案件を除き、すべて公開で行うとともに、会議終了後、議案書及び関係資料並びに会議録について、金沢市のホームページにおいて公開している。

* 非公開案件：地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書（人事に関する事件その他の事件について、委員長又は委員の発議により、出席委員の三分の二以上の多数で議決したとき）に基づき非公開とされた案件

〔3〕教育委員会の活動

1. 学校訪問（総合訪問）

(1) 概要

学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況について把握するため、教育委員会のほか、教育委員会事務局の各課職員がそろって訪問する総合訪問を実施。

原則として小学校は3年に1回、中学校は2年に1回で全ての学校を訪問する。

(2) 総合訪問における教育委員会の訪問内容

- ・校長からの学校の概要説明

学校評価に基づく学校の課題と具体的な取組み等について

- ・教育委員会事務局からの学校の状況説明
- ・授業参観
- ・全教職員との意見交換と指導・助言 等

(3) 平成28年度の総合訪問実施状況

小学校	19校
中学校	9校
小中併設校	3校
高等学校	0校
教育委員会の延べ訪問者数	64人
意見交換を行った教職員数	872人

2. 教育委員会連絡会

平成21年度より、原則として定例教育委員会議終了後に教育施策に関する情報収集、意見交換、また教育委員会事務局職員との意見交換の場として実施している。

- ・各課所の重点事項、懸案事項等についての意見交換
- ・市議会報告
- ・他機関会議報告 等

3. 行政視察・調査及び研修等

(1) 行政視察・調査

日時 平成28年8月25日(木)～26日(金)

目的 他都市の先進的な取組みを今後の教育施策の参考とするため

視察先及び視察・調査内容

- ・鶴岡市教育委員会
特別支援教育コーディネーター養成制度についての意見交換
- ・鶴岡市立櫛引中学校
特別支援教育コーディネーター養成制度の事例等紹介、意見交換

(2) 全国、東海北陸地区、石川県教育委員会連合会の関係行事、研究大会、研修会への参加

- ・全国市町村教育委員会連合会会長就任(田邊教育委員、任期2年目)
- ・全国市町村教育委員会研究協議会
- ・石川縣市町教育委員会連合会定期総会・講演会
- ・石川縣市町教育委員セミナー
- ・石川県教育委員会連合会研究大会 等

(3) 全国都市教育長協議会、中核市教育長連絡会、東海北陸都市教育長協議会、石川縣市町教育長会の総会、協議会、研究大会、研修会への参加

4. その他

- (1) 会議等への出席
 - ・家庭教育推進懇話会にオブザーバー参加
 - ・校長会議における市長講話にオブザーバー参加
- (2) 選考
 - ・市立工業高等学校教員採用候補者
 - ・市立小中学校管理職（校長・教頭）候補者内申のため
- (3) 講話等（専門性を活かした活動）
 - ・通級指導教室担当者研修における講話
- (4) 金沢市、金沢市教育委員会、各学校等主催行事への参加
 - ・教育施設の開校式
 - ・第66回高峰賞授与式
 - ・第32回宮村英語奨励賞授与式
 - ・第37回岡文化賞表彰式
 - ・小学校、中学校、市立工業高等学校卒業式 等

〔4〕総合教育会議と教育行政大綱

1. 金沢市総合教育会議の開催

平成27年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で構成される会議であり、教育行政に関する大綱の策定や教育を行うための諸条件の整備、地域の実情に応じた教育の振興を図るための講ずべき施策等について協議、調整を行い、より一層民意を反映した教育行政の推進を図る。

(1) 会議の概要

- ・会議は、市長が主宰する。
- ・会議において調整が行われた事項については、結果を尊重しなければならない。
- ・会議は、原則公開する。ただし、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき等はこの限りでない。
- ・会議の終了後、議事録を作成し、ホームページへの掲載等により原則公表する。ただし、会議を非公開で実施した部分についてはこの限りでない。

(2) 開催日及び協議題

- ・平成28年5月27日
 - 「金沢市総合教育会議運営規程の一部改正について」
 - 「今後の学校図書館及び学校司書のあり方について」
- ・平成28年12月2日
 - 「本市における家庭教育の推進について」

2. 金沢市教育行政大綱の策定（平成 27 年 10 月）

金沢の教育振興基本計画として、「学校教育」を通じた「ひとづくり」、「生涯学習」を通じた「ひと・まちづくり」を進めるため、金沢市学校教育振興基本計画及び金沢市生涯学習振興基本計画に掲げた施策の方向性を体系的に整理し、わかりやすい言葉で表現した5つの基本方針を掲げた「金沢市教育行政大綱」を総合教育会議において市長と教育委員会が協議、調整し、平成 27 年 10 月に策定した。

基本方針

「金沢市学校教育振興基本計画」及び「金沢市生涯学習振興基本計画」の両計画を体系的に整理し、学校教育と生涯学習を通じて、「ひと・もの・こと（人材、教育、学習、環境など）」を「育てる（育成）・整える（充実）・高める（向上）・支える（支援）・進める（推進）」ことをめざし、5つの基本方針を定める。

1. 未来を担う人材の育成

2. 特別支援教育の充実

3. 家庭・地域の教育力の向上

4. 生涯を通じた学びの支援

5. 教育・学習環境整備の推進

〔5〕学校教育振興基本計画と生涯学習振興基本計画

1. 金沢市学校教育振興基本計画の策定（平成27年1月）

本市学校教育の一層の振興を図るため、中長期の視点に立った学校教育のめざすべき姿や取り組むべき施策等を明らかにした「金沢市学校教育振興基本計画」を平成27年1月に策定した。また、計画に掲げる「めざすべき金沢の子ども像」をわかりやすく、覚えやすい言葉で表現するため、市内の中学生によるプロジェクト活動により、子どもたちの考え方や行動の基本的な約束事「金沢子どもかがやき宣言」を制作した。

基本理念

明日を拓き 社会を担う 金沢発のひとづくり
～『心』と『力』を育む学校教育～

めざすべき金沢の子ども像

本市の学校教育を通して、明日を生き抜き、社会を担うために必要となる多様な「心」と「力」を身に付けてほしいことから、より具体的な言葉で6つの子ども像を示した。

- (1) 自ら学び、自ら考え、創造する子
- (2) 正しく判断し、責任を持って行動する子
- (3) 自他ともに認めあい、お互いを高めあう子
- (4) 心身ともに健康で、たくましく生きぬく子
- (5) 夢を抱き、何事にも粘り強く挑戦する子
- (6) 金沢に誇りを持ち、ふるさとを愛する子

金沢子どもかがやき宣言

金沢子どもかがやき宣言

- 一 すすんで学び、考えます
- 二 きまりや約束を守ります
- 三 すんであいさつをします
- 四 笑顔を大切にします
- 五 思いやりの心を大切にします
- 六 ありがとうの気持ちをお伝えします
- 七 毎日元気にすごします
- 八 夢に向かって挑戦します

わたしたちは、
ふるさと金沢を愛し、誇りを持ち、
未来に向かってかがやくように行動します

2. 金沢市生涯学習振興基本計画の策定（平成27年9月）

金沢市における生涯学習の一層の振興を図るため、今後10年間（平成28年度～平成37年度）の生涯学習のめざすべき姿や施策等を明らかにした、「金沢市生涯学習振興基本計画」を平成27年9月に策定した。

基本理念

ともに学び ともに拓く 創造性あふれる 金沢のひと・まちづくり

めざす学びの姿

本計画では、「金沢市民憲章」（昭和54年5月）が提唱する5つの目標を「学び」に取り組む姿として示すとともに、これらを市民と行政がともにめざす基本目標として位置づけている。

- （1）社会の変化に対応し、新たな自己を開拓することのできる学び
- （2）健康で生きがいのあるくらしのために楽しみながら取り組むことのできる学び
- （3）ふるさとを愛し、人を思いやる豊かな心を持つことのできる学び
- （4）仲間とともに手をつなぎ、課題を共有し、解決することのできる学び
- （5）金沢の伝統・文化を活かした個性あるまちを創ることのできる学び

〔6〕点検評価及び今後の方向性

- ・ 教育委員会議については、会議開催3日前までの資料の配付や教育委員会連絡会の開催を通じて審議内容について事前に情報提供を行うことで、活発な議論及び意見交換を推進しながら、慎重かつ十分な審議を行った。
引き続き、会議の公開、ホームページでの会議録等の公開等により教育行政の透明化及び情報発信に務めたい。
- ・ 総合訪問については、原則として小学校は3年に1回、中学校及び高等学校は2年に1回の訪問を行っており、平成28年度は小中学校31校において実施した。
各学校の運営方針、活動状況に加え、施設、教育環境の把握、授業の参観等、教育施策の推進に取り組む上で重要となる教育現場の状況の把握に役立った。
今後、教職員等との意見交換の機会をさらに確保し、教育委員会が現場の実情をより感じられるよう努めたい。
- ・ 多様化、複雑化する教育行政課題に対し、施策を効果的かつ適切に推進していくためには、課題への理解を十分に深めた上で取り組むことが求められる。教育

委員会議や総合教育会議に諮る案件のうち、特に重要な案件については、事前に連絡会を開催し、課題に対する現状報告、資料提供及び協議を行い、活発な意見交換を行った。

今後も、連絡会を積極的に活用し、情報収集を行う。

- 行政視察では、先進的な取り組みを行っている他都市の事例について理解を深め、教育委員会としての知見を広めた。
また、教育委員会連合会の活動においては、全国組織の会長を務めている委員もいることから、国の動向をはじめとする全国規模の教育行政にかかる情報収集が図られた。
引き続き、教育委員会向けの情報誌やセミナーの開催案内など、より一層の自己研鑽を積める機会の提供に努める。
- 教育委員会が幅広い情報収集を行うとともに市政への理解を深めるため、各種会議へのオブザーバー出席や、教育関係の各種行事に積極的に参加した。他方、専門性を活かした講話等を実施し、情報発信にも努めた。
- 総合教育会議については、事前に教育委員会連絡会を開催して協議事項に関する理解を深め、活発な意見交換を行った。
今後、この会議において策定した「金沢市教育行政大綱」、また、本市の教育振興の両輪となる「金沢市学校教育振興基本計画」及び「金沢市生涯学習振興基本計画」を実践し、教育行政に関する施策を総合的に推進していく。

平成28年度金沢市教育委員会施策概要及び主要事務の評価について

事務管理及び執行状況については、教育行政大綱の具現化に向けて、学校教育振興基本計画及び生涯学習振興基本計画の方向性に基づいた52の実施事業について、その「事業概要」、「実績と点検・評価」及び「今後の課題と方向性」を示し、次のA～Dの4段階で評価を実施しました。

評価区分	評価結果（全体）
「A」：十分達成できた	48事業（48事業／52事業：92.3%）
「B」：おおむね達成できた	4事業（4事業／52事業：7.7%）
「C」：やや不十分であった	0事業（0事業／52事業：0%）
「D」：達成できなかった	0事業（0事業／52事業：0%）

実施事業の評価は以下のとおりです。

金沢市学校教育振興基本計画

【方向性1】豊かな人間性を育む教育に取り組みます

- (1) 金沢型学校教育モデルの実践
- (2) 金沢「絆」活動の推進
- (3) いじめ・不登校・問題行動対策の充実
- (4) 金沢型工業教育モデルの推進
- (5) ものづくり教育の充実
- (6) 学校司書の資質・能力向上のためのサポート体制強化

評価

A

A

A

A

A

A

【方向性2】確かな学力を育む教育に取り組みます

- (1) 金沢型学習スタイルの推進
- (2) ICT機器活用教育の推進
- (3) 小中一貫英語教育の充実

評価

A

A

A

【方向性3】健康や体力を育む教育に取り組みます

- (1) 学校給食調理場施設整備の推進
- (2) 学校給食の充実
- (3) 健康教育プラン2014の実践
- (4) 中学校部活動の振興

評価

A

A

B

A

【方向性4】ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます

- (1) 金沢ふるさと学習の推進
- (2) 金沢ユネスコスクールの実践
- (3) 防災教育の実践

評価

A

A

A

【方向性5】特別支援教育の充実に取り組みます

- (1) 特別支援教育サポートセンターに関する基本構想の策定
- (2) 特別支援教育の充実

評価

A

A

【方向性6】福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます

- (1) 教育相談の充実（多様化・複雑化への対応）

評価

A

【方向性7】家庭、地域と連携したひとつづくりに取り組みます

- (1) コミュニティ・スクールのモデル事業の実施

評価

A

【方向性8】教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます

- (1) 新学校規模適正化計画の策定
- (2) 学校施設の耐震化の推進
- (3) 泉小学校と泉中学校の一体的整備
- (4) 学校施設整備の推進
- (5) 教育環境（ICT機器）の充実
- (6) 校務士配置体制の整備
- (7) 教職員・保育職員研修の充実
- (8) 市立工業高等学校の優秀な教員確保
- (9) 児童生徒の就学援助

評価

A

A

A

A

A

A

A

A

A

金沢市生涯学習振興基本計画

【方向性1】すべてのライフステージにわたる

多様な学習ニーズへの対応に取り組みます

- (1) 市民大学講座の充実
- (2) 地域コミュニティ活性化支援事業の充実
- (3) 高砂大学校・高砂大学院の開設
- (4) Book Bankモデル事業の実施
- (5) 読書普及活動の推進

評価

A

B

A

A

A

【方向性2】 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます

- (1) 家庭教育振興室の設置
- (2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動の推進
- (3) 次代を担う青少年の育成
- (4) 人権教育の推進
- (5) 金沢子ども読書推進プラン21（第三次）の実践

評価

A

A

A

A

A

【方向性3】 市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます

- (1) 図書館機能充実策の検討事業の実施
- (2) 図書館の機能を活用した課題解決支援

評価

A

A

**【方向性4】 学習の拠点整備・情報システムの活用など、
生涯学習環境の充実に取り組みます**

- (1) キゴ山3施設の統合
- (2) 宇宙教育の推進
- (3) キゴ山の豊かな環境を活かした里山教育の推進
- (4) 長土堀青少年交流センター（仮称）の整備
- (5) 地区公民館の施設整備

評価

B

A

B

A

A

【方向性5】 金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます

- (1) ふるさと教育の推進
- (2) 姉妹都市提携図書館との交流促進

評価

A

A

文化財の保護

【文化財の保存・整備】

- (1) 文化財指定の推進
- (2) 文化財の保存・整備
- (3) 伝統的建造物群保存地区の保存・整備の促進

評価

A

A

A

【文化財の活用】

- (1) 文化財の魅力発信

評価

A

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
--------	--

1. 事業名

金沢型学校教育モデルの実践

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成28年度
- 「金沢市学校教育振興基本計画」の基本理念やめざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢型学校教育モデル実践支援事業（事業費：9,400千円）
- 「金沢型学習プログラム」、「金沢型学習スタイル」のうち、自校の教育課題に適したテーマを選択し研究を行った。
重点指定校（小13校、中5校）、一般指定校（小42校、中19校）
- 重点指定校による事業報告会及び公開研究発表会を実施した。
- 各校の取組状況をとりまとめて、冊子として全小・中学校へ配付した。（3月）

<点検（分析）>

- 事業報告会、公開研究発表及び冊子の作成・配付を通じ、学校間で取り組み成果を共有することができ、また、教員の指導力向上にもつながった。
重点指定校連絡会（重点指定校のうち小中各1校発表、18校36名参加）
公開研究発表（6月～12月）
のべ3,840名参加（一般指定校を含む20校（小16校・中4校））

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- ベテラン教員が退職し若手教員が増加する中で、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進するためには、各学校において研究推進体制を組織的に構築することが必要である。そのためには、管理職の意識向上や、教務主任・研究主任など各主任層の育成が重要であり、次年度の金沢型教育モデル実践支援事業報告会における全指定校の発表を通じて、全小・中学校に広めていく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
--------	--

1. 事業名

金沢「絆」活動の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 「金沢子どもかがやき宣言」に基づく実践を通して、人と人との「絆」を大切にしながら、責任感、思いやり、向上心、行動力、コミュニケーション能力などの心と力を磨く児童会・生徒会活動を推進する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢「絆」会議の開催（事業費：229千円）
「金沢子どもかがやき宣言」に基づいたテーマについて、自分たちにできる取組を生徒自らが話し合う会議を開催した。（参加児童生徒：103人）
- 金沢「絆」プロジェクトの実施（事業費：56千円）
金沢「絆」会議で決定した「ありがとうの気持ちを伝えます」のテーマを基に、清掃活動や感謝の気持ちを伝えるメッセージカードの作成など、全小・中学校共通の取組を具現化し、主体的な児童会・生徒会活動を展開した。
- 金沢「絆」の日（7月28日）
児童会・生徒会が中心となり、ゴミ拾いなど、保護者や地域の方々とも連携した活動を実施した。

「金沢『絆』の日」参加人数

児童生徒	32,200人
職員	1,600人
保護者	3,200人
地域の方	1,100人
合計	38,100人

- 心と心をつなぐ「絆」体験事業の実施（事業費：749千円）
絆づくりの推進といじめ、不登校、問題行動を未然に防止するため、中学校1年生を対象とした宿泊体験を実施した。（参加校：8校）

<点検（分析）>

- 児童会・生徒会が中心となって実施する地域清掃活動等を通じて、保護者や地域とのつながりを深めることができた。
- 金沢「絆」会議を通じて、学校間で活動内容を共有することができた。
- 金沢「絆」プロジェクトの取組をポスターにして各小・中学校に掲示することにより校内に周知を図ることができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 児童会・生徒会活動の主体性を育てながら、取組を日常的なものとして根付かせるために、話し合いや事前事後の活動を充実させるとともに、取組状況を検証・改善していく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
--------	--

1. 事業名

いじめ・不登校・問題行動対策の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 生徒指導支援室（学校指導課内）が中心となり、警察・児童相談所など関係機関と連携しながら、いじめ・不登校・問題行動の未然防止、早期発見、早期解決を図るため、学校や保護者からの相談に迅速かつ適切に対応する。
- 「心と学びの支援員」「心の絆サポーター」「スクールカウンセラー」の派遣に加え、新たに法律の知識と経験を有する警察OBを「危機管理アドバイザー」として生徒指導支援室に配置し、学校が一層迅速かつ的確に対応できるよう支援する。
- ネットいじめ防止講演会やいじめに関するアンケートの実施等により、いじめを許さない学校づくりを推進する。

3. 実績と点検・評価

- <実績>
- 生徒指導支援室における年間対応事案件数（右表）
 - 心と学びの支援員の派遣（事業費：21,176千円）
別室登校の児童生徒に対する学習支援・相談業務を担った。（36校に派遣）
 - 心の絆サポーターの派遣（事業費：6,102千円）
不登校など問題を抱える児童生徒に対して家庭訪問等を行い、登校支援や児童相談所等の関係機関と連の携役を担った。
 - 危機管理アドバイザーの派遣（事業費：2,305千円）
定期・要請による学校訪問（184件）や犯罪行為等への指導助言（68件）を行った。

	H27	H28
	985件	1,197件

	H27	H28
派遣人数	3名	3名
支援回数	1,537回	2,232回
支援した児童生徒	32名	46名

- <点検（分析）>
- 危機管理アドバイザーによる積極的な学校訪問体制が整った結果、校内巡視や学校長等との面談等を通して各校の現状を早期に把握することが可能となり、問題行動や保護者の多様なニーズへ迅速かつ的確な初期対応を行うことができた。

評価	A
----	---

4. 今後の課題と方向性

- いじめ・不登校・問題行動等についての保護者からの相談や苦情、対応が長期化するおそれのある事案等に引き続き迅速に対応できる体制を整え、学校の負担を軽減するとともに、関係機関との密接な連携の下に早期解決を図っていく必要がある。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
--------	--

1. 事業名

金沢型工業教育モデルの推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 金沢型工業教育モデル(平成27年度策定)において、入口(生徒募集)、中身(教育)、出口(就職・進学支援)の段階ごとに提言された取り組むべき具体的戦略を推進する。
 1. 入口戦略：情報発信を強化し、ものづくりに興味・関心のある生徒を確保
 2. 中身戦略：①課題解決的学習を導入し、ものづくり教育の更なる充実を図る。
 - ②部活動や地域貢献活動等の課外活動に積極的に参加する。
 - ③教員の資質、技能を向上する。
 - ④産業界や大学との連携を促進する。
 - ⑤教育環境を改善する。
 3. 出口戦略：キャリア教育を強化する。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：1,020千円

- 入口戦略：学校紹介コンテンツなどホームページを改善し情報発信を強化
体験入学開催回数を2回に増やすとともに、ものづくり体験を充実
- 中身戦略：補助制度を創設して生徒の資格取得の取り組みを推進
ユネスコ創造都市の先進的工業高校への教員の視察研修の実施
- 出口戦略：キャリア教育推進室を新設し、進路指導を強化

<点検（分析）>

- 入口戦略：入学した生徒の大半が体験入学に参加しており、ものづくりに関心のある生徒が本校への進学を決定する上で成果を上げた。
- 中身戦略：生徒の資格取得への積極的な取り組みを奨励し、合格者を増やした。
- 出口戦略：3年間を見据えた計画的なインターンシップの実施など、キャリア教育の充実を進めることができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 入口戦略：情報発信力のより一層の強化と、ものづくりに関心のある生徒の確保
- 中身戦略：企業、大学との連携を深め、教員のさらなる資質・技能を向上させる。
実習機器・ICT機器を整備し教育環境を改善する。
- 出口戦略：進学を希望する生徒への低学年時からの大学訪問の実施

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
--------	--

1. 事業名

ものづくり教育の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 職人や熟練技術者による技術指導
職人大学校や職業能力開発協会との連携により、木造建築や金属加工等の優れた技術の習得を図る。
- 就業体験の実施
就業体験（1週間又は2週間程度）を実施し、職業人としての厳しさ・心構えや工業人としての基礎的な技術の習得を図る。
- 充電式電池を動力とする電気自動車の製作
産学連携によるものづくりを通して、生徒の技能向上を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：5,315千円

- | | | | |
|----|-----|-----|-----|
| | H26 | H27 | H28 |
| 2級 | 3 | 5 | 10 |
| 3級 | 108 | 108 | 99 |
| 計 | 111 | 113 | 109 |
- 技能検定合格者数
 - 主な競技会実績
 - ・ものづくりコンテスト県大会 2部門優勝
 - ・ものづくりコンテスト北信越大会優勝(木材加工)
 - ・全国ソーラーラジコンカーコンテスト 2位
 - 電気自動車の製作
 - ・鈴鹿サーキットで開催されたレースへ出場（91チーム中41位）

<点検（分析）>

- 職人や熟練技能者の指導を受けて生徒の技能向上を図ることができた。
- 技能検定合格者数において、難関資格である2級合格者が倍増した。
- 電気自動車の製作では、昨年度の成績（84チーム中78位）を大幅に上回り、自動車制作の知識や技術力の向上を達成することができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 技能検定の合格者をさらに増やしていくため、生徒への各種資格取得を一層奨励するとともに、学校を挙げて指導力の向上や実習機器の充実など教育環境の整備を推進し、地域はもとより我が国のものづくりを担う工業人材の育成に努める。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 1 豊かな人間性を育む教育に取り組みます
--------	--

1. 事業名

学校司書の資質・能力向上のためのサポート体制強化

2. 事業概要（目標、目的）

- 平成23年度から配置している学校司書について、必要な専門知識や技術を習得する研修会等の開催によって資質向上を図る。
- サポート体制を強化するため平成27年度に設けた学校司書総括補佐を学校図書館アドバイザーに変更し、学校訪問を充実させる。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：94,335千円（うち資質・能力向上に係る経費 2,780千円）

- 定例研修に、ふるさと金沢の個性を生かした教育を推進するため、「金沢ふるさと学習」を取り入れることで、学校司書の資質向上を図った。
- 学校司書の支援を強化するため、学校図書館アドバイザーを1名から2名に増員し、各学校を訪問する回数を増やした。また、学校図書館アドバイザーが定例研修の企画立案から実施に関わった。

<点検（分析）>

- 「金沢ふるさと学習」に関する研修を実施したことで、学校司書による資料の収集や図書館環境の整備が進み、児童生徒の金沢の歴史・伝統、偉人、食文化への理解が深まった。
- 学校図書館アドバイザーによる学校訪問回数が前年度に比べ、約8倍の130件となった。
また、学校図書館の現状を確認した上で、実情に即した指導助言ができたことから、学校司書の支援体制の強化が図られた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 学校司書の授業へのさらなる活用の推進、司書教諭をはじめとした校内での連携・協力体制の強化を図る。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性2 確かな学力を育む教育に取り組みます
--------	--------------------------------------

1. 事業名
金沢型学習スタイルの推進

2. 事業概要（目標、目的）
○ 「金沢型学習スタイル」の教育活動を全小・中学校教員に意識付けて、定着させることにより、指導力の向上を図る。

3. 実績と点検・評価		
<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 金沢型学習スタイル映像資料の作成（事業費：429千円） 教員一人一人が金沢型学習スタイルの理解を深め、授業改善を図るためのDVDを作成し、全小・中学校に配付した。 小学校は国語・算数、中学校は国語・数学について作成 ○ 金沢型学校教育モデル指導事例集の作成（事業費：1,453千円） 小・中学校教員による教科別のグループ毎に指導方法を研究するとともに、指導事例集を作成し、全小・中学校に配付した。 研究グループ：国語、社会、算数・数学、理科、体育・保健体育、英語 ○ 学力向上対策係の設置 学力向上支援訪問や各種学力調査結果等の集計分析を行い、指導助言を行った。 <p><点検（分析）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校での映像資料の活用や、事例集を用いた研究発表会の開催などを通じて、市立小・中学校教員へ金沢型学習スタイルの普及を図ることができた。 (指導事例集に係る研究発表会参加人数466名) 		
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td style="width: 100px;">評価</td> <td style="width: 100px;">A</td> </tr> </table>	評価	A
評価	A	

4. 今後の課題と方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校訪問等において、金沢型学校教育モデルに基づく実践となっているのか、具体的に指導・助言するとともに校内研修や日々の授業における指導事例集・スタイル映像資料の有効な活用を促す必要がある。 ○ 各種学力調査結果等の集計分析及びその結果に基づき、学力向上支援訪問において各小中学校の取組を検証するとともに、市全体の取組の構築を図る。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性2 確かな学力を育む教育に取り組みます
--------	--------------------------------------

1. 事業名

I C T機器活用教育の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 中学校用教科書の改訂（採択替え）に伴う全中学校への理科デジタル教科書（全学年セット）の整備やタブレット端末の導入により、I C T機器を活用した授業を促進し、児童生徒の学習意欲の向上及び学習内容の定着を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 全中学校に理科デジタル教科書（全学年セット）を整備した。
（中学校教材整備費／理科デジタル教科書購入費：4,822千円）
- I C T機器活用教育実践事業（事業費：1,402千円）
より効果的な授業の実践のため、各学校の特別支援学級等で活用するタブレット端末（各校1台）を整備した。（整備台数：76台）

<点検（分析）>

- 中学校用教科書の改訂に合わせて、理科デジタル教科書を全中学校に整備したことにより、教員用タブレットや電子黒板等のI C T機器を活用した効果的な授業が、総合訪問等において見られた。
- タブレット端末の整備により、授業の教材の幅が広がったことに加えて、教員と児童生徒のコミュニケーションが円滑化し、特別支援の児童生徒がもつ学習面や生活面での心理的ストレスが軽減され、学習意欲の向上につながった。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- I C T機器やデジタル教材に関する環境は、変化が激しく、また、大規模な整備を行う場合、その費用は莫大なものとなる。今後は、国の第3期教育振興基本計画に合わせて示される予定であるI C T環境の整備目標等を踏まえて、本市における整備方針等について、専門家・学識経験者の意見を取り入れた検討を進める必要がある。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性2 確かな学力を育む教育に取り組みます
--------	--------------------------------------

1. 事業名

小中一貫英語教育の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成16年度
- 市独自の副読本も用いながら、ふるさと金沢の歴史・文化、自分の思いや意見を英語で世界に発信できるコミュニケーション能力の育成をめざす。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 小中学校英語副読本を印刷・活用した。（事業費：7,323千円）
- 英検 Jr.（小6）・英検 IBA（中3）及び英語学習アンケートを実施した。
（事業費：4,637千円）

	27年度	28年度
英検 Jr. 正答率	61.6%	62.0%
英検 IBA 英検 3級以上 判定率	60.6%	62.9%

※～H26年度まで
小6…児童英検
中3…英語能力判定テスト

<点検（分析）>

- 市が独自に作成した副読本やデジタル教材を有効に活用した授業が行われた。
- 英検 3級程度以上の英語力をもつ生徒の割合が増加し、英語教育の成果が見られた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 小・中学校間での学習内容の変化に生徒が対応できるよう、英語教育担当者連絡会の開催や、小中一貫英語教育推進アドバイザー、英語担当指導主事等の授業訪問等での指導・助言を充実させるなど、小中連携による授業力向上を図る。
- 平成32年度からの新学習指導要領全面実施に向け、金沢市小中一貫英語教育検討委員会を設置し、本市のこれまでの成果を検証するとともに、今後の方向性を検討する。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性3 健康や体力を育む教育に取り組みます
--------	--------------------------------------

1. 事業名

学校給食調理場施設整備の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 施設・設備の老朽化、児童生徒数の減少等に対応するため、金沢市学校給食調理場再整備計画（平成22年度）に基づき、調理場の再整備を進める。
- 衛生管理水準の向上及び効率的な運営のため、学校給食調理場の施設設備の充実を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 共同調理場施設衛生環境改善事業（事業費：16,700千円）
床改修、手洗い設置等工事（緑共同調理場）
- 共同調理場施設改良事業等（事業費：55,700千円）
変圧器取替工事（西部共同調理場）等
- 単独校調理場施設改良事業（事業費：10,700千円）
給食用小荷物昇降機改修工事（三谷小学校他9校）等

<点検（分析）>

- 再整備計画における存続予定の6共同調理場において、施設の改修工事により、衛生管理水準の向上を図った。
- 施設設備の更新等により、給食施設の向上を図った。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 再整備計画及び改修計画に基づく施設設備の更新により、給食施設の安全確保と衛生管理水準の向上を進める。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性3 健康や体力を育む教育に取り組みます
--------	--------------------------------------

1. 事業名

学校給食の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 健康への配慮、栄養の確保、食育の推進等に配慮しながら、安全でおいしい学校給食を提供する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 献立年間計画及び食・献立に関する指導年間計画の作成
- 児童生徒からの学校給食献立の募集及び最優秀献立による学校給食の実施
平成28年度応募総数 3,816点（平成27年度 3,617点）
- 地元産の旬の食材を使用した献立や加賀野菜等を使用した郷土料理の提供
平成28年度地場産物の使用状況（品目） 35.1%（平成27年度 35.7%）
- 食物アレルギーにおけるアレルゲンの個別表示等に対応した新システムを導入

<点検（分析）>

- 幅広い食品の使用や多様な調理法の組合せにより食事内容に配慮し、栄養摂取の充足に留意した。
- 季節や旬にも配慮し、地場産物の野菜や果物、魚等について、可能な限り取り入れた。
- アレルゲンの個別表示等に対応したシステム導入により、食物アレルギー事故の未然防止を図った。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 様々な食品と多様な調理法の組み合わせにより、児童生徒の栄養摂取の充足を図るとともに、学校給食を生きた教材として、食習慣の形成や食文化の継承を図る。
- 「学校における食物アレルギー対応指針」に基づき、教育委員会、学校、関係機関が連携し、食物アレルギー事故の防止に努める。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性3 健康や体力を育む教育に取り組みます
--------	--------------------------------------

1. 事業名

健康教育推進プラン2014の実践

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成26年度 計画期間：平成26年度～平成30年度
- 健康教育をさらに推進するため、平成25年度に策定した「金沢市健康教育推進プラン2014」に基づき、家庭（地域）や三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）等と連携し、具体的な取組を実践する。

※「金沢市健康教育推進プラン2014」における7つの重点的健康課題

- ①心の健康 ②体力の増進 ③けがの防止／病気の予防 ④食育
- ⑤歯・口の健康 ⑥性に関する指導（生命尊重） ⑦喫煙・飲酒・薬物乱用防止

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 課題別スキルアップ事業（事業費：241千円）
のべ12校において、専門家による教職員への研修を実施した。
- 保護者とともに取り組む受動喫煙防止講座の実施（事業費：424千円）
全小中学校において、受動喫煙防止講座を開催した。

<点検（分析）>

- 7つの重点的健康課題から、各学校が選択した健康課題について、健康教育全体計画及び具体的な年間指導計画を作成し取り組んだ。

評価

B

4. 今後の課題と方向性

- 中学校区内において、学校によって異なる優先的健康課題を選択している場合があるが、子供の生涯に通じる健康的な生活習慣を培うため、小中が連携し9年間を見通した系統性を踏まえた指導を行う必要がある。
- 次期プラン策定に向けて、金沢市健康教育推進委員会の開催やアンケート調査等の実施を通じ、現行プランの推進状況や課題を把握した上で、今後の健康教育の在り方を検討する。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 3 健康や体力を育む教育に取り組みます
--------	---------------------------------------

1. 事業名
中学校部活動の振興

2. 事業概要（目標、目的）
○ スポーツ・文化活動を通して、豊かな人間性と健全な身体の形成を図るため、中学校部活動で使用する機材の整備等、各学校への支援体制の充実に取り組む。

3. 実績と点検・評価

<p><実績></p> <p>○ 中学校部活動振興費（事業費：6,078千円） 教員の高齢化や専門性を持った指導者不足の解決を図るため、地域の外部指導者の派遣人数を拡充した。（16名→32名）</p> <p>○ 中学校部活動大型備品整備費（事業費：4,406千円） 学校において、普段購入することが難しい高額な備品（楽器等）を各学校に整備した。（学校規模に応じ、1校あたり1～2備品を平成28年度から4年計画で整備）</p> <p>○ 中学校部活動大会派遣援助費（事業費：3,562千円）※対象経費の1/2を援助 関係競技団体が主催する北信越ブロック大会及び全国大会の参加に要する経費の援助に対して、対象とする経費を拡充した。 対象経費：旅費（移動費及び宿泊料）、機材等運搬費（平成28年度～追加）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣校数</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>派遣人数</td> <td>16</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>のべ派遣時間(H)</td> <td>300</td> <td>524</td> </tr> <tr> <td>事業費(千円)</td> <td>328</td> <td>582</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H27	H28	派遣校数	11	16	派遣人数	16	32	のべ派遣時間(H)	300	524	事業費(千円)	328	582
区分	H27	H28														
派遣校数	11	16														
派遣人数	16	32														
のべ派遣時間(H)	300	524														
事業費(千円)	328	582														

<p><点検（分析）></p> <p>○ 外部指導者の派遣人数の拡充により、生徒の競技力及び教員の指導力の向上につながった。（全国中学校体育大会出場生徒数 平成28年度78名）</p> <p>○ 部活動備品の整備により、古い楽器を更新したり、ピッチングマシン等の新たな機器を導入することができ、練習効率が向上したほか、活動の幅も広がった。</p> <p>○ 生徒の移動や宿泊に関する経費のほか、吹奏楽部の楽器等の運搬に関する経費も援助対象とすることで、学校及び生徒の負担軽減につながった。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%;">評価</td> <td style="width: 50%;">A</td> </tr> </table>	評価	A
評価	A		

4. 今後の課題と方向性

○ 中学校部活動に関しては、ニーズの多様化、指導者の不足、教員の多忙化など、様々な課題を抱えており、その解消のためには更なる支援が求められる。 今後も各学校の要望も踏まえながら、支援体制の充実に努める。 大会派遣援助費について、安全確保の観点からも更なる対象拡大を検討していく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 4 ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます
--------	---

1. 事業名

金沢ふるさと学習の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- ふるさとや偉人に関する調べ学習や学習成果の発表を通して、金沢のまちに愛着と誇りをもち、まちづくりの担い手を育成する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢ふるさと学習推進費（事業費：2,170千円）
 - ・ 金沢ふるさと学習で作成した児童生徒の成果物の展示会を実施した。
期間：平成29年1月4日(水)～22日(日)、会場：金沢ふるさと偉人館
入館者数：1,576人（一般931人、高校生以下645人）
 - ・ 金沢ふるさと学習の時間に活用する地域人材の派遣助成を行った。
活用校数：46校、派遣人数：のべ346人、活用時間数：1,387時間

- 金沢ふるさと学習（偉人教育）推進費（事業費：2,975千円）
 - ・ 小学生が社会科や総合的な学習の時間に、偉人に関連する施設やゆかりの地等を見学する場合のバス代を助成した。

年度	H26	H27	H28
利用校数	27校	27校	24校
利用バス台数	59台	57台	52台

}

※対象 ～H25：4年生
H26～：全学年に拡大

- ・ 中学生を対象に、「金沢の偉人」の生き方や考え方と、それらに触れることで考えた自分の生き方をテーマとした作文コンクール「偉人に学ぶ自分の生き方・夢作文」を実施した。
応募数：全市立中学校(24校)から68点
入賞数：最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点（H28：優良賞を新設）
- 小学校社会科教材作成費（事業費：6,838千円）
「のびゆく金沢」を小学校3年生に、「華やか金沢」を小学校3、4年生に配付した。
(H28:「華やか金沢」配付学年を3年生以上に拡大)

<点検（分析）>

- 金沢ふるさと学習に係る地域人材派遣助成、施設見学バス代助成、教材配付等により、金沢ふるさと学習を推進することができた。
- 金沢ふるさと学習作品展示会を金沢市小中学校合同展と同時期に開催することで、各校の取組状況等を学校関係者だけでなく、保護者や市民により広く発信することができた。

評価	A
----	---

4. 今後の課題と方向性

- 地域人材派遣助成、施設見学バス代助成について、学校からの高いニーズに応じることができるよう、更なる拡充に努める。
- 偉人に学ぶ自分の生き方・夢作文について、引き続き周知を図るとともに、夏季休業を有効活用して取り組めるよう働きかける。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 4 ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます
--------	---

1. 事業名

金沢ユネスコスクールの実践

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成21年度
- ユネスコスクールとして、人と社会・自然・世界などのかかわりについて学ぶ機会を設けるとともに、自己の価値観や生き方を見直し、持続可能な社会の構築に向けて行動できる児童生徒の育成を行うため、全校のユネスコスクールへの加盟を目指すとともに、各校の活動内容について共有を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢ユネスコスクール推進事業（事業費：1,809千円）
- 教員参加の交流会議や全小・中学校児童生徒参加の「金沢ユネスコスクール子どもサミット」（H28～）を開催し、ユネスコスクールへの更なる理解と学校間の情報交流を行った。サミットで作成したポスターは市庁舎エントランスホールに展示し、市民への発信に努めた。
(展示期間：H29. 2. 13～24)
- H28で全ての未加盟校がユネスコスクールへの加盟申請を行った。

年度	H24	H25	H26	H27	H28
新規加盟校	5	6	2	4	9
累積加盟校	38	44	46	50	59

<点検（分析）>

- 各加盟校においては、環境、伝統文化及び国際理解など、各学校の特性を活かした教育の取組がされた。（交流会議：全小・中学校より教員参加）
- 「金沢ユネスコスクール子どもサミット」では、児童生徒が交流し、他校の取組を知り、自校の取組を見直すことで、ユネスコスクールとしての充実を図ることができた。（参加者数 児童生徒158人）

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 加盟申請中の学校が平成29年度に承認を受ける予定であり、全小・中学校のユネスコスクール加盟が達成される。今後は、他都市加盟校とのネットワークの活用について検討したい。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 4 ふるさと金沢の個性を生かした教育に取り組みます
--------	---

1. 事業名
防災教育の実践

2. 事業概要（目標、目的）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 始期：平成24年度 ○ 防災体制の整備（防災教育担当者配置による危機管理体制の強化等） ○ 児童・生徒が災害に遭遇したときに、状況に応じて適切な対応ができるよう危機管理能力を育む。

3. 実績と点検・評価		
<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災体制の整備（事業費：230千円） 全小・中学校に防災教育担当者を配置し、教員を対象として、防災教育アドバイザーによる危機管理能力向上講習会を開催した。 ○ 防災教育の実施 土日を活用した地域・PTA等との連携による防災教育を実施した。 ○ 小・中学校各1校が防災教育を金沢型学校教育モデルのテーマとして設定・研究し、その成果を広く普及した。 <p><点検（分析）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校における防災教育の実施については、地域の防災訓練と連携して実施する学校が増加してきており、保護者や地域住民の防災意識の向上にもつながった。 ○ 防災士の資格取得講座に代わる研修として、平成28年度より「危機管理能力向上講習会」を実施した。平成25年から27年の防災士になった教員を含め、平成28年度までで累計236名の防災知識を備えた教員の養成を行った。 		
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td style="width: 100px;">評価</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	評価	A
評価	A	

4. 今後の課題と方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度からは、防災士の資格取得講座に代わる研修として、本市の防災教育アドバイザーが作成するカリキュラムによる「危機管理能力向上講習会」を実施し、防災士資格取得者に準ずる能力をもった教員の養成を継続していくことで、教員の人事異動に左右されない学校の危機管理体制を維持する。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性5 特別支援教育の充実に取り組みます
--------	-------------------------------------

1. 事業名

特別支援教育サポートセンターに関する基本構想の策定

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成27年度 終期：平成28年度
- 発達障害等特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援の充実を図るため、特別支援教育に関する拠点施設として、特別支援教育サポートセンター（仮称）を整備するための基本構想を策定する。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：104千円

- 提言策定のため、意見交換会を実施
 - ・中央小学校芳斉分校保護者（8月：保護者6名）
 - ・小将町中学校特学分校保護者（10月：保護者6名）
- 特別支援教育サポートセンター（仮称）整備基本構想策定懇話会開催
 - ・第4回（平成28年度第1回：12月）：整備基本構想の取りまとめ

《構想の概要》

1. 発達障害のある子供も含めて、障害により特別な支援を必要とする児童生徒への特別支援教育に関する拠点として整備
2. 特別な支援を必要とする児童、生徒、保護者及び教職員への支援に係わる機能の充実

<点検（分析）>

- 平成29年1月に懇話会の座長より、特別支援教育サポートセンターの整備について市長に提言。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 施設整備や配置計画、整備スケジュールにかかる基本計画を平成29年度に策定する。
- 具体的な施設整備、人員及び組織体制等の詳細については、引き続き検討していく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性5 特別支援教育の充実に取り組みます
--------	-------------------------------------

1. 事業名
特別支援教育の充実

2. 事業概要（目標、目的）
○ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒に、個々のニーズに応じた適切な指導や支援を行うため、「金沢市特別支援教育指針」に基づき、特別支援教育の充実に取り組む。

3. 実績と点検・評価

<p><実績></p> <p>○ 特別支援教育充実事業（事業費：111,788千円） 日常生活並びに学習指導等の補助を行う特別支援教育支援員（追加派遣分）の派遣時間を拡充した。</p>			<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣校数</td> <td>70</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>派遣人数</td> <td>135</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>のべ派遣時間(H)</td> <td>103,137</td> <td>107,147</td> </tr> <tr> <td>事業費(千円)</td> <td>107,634</td> <td>111,788</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H27	H28	派遣校数	70	71	派遣人数	135	136	のべ派遣時間(H)	103,137	107,147	事業費(千円)	107,634	111,788
区分	H27	H28																
派遣校数	70	71																
派遣人数	135	136																
のべ派遣時間(H)	103,137	107,147																
事業費(千円)	107,634	111,788																
<p>○ ICT機器活用教育実践事業【再掲：ICT機器活用教育の推進】 より効果的な授業の実践のため、各学校の特別支援学級等で活用するタブレット端末（各校1台）を整備した。（整備台数：76台）</p>																		
<p><点検（分析）></p> <p>○ 特別支援教育支援員の派遣時間を拡充したことにより、児童生徒への支援が充実したほか、学級担任等と特別支援教育支援員との連携が円滑化した。</p> <p>○ タブレット端末の整備により、授業の教材の幅が広がったことに加えて、教員と児童生徒のコミュニケーションが円滑化し、児童生徒がもつ学習面や生活面での心理的ストレスが軽減され、学習意欲の向上につながった。【再掲】</p>																		
		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> </tr> </table>	評価	A														
評価	A																	

4. 今後の課題と方向性
○ 今後配慮を要する児童生徒が増加することが予想されることから、一人一人の子供の教育的ニーズに応じた指導の充実に向けて、支援員の適切な配置等により校内支援体制の充実に努めるとともに、実践拠点校を中心として特別支援教育担当者の指導力向上を図る。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 6 福祉と連携した教育相談・支援体制の充実に取り組みます
--------	--

1. 事業名

教育相談の充実（多様化・複雑化への対応）

2. 事業概要（目標、目的）

- 学校における不登校、いじめ、社会的不適応、発達障害などの相談は増加し、多様化・複雑化・困難化してきている。それらに対応するため、学校教育現場及び関係機関と連携しながら、児童生徒、教職員、保護者等に対し、専門的な教育相談・支援を行う。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：4,815千円

1. 適応指導教室「そだち」登録人数の推移

区分(*1 集団支援 *2 個別支援)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
そだちFriendship *1	15人	7人	7人
そだちPersonal 富樫教室 *2	41人	38人	35人
そだちPersonal 此花教室 *2	32人	38人	38人

2. 専門相談件数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
相談回数	90回	103回	121回
延べ人数	162人	179人	233人

<点検（分析）>

- 適応指導教室では、個別支援を行う「そだちPersonal」の登録人数は同水準で推移しているが、児童生徒の実態は重篤化・複雑化してきており、在籍校や医療機関等、関係機関とも連携し専門的視点で継続的な相談・支援に取り組んだ。
- 専門相談では相談者のニーズに応じ、精神科医・言語聴覚士等の専門家が面談・助言し、また、定期的継続的な支援が必要な場合は、面接相談に移行する等、適切な支援に取り組んだ。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 不登校児童生徒の増加、いじめ、社会的不適応、発達障害など相談内容が多様化・複雑化してきており、引き続き、学校教育現場等と連携しながら、専門的教育相談及び適応指導教室における個別相談支援の一層の充実を図っていく。
- 複雑困難な事例の増加に対し、教育プラザの教育相談職員の専門性を高め、相談技術の向上に引き続き取り組んでいく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性7 家庭、地域と連携したひとつづくりに取り組みます
--------	--

1. 事業名

コミュニティ・スクールのモデル事業の実施

2. 事業概要（目標、目的）

- 学校が抱える固有の課題の解決に向け、保護者や地域の方々が学校とともに知恵を出し合い、学校運営に参画することで、「地域とともにある学校づくり」を進めるコミュニティ・スクール（学校運営協議会）のモデル校を設け、本市におけるコミュニティ・スクールのあり方を研究する。

3. 実績と点検・評価

- <実績> 事業費：603千円（国庫補助 200千円）
- 中村町小学校をモデル校に指定し、学校運営協議会（委員14名）を設置した。
 - 9月以降、5回の会議を開催（出席委員のべ61名）したほか、知・徳・体の3分科会を設け、学校の運営方針や課題解決の方法について協議した。
 - 年度末には、取組の成果をまとめたパンフレットを2,500部作成し、校区内の全世帯に配布して周知を図った。

- <点検（分析）>
- 学校の課題を「学力向上」「豊かな心の育成」「体力向上・健康増進」の3分野に分けて明確化したことで、課題解決に向けた具体的な提案が行われた。これらの提案が学校の運営方針に反映されたことで、地域における「中村塾」や「あいさつ運動」等の具体的な活動につながった。
 - 本市でのモデル事例として、モデル校拡大に向けての参考となる取組ができた。

評価	A
----	---

4. 今後の課題と方向性

- 学校運営協議会の効果的な運営のため、地域住民や各種地域団体等への制度の周知をさらに進め、理解を深めていくことが今後の課題である。
- 29年度にはモデル校を14校に拡充する予定であるが、その中でも、制度の周知や地域との連携等について、地域の実情に応じた効果的な方策を模索していきたい。
- 29年4月の地教行法改正により、学校運営協議会の設置が努力義務化されることから、全市的な導入に向け、前述の課題を整理しながら、拡充していきたい。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

新学校規模適正化計画の策定

2. 事業概要（目標、目的）

- 平成22年8月、金沢市立小中学校の規模の適正化に関する懇話会から9つの小学校について統合を基本に検討との提言があり、これまでに5つの小学校（野町小学校、俵小学校、朝日小学校、材木町小学校、味噌蔵町小学校）が統合された。
- 平成27年1月、文部科学省から公立小中学校の適正規模・適正配置等について、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要があるとの手引が示された。
- 今後の児童生徒数の予測を踏まえた新たな学校規模の適正化に向けた方針を策定し、できるだけ早期にその実現を図り、教育環境の充実に資する必要がある。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：1,376千円

- 平成28年9月、金沢市立小学校及び中学校通学区域審議会からの答申を踏まえ、新たな学校規模適正化に関する方針を策定した。
 - (1) 小学校の統合 ①新堅町小学校と菊川町小学校 など
 - (2) 大規模校の解消 ①大徳地区での小学校の新設と通学区域の見直し
 ②田上小学校の移設（新設）と通学区域の見直し
 - (3) 中学校の規模適正化 ①小將町中学校の中央地区への移設と通学区域の見直し
 ②城南中学校と紫錦台中学校の統合 など

<点検（分析）>

- 方針の策定に向けて、関係地域の代表者との意見交換（26校下・地区）や学校長からの意見聴取（27校）を行い、それらを十分に踏まえたうえで、検討を進めた。
- 方針の策定後、関係地域団体への説明会（12回）や保護者団体への説明会（6回）を開催し、学校規模適正化の内容や必要性を丁寧に説明した上で、実施に向けての理解を求めた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 新たな方針に掲げた学校規模適正化の早期実現に向け、今後関係地域及び保護者等と具体的な協議を進めていく必要がある。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

学校施設の耐震化の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 地震防災緊急事業5カ年計画及び金沢市学校施設整備計画検討会の報告に基づき、昭和56年以前の旧耐震基準により建築された学校施設について耐震化を図っている。
- 検討会の報告があった平成20年度初めで、小中学校校舎・体育館426棟のうち、耐震化が必要な施設は147棟、耐震化率は65.5%であったが、昭和40年以降に建築された学校については補強を基本に、昭和39年以前に建築された施設については改築を基本に耐震化を進めている。
- 平成24年度以降、専門家による耐震点検を実施するとともに計画的に外壁改修を行うなど非構造部材の耐震化を進めている。

3. 実績と点検・評価

<実績>

国の財源を活用して耐震化工事を実施

- 校舎等の耐震補強工事（事業費：919,134千円）
 - ・大野町小、城南中、兼六中、旧城東市民体育館
- 非構造部材の耐震化工事（事業費：353,316千円）
 - ・校舎、屋内運動場外壁改良 …小学校9校、中学校4校

<点検（分析）>

- 平成27年度末に92.2%だった耐震化率が、平成28年度末には94.5%まで改善した。
（木造建物除く）

<耐震化の推移>

区 分	26年度	27年度	28年度
実施棟数	12	9	5
未耐震棟数	49	33	23
耐震化率	88.4%	92.2%	94.5%

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 今後、耐震化が必要な学校の中には統合について検討を行っている学校もあるが、学校施設の耐震化と学校規模の適正化はともに重要課題と捉え、早期の解決に向けた取組みを進めていく必要がある。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

泉小学校と泉中学校の一体的整備

2. 事業概要（目標、目的）

- 平成26年4月、野町小学校と弥生小学校が統合し、旧野町小学校を暫定校舎として泉小学校が開校した。
- 平成28年度の完成に向け、平成27年10月に建設工事に着手した。
- 平成29年1月に泉中学校が供用開始した。
- 平成29年4月に泉小学校が供用を開始する予定である。
- 平成29年度以降は、泉小学校グラウンド整備等の外構工事、金沢大学弥生地区用地の取得、旧金沢大学施設の解体、泉中新体育館建設を行う予定である。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 泉小学校校舎・体育館建設工事
28年度事業費：1,954,454千円 工期：平成27年10月～平成29年3月
- 泉中学校校舎建設工事
28年度事業費：1,641,109千円 工期：平成27年10月～平成28年12月

<点検（分析）>

- 平成28年度の建設工事等や平成29年度以降の工事の進め方について、地域・保護者及び学校と連携を図りながら、事業を進めた。
- 予定通り、泉中学校が平成29年1月、泉小学校が平成29年4月に供用開始となった。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 引き続き学校や地元住民と十分に協議を進めるとともに、敷地が隣接する金沢大学弥生地区用地を取得し、旧金沢大学施設解体工事や泉中学校の新体育館の建設を実施する予定である。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

学校施設整備の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 森山町小学校校舎改築事業
老朽化が進んでいる校舎の改築に向け、仮設校舎を設置し、完成後、現校舎の解体工事を行う。解体後、現校舎の場所で新校舎を建設する。
- 学校施設改修・改良事業
学校施設の適正な維持管理、教育環境の向上を図るため、施設改修・改良を実施する。

3. 実績と点検・評価

<主な工事の実績>

区 分	26年度	27年度	28年度
森山町小学校校舎改築事業		10,432千円 基本設計等	57,261千円 実施設計等
学校施設改修・改良費	480,427千円 校舎、体育館改良事業等	326,680千円 校舎、体育館改良事業等	533,635千円 校舎、体育館改良事業等

<点検〈分析〉>

- 森山町小学校校舎の実実施設計により、教室の配置計画やレイアウトについて検討した。また、新校舎の建設に向けて、地質調査を実施するとともに、埋蔵文化財調査やプール解体工事に着手した。
- 学校施設の改修や改良を実施し、施設の適正な維持管理や教育環境の向上を図った。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 森山町小学校校舎の改築に向け仮設校舎を設置し、完成後、現校舎の解体工事を速やかに行う。
- 学校施設の改修や改良については、優先順位を設け、計画的に実施しているが、建築年次が古い施設が多くあることから、「学校施設長寿命化計画」の策定を進め、引き続き、良好な教育環境の維持に努めていく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

教育環境（I C T機器）の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成28年度
- タブレット端末を貸出し用として整備し、市内の小中学校へ貸出しを行うことにより、I C T機器を活用した効果的な教育が行える環境整備を図る。
- I C T機器の効果的な活用を図るため、教職員への研修を行い、指導力の向上につなげる。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費1,007千円

- 貸出し用タブレット機器41台及び周辺機器を整備した。
- 市内の小中学校に対し、2学期に1校、3学期に1校の貸出しを行った。
- 研修については3日間24人の教職員に対して行った。

<点検（分析）>

- タブレット端末等の整備及び小中学校への貸出し、教職員への研修の実施により、I C T機器を活用した効果的な教育が行える環境の充実に図ることができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 引き続き市内の小中学校へタブレット端末等の貸出しを行い、効果的な活用を図っていく。
- I C T機器を活用した効果的な授業の実践が図られるよう、タブレット端末を貸出した学校における取り組みや活用事例を取り込む等、教職員の研修の充実に努めていく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

校務士配置体制の整備

2. 事業概要（目標、目的）

- 中期人事計画において正規校務士については退職不補充を基本とした中、学校環境整備に支障が生じないように業務委託化を推進するとともに校務士の配置体制を見直し、正規校務士未配置校へのシルバーからの人材派遣や、シルバー配置校を定期的に巡回し点検や修繕を行う「点検班」を設置し、校務士配置体制を整備する。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：57,599千円

- 正規校務士未配置校（22校）にはシルバー派遣職員を1校に2名（1人週20時間）配置した。
- ボイラー業務委託等正規校務士未配置校において業務委託を行った。
- 新たに正規校務士4名による点検班を設置した。
- 点検班が正規校務士未配置校を各校週1回定期巡回し、設備等の点検や修繕を行った。

<点検（分析）>

- 正規校務士未配置校との意見交換会等（7月、11月）において成果の検証を行いより効率的な体制を整備することができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 正規校務士退職不補充の中で新体制の運用における検証・分析を行い、さらなる業務の民間委託を進めていくとともに配置体制のあり方について引き続き検討していく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

教職員・保育職員研修の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 学校を取り巻く諸課題に対応できる豊かな専門性、幅広い社会性、実践的指導力、コミュニケーション能力、組織で対応できる力など、教職員のさらなる資質と指導力向上を目指し、教職員の資質向上を図る。
- 保育指針及び教育・保育要領に基づき、子育て支援、保健、栄養、統合保育等の各分野の専門的研修を実施し、保育職員の資質向上を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：8,877千円

	講座回数 (回)	受講者数 (人)
経年研修	68	4,218
管理職研修	5	511
職能研修	7	903
特別支援教育研修	4	724
専門研修	27	2,572
特別研修	5	12
合計	116	8,940

	講座回数 (回)	受講者数 (人)
乳幼児保育研修	15	710
幼保小連携研修	4	282
発達障害研修	4	189
給食・食育研修	8	406
保育保健研修	2	78
訪問サポート研修	2	13
合計	35	1,678

<点検（分析）>

- 新たに主体的、対話的で深い学びの視点を取り入れた授業づくりに向けた研修を実施し、教職員研修の充実を図った。
- 保育士等の保育力向上に定めるため、専門家を派遣し、個人に応じた指導・助言を行う訪問サポート研修を28年度から新たに実施し、受講者の意識及び保育実践の質の向上が見られた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 特別支援教育の今日的な課題への対応や新学習指導要領の対応に向けた英語力及び授業力の向上を目指す等、教職員研修の充実を図っていく。
- 従来の集合型の校外研修について精選を行う一方で、校内研修サポートの推進等、校内での研修の質の向上に向けて取り組んでいく。
- 保育職員のさらなる保育力向上につながるよう、研修の充実を図っていく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

市立工業高等学校の教員採用候補者選考試験の実施

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成20年度
- 優秀な教員人材確保のため市独自の教員採用試験を実施

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：4,028千円

- 若干名の採用を予定していたところ、41名が受験し6名が合格した。

試験区分	受験者数	合格者数	倍率	採用者数
国語	4	1	4.0	0
数学	9	1	9.0	1
保健体育	19	2	9.5	2
工業（機械）	3	1	3.0	1
工業（電子情報）	1	1	1.0	1
工業（土木）	5	0	-	0
総合	41	6	6.8	5

- 優秀な人材を広く募集するためPRパンフレットを1,600部作成し、大学115校、市内施設等に配布するとともに、県内外の大学4校で教員採用についての説明会を開催した。

<点検（分析）>

- 教員採用募集PRにより、市立工業高等学校の特色や働きがいについて教員志望者に周知できたことで、41名の受験者数を確保することができた。
その結果、概ね予定どおりの合格者を得ることができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 市立工業高等学校においては、全国的に見られるような教員の大量退職が見込まれる年度はないものの、今後も継続的・計画的な採用を進めていくことが必要である。特に、工業系の科目を担当する教員の確保が課題である。
- 優秀な人材の確保のため、公平・公正な採用試験を実施していくとともに、継続して積極的なPR活動に取り組んでいく。

個別評価票

計画・方向性	学校教育振興基本計画 方向性 8 教職員の資質向上と教育環境の充実に取り組みます
--------	---

1. 事業名

児童生徒の就学援助

2. 事業概要（目標、目的）

- 就学援助制度（始期：昭和31年度）

経済的理由により、就学が困難と認められる児童及び生徒の保護者（被災避難者を含む）に対し学用品費等(※)を支給し、経済的な負担を軽減することにより、義務教育の円滑な実施を図る。

- 特別支援教育就学奨励費（始期：昭和29年度）

特別支援学級に在籍する児童及び生徒の保護者に対し、学用品費等(※)を支給し経済的な負担を軽減することにより、特別支援教育の普及奨励を図る。

※ 学用品費、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、
体育実技用具費、通学費、給食費、医療費

3. 実績と点検・評価

<実績>	区 分		26年度	27年度	28年度
	就学援助費	認定者数(人)	6,697	6,451	6,106
		認定率(%)	18.79	18.21	17.39
	事業費	学用品等(千円)	208,835	202,756	189,991
		給食援助(千円)	316,684	302,558	282,589
		医療援助(千円)	8,326	7,763	5,662
		計(千円)	533,845	513,077	478,242
	特学奨励費	認定者数(人)	176	200	208
		事業費(千円)	7,298	8,364	9,034

<点検（分析）>

- 就学援助制度に関する専用ホームページを新たに作成し、申請書等のダウンロードを可能とするなど、制度内容の周知及び保護者の利便性の向上を図った。
- 従来どおりの認定基準を維持し、対象を狭めることなく、支援を行った。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 児童生徒の円滑な就学を図るため、平成30年度新入学生から、就学援助制度における新入学学用品費の支給時期を入学前に前倒しする予定であり、制度の拡充内容や申請方法等について、今後保護者や各学校への周知に努めていく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 1 すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます
--------	--

1. 事業名

市民大学講座の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 各界で活躍中の著名人や学識者の生き方・考え方を通し、市民が夢や志を実現するきっかけとする。また、市民の生涯学習の意欲を育むことを目的とする。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：5,822千円

- 40回記念として「金沢の個性と新たなる挑戦」をテーマに実施した。
- 歴史や文化伝統の各分野から金沢にゆかりのある方など著名な講師を招聘した。
- 8月上旬に通し受講券が完売した。

・講師及び受講者数（平成28年度）

区分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
講師	本谷有希子	磯田道史	田中雅美	嵐山光三郎	片岡鶴太郎	野村万作
肩書	劇作家、小説家	歴史学者	シドニー五輪銅メダリスト	作家	俳優、画家	狂言師
受講者数	808人	655人	688人	741人	803人	664人
(受講者数推移)						
区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
延べ受講者数	4,267人	3,997人	3,932人	4,189人	4,359人	
30代以下受講率 (アンケート結果から)	7.90%	3.00%	2.84%	4.20%	3.32%	

<点検（分析）>

- 講師陣の充実により、過去5年間で最高の受講者数となった。
- 受講者アンケートでは、90%以上の方から好評をいただいた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 今後も、金沢市の主要施策に関連したテーマをベースに、様々な分野の第一線で活躍する講師を招き、本事業を継続していく。
- アンケートの実施方法や内容を工夫し、より市民のニーズに添った講座の開催をめざすとともに、特に若い世代の受講者層の拡大に向けて、講師の選定や周知方法について検討していく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 1 すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます
--------	--

1. 事業名

地域コミュニティ活性化支援事業の充実

2. 事業概要（目標、目的）

- 金沢のコミュニティを支える基盤である地域の連帯感や愛着心を深めるための事業の企画運営を、地域コミュニティの中核である地区公民館に委託して実施
- 事業開始は平成12年度、対象は地区公民館（複数館での連携実施も可）
- 内容
 - ①地域交流事業（委託料：100千円上限 ①②併用の場合は総額上限200千円）
 - ・地域の歴史やまちづくり、文化伝承などをテーマに実施
 - ②子ども交流事業（委託料：150千円上限）
 - ・文科省「放課後子供教室」事業として実施（国補助1／3）
 - ・地域の人材を活用した様々な体験活動を通して、放課後及び休日の子供の居場所づくり

3. 実績と点検・評価

<実績>

	H25	H26	H27	H28
①事業数	52	54	54	54
②事業数	6	6	6	7
委託料	5,400	5,350	5,400	5,540

<点検（分析）>

- それぞれの地区公民館で、特色ある講座や研修活動を企画実施したことから、地域の連帯感や愛着心を深め、地域のコミュニティの活性化につながったが、子ども交流事業については、指導者となる地域の人材不足などが課題であると認識している。

評価

B

4. 今後の課題と方向性

- 子ども交流事業については、大学等の協力を得て、企画や運営を行い、次年度以降の充実・拡大に努めて行きたい。

個別評価票

計画・方向性	金沢市生涯学習振興基本計画 方向性 1 すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組みます
--------	---

1. 事業名

高砂大学校・高砂大学院の開設

2. 事業概要（目標、目的）

- 高砂大学校の開設（昭和38年度開始）
65歳以上の金沢市民を対象に、幅広い学習活動を通して、社会の変化に対応する新しい知識や教養を身に付けるとともに、受講者相互の親睦を図り、高齢者の日々の暮らしを充実させる。
- 高砂大学院の開設（昭和46年度開始）
高砂大学校開設を契機とした学習意欲の高まりを受け、高砂大学校修了者を対象とした大学院を開設し、カリキュラムの充実等を通して、より専門性を重視した学習の場を提供する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 高砂大学校の開設 事業費： 839千円 平成28年度入学者数：266人
期間：平成28年4月～翌年1月（年31回開講）
- 高砂大学院の開設 事業費：1,195千円 平成28年度入学者数：444人
期間：平成28年4月～翌年1月（年25回開講） 編成：4科（歴史・園芸・文学・健康）
- 大学校・院ともに、アンケート調査を2度行い、カリキュラムの見直しを行った。
- 大学校受講者の募集方法の見直し（募集期間の延長等）を行った。

<点検（分析）>

- 講座内容は大学校・院ともに9割以上の方から高い評価を受けた。
- 講座への出席率が高く、入学者の94%以上が修了した。
- 受講者から「新しく人と人とのつながりができた」という意見などがあり、高齢社会の受け皿として、幅広い学習の場を提供できた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 高砂大学校については、次代のニーズにあった講義内容の充実に努め、入学者数を拡大していきたい。
- 高砂大学院については、高砂大学校修了生の学び続けたいという高い学習意欲に応え、各専門課程に応じた専門性に富んだ講師を招聘し、カリキュラムの充実に努める。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 1 すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に 取り組めます
--------	--

1. 事業名

Book Bankモデル事業の実施

2. 事業概要（目標、目的）

- 図書館に足を運ぶ機会の少ない潜在的利用者に対する図書サービスとして、図書館から地区公民館図書室等へリユース本を提供することにより、地区公民館図書室の活性化と市民の読書活動を推進する。
- 平成28年度は、モデル事業として実施し課題等を検証した上で、今後本格的な事業展開をめざす。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：656千円

- 市内の全地区公民館を対象に事業概要を説明したところ、モデル館として5館で実施することになった。

実施館 ・城南公民館 ・味噌蔵町公民館 ・田上公民館
・馬場公民館 ・三和公民館

- 説明会を実施後、図書館からの本の提供会を2回開催した。
- 連絡会を開催し、情報交換等を行った。

実施館への本の提供冊数

第1回提供会	287冊
第2回提供会	680冊
合計	967冊

<点検（分析）>

- 実施館との連絡会においては、公民館図書室の利用や紙芝居発表会等の公民館活動が活発になった等の意見が出て、概ね高評価であった。
- 地区公民館においては、設置場所や人員配置状況に応じた特色ある事業を実施することができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 実施館との連絡会等で得た意見を参考にして、地区公民館のニーズを把握し、事業の改善を進めながら、地域の利用者の利便性の向上や地域の活性化にも資するよう、今後一層の拡大を視野に、地域での読書環境の整備に取り組んでいく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 1 すべてのライフステージにわたる多様な学習ニーズへの対応に取り組めます
--------	--

1. 事業名

読書普及活動の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 各館の特徴を活かした講座やイベントなど多様な事業を展開し、図書館の魅力を発信することで、市民が図書館に来館するきっかけを作り、イベントに関連する図書の紹介等を通じて、様々な分野の読書活動を推進する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 各図書館で実施した事業

館名	事業名	イベント回数	参加人数
玉川図書館	玉川読書フェスタ 等	62回	2,952人
泉野図書館	国連寄託図書館開館20周年記念事業 等	183回	6,930人
玉川こども図書館	子ども育成プログラム実践事業 等	987回	20,569人
金沢海みらい図書館	海みらいアートプロジェクト2016 等	202回	24,208人
全館共通	私のおすすめ本紹介事業 等 館内外での本の紹介文等の展示		

※複数館で実施した子供向けのイベントは、玉川こども図書館に含む。

- 入館者数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入館者数	1,877,825人	1,944,198人	1,900,856人
延べ開館日数	1,769日	1,775日	1,758日
1日当たりの平均入館者数	1,062人	1,095人	1,081人

<点検（分析）>

- それぞれの館の特色ある資料や立地環境などを活かした多彩な事業を展開し、様々な年代層の参加者に関連図書の紹介や情報の提供を行った。
- 入館者数は、平成28年度も190万人を超えており、イベントへの参加が図書館来館の動機付けになっている。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 今後も、各図書館の特色ある資料や建物・立地環境などを活かした多彩な事業を展開し、新たな利用者の拡大につなげるとともに、事業参加者を読書に結びつけるような企画を継続して行う。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます
--------	---

1. 事業名

家庭教育の振興

2. 事業概要（目標、目的）

- 社会環境が著しく変化する状況の中で重要な課題となっている家庭の教育力の向上をめざす。（始期：平成28年度）
- 本市のめざすべき家庭教育のあり方や指針を検討するため、懇話会を設置し、取り組むべき施策等を盛り込んだ推進プログラムを策定する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢市家庭教育推進懇話会を以下のとおり開催した。（事業費：2,728千円）

日程		内容
第1回	H28. 5. 31	家庭教育推進懇話会、平成28年度家庭教育推進事業、家庭教育に関する情報発信・保護者意識調査について
第2回	H28. 8. 30	保護者意識調査、家庭教育情報発信、指針の策定について
第3回	H28. 11. 16	保護者意識調査の集計結果、家庭教育情報発信、指針の策定、推進プログラムの概要案について
第4回	H29. 2. 17	家庭教育の推進に関する提言案について

- 金沢市家庭教育推進懇話会からの提言を受け、家庭教育に関する指針「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」および金沢市家庭教育推進プログラムを策定した。（H29. 2. 24）

<点検（分析）>

- 家庭教育力の向上につながる指針およびプログラムの策定により、家庭教育振興に向けた実践につながる体制を整えることができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 家庭の教育力を上げるため、策定したプログラムに掲げた「学習機会の効果的な提供」「家庭教育に関する情報提供の充実」「地域・家庭・学校等との連携による支援」の3つを柱とした各事業を確実に実践する。
- 家庭教育に関する指針を広めるため、企業等への働きかけを行うなど、積極的なPRを行うとともに、より多くの保護者に向けて学習の機会を提供していく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます
--------	---

1. 事業名

学校・家庭・地域の連携による教育支援活動の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 学校支援地域本部事業の実施（平成20年度開始）
- 地域全体で子供たちを見守り育成していくための学校での枠組みづくりを支援し、「金沢市生涯学習振興基本計画」の実現をめざす。
- 小・中学校区を単位として学校支援地域本部を設置し、部活動の指導や学習支援、学校行事の支援補助、環境整備等にあたる「学校支援ボランティア」を広く募集し、地域全体で学校教育を支援する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 学校支援地域本部事業（事業費：6,409千円）
 - ・ 学校支援地域本部：地域教育協議会を設置し、各種学校支援活動を展開した。
 - ・ 平成28年度実施校区 小学校区：中村町・森山町・三馬・田上・三和・犀川
中学校区：金石
 - ・ 文部科学大臣表彰 森山町小学校（6校目）

（支援活動数・ボランティア数推移）

	27年度（9校区）	28年度（7校区）
学校支援活動数	2,135回（237回/1校区）	2,187回（312回/1校区）
ボランティア数	11,666人（1,296人/1校区）	10,738人（1,534人/1校区）

<点検（分析）>

- 平成28年度の1校区あたりのボランティア数は前年度より増加している。また、平成28年度で実施校区数が減っているものの、学校支援活動数は増加している。これは今まで実施してきた事業が浸透し、拡充、充実が進んでいることの表れであり地域全体で学校を支援する体制が着実に整備されている。

評価	A
----	---

4. 今後の課題と方向性

- 今後は、国の推進する「地域学校協働活動」へ移行することで、実施校区数の拡大をめざし、地域と学校が連携・協働する仕組みを定着させていきたい。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます
--------	---

1. 事業名

次代を担う青少年の育成

2. 事業概要（目標、目的）

- 次世代リーダー養成塾の実施（平成25年度開始）
多様化する社会の中で、幅広い知識と柔軟な思考力で主体的に課題を解決する能力や、他者とのコミュニケーションにより協働する能力（社会を生き抜く力）を持った、将来の金沢市を担う青少年を育成する。
- 金沢少年の翼の実施（昭和55年度開始）
北海道や鹿児島への派遣研修を実施し、団体生活を通して友愛と協調の精神や社会性・自主性を養うとともに、派遣地の大自然の雄大さや歴史・文化・産業などについて学び、視野を広める。
また、地域団体活動への積極的な参加の推進と青少年リーダーの育成を行い、次代を担う健やかな子供の育成をめざす。
※北海道又は鹿児島県への派遣を隔年で実施（平成28年度は鹿児島へ派遣）

3. 実績と点検・評価

<実績>

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○次世代リーダー養成塾(事業費：477千円) ・対象者：高校生から30歳までの青少年 ・参加者数：22人
(大学生19人、高校生3人) ・開催回数：年17回 | <ul style="list-style-type: none"> ○金沢少年の翼（事業費：4,100千円） ・対象者：少年団体に所属する小学5年～中学3年 ・参加者：54名（引率12名、団員42名） ・派遣日時：平成28年7月24日(日)～7月29日(金) |
|---|--|

<点検（分析）>

- 「次世代リーダー養成塾」については、年間を通してコミュニケーション講座や危機管理講座に取り組んだほか、地域活動に参加するなど、リーダーとしての資質向上に努めたことにより、着実にリーダーの育成が図られた。（累計71人）
- 「金沢少年の翼」については、事故やトラブルも無く団員全員が研修行程を履修でき、将来のリーダーとなることを意識した行動が随所で見られるなど、本研修を通して、団員一人ひとりが大きく成長した姿が見てとれた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 「次世代リーダー養成塾」については、修了者も含め、地域活動など参加者が主体的に参画し、リーダーとして成長することのできる活躍の場を拡大していきたい。
- 「金沢少年の翼」については、参加する児童・生徒の健康・安全に配慮しつつ、将来のリーダー育成につながるよう、より一層充実した研修にしたい。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます
--------	---

1. 事業名
人権教育の推進

2. 事業概要（目標、目的）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 始期：平成9年度 ○ 教職員や保護者、社会教育関係者等を含め、広く市民に対して様々な人権課題に対する理解や認識を深める学習機会の提供を通して、人権擁護の社会的環境を醸成し、市民の人権意識の高揚を図ると同時に、地区公民館等を中心とした地域レベルでの人権啓発活動の更なる推進を図る。

3. 実績と点検・評価			
<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育推進費（事業費：1,007千円） <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員、保護者及び社会教育関係者等を対象に、人権問題講演会を開催（2回） （内容：【7月】子どもの人権、【2月】インターネットによる人権侵害 参加者：計281人） ・ 地域住民を対象に、地区公民館ブロック単位で人権ネットワーク学習を開催 （年3回開催、内容：子ども、外国人、インターネット、参加者：計196人） ・ 全国規模の研修会、人権教育研究大会等への参加（全3件、計5名参加） ・ 人権啓発DVDの購入 <p><点検（分析）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権問題講演会における参加者アンケートでは、回答者数の90%が内容について「よかった」以上の評価をしており、高い満足度を得た。 ○ 人権ネットワーク学習ではテーマを各地域で設定してもらうことで、学習ニーズに沿った学習会となり、地区公民館役職員等を中心に多数の市民の参加があった。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 70%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">評価</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">A</td> </tr> </table>		評価	A
	評価	A	

4. 今後の課題と方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も市長部局の人権女性政策推進課との連携を図りながら、「金沢市人権教育・啓発行動計画」に基づき、多様化する人権課題に対応した学習機会の充実を図ることで、社会教育における人権教育・啓発の推進に努める。 ○ 講演会及び学習会等を通じた啓発活動と併せて、人権DVDの貸出に関する周知を行い、公民館や市民団体、企業等における研修会などでの活用をPRする。

個別評価票

計画・方向性	金沢市生涯学習振興基本計画 方向性2 青少年の育成のために家庭・地域教育力の向上に取り組みます
--------	--

1. 事業名

金沢子ども読書推進プラン21（第三次）の実践

2. 事業概要（目標、目的）

○ 計画期間

平成26年度～平成30年度（5年間）

○ 目的

読書活動を通じ、子供が心豊かに健やかに成長することを願い、すべての子供があらゆる機会とあらゆる場所において自ら進んで読書活動を行うことができるよう家庭、地域、企業、学校、行政の各主体が自己評価を実施し、一体的に取り組みを進める。

3. 実績と点検・評価

<実績>

○ 金沢市子ども読書活動推進会議の開催（事業費：130千円）

関係団体における平成28年度の取組み事項の報告及び点検、評価を行った。

○ 幼児のための推奨本リストを作成（事業費：1,149千円）

玉川こども図書館、泉野図書館、金沢海みらい図書館3館の児童サービス係で協議・協力のもと、企画から絵本選定を行い、合同で作成した。

平成29年3月に幼児向け推奨本冊子「よんでみよう絵本」を14,000部作成した。（作成した冊子は、平成29年度から3歳児健康診査で保護者に配付している。）

<点検（分析）>

○ 行政、地域団体、小・中学校等各関係団体において、計画目標ごとに主体的に取り組むとともに、連携・協力し、子供読書活動の推進を図ることができた。

○ 0歳から2歳児向け推奨本冊子「はじめましての絵本」と小・中学生を対象としたリーフレット「親子で読んでみまっし」「読んでみまっし」（ともに金沢市PTA協議会作成）と合わせて、各年齢に応じた読書推進のための環境が整った。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

○ 行政、地域団体、小・中学校、家庭等が連携し、図書館利用の更なる増加を促し、各年齢層に応じて子供の読書習慣の定着のための取り組みを進める。

○ 金沢市PTA協議会や地域団体等と連携しながら、各種冊子を子供読書推進の取組みに活用していく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性3 市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます
--------	--

1. 事業名

図書館機能充実策の検討事業の実施

2. 事業概要（目標、目的）

- 「知の交流拠点」として、時代に即した図書館機能の充実を図るため、有識者からなる金沢市図書館機能充実検討会を設置し、今後の方向性を検討する。

3. 実績と点検・評価

<実績> 事業費：676千円

- 金沢市図書館機能充実検討会を4回開催したほか、市民向けアンケートの実施、図書館フォーラムの開催を通じて、めざす図書館の方向性と方策をとりまとめた。

実施日	内 容	
平成28年 7月	第1回検討会	課題の抽出
8月～10月	アンケート実施	eモニター、郵送等
9月	第2回検討会	方向性の検討
10月	図書館フォーラム	先進事例紹介
12月	第3回検討会	充実化策の検討
平成29年 2月	第4回検討会	検討結果とりまとめ

<点検（分析）>

- 市立図書館が重点的にめざす「生涯にわたる学びを拓げる図書館」「出会いとつながりを育む図書館」「地域の課題解決を支援する図書館」という3つの方向性をとりまとめ、平成29年度から計画的に推進する準備が整った。

評価	A
----	---

4. 今後の課題と方向性

- 各事業の実施時期を短期・中期・長期に設定しており、今後順次取り組みを推進していく。今後も社会環境や市民ニーズの変化に対して、的確な対応を図り、図書館機能の充実を進めるとともに、知の交流拠点としての図書館活動の実践に取り組む。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性3 市民参画と協働を推進するために学びの場の創出に取り組みます
--------	--

1. 事業名

図書館の機能を活用した課題解決支援

2. 事業概要（目標、目的）

- 社会の高度情報化、市民ニーズの多様化に合わせ、あらゆる分野の資料を系統的、広範囲に収集するとともに、資料や情報を有効活用して、市民の課題解決を支援する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢市図書館蔵書冊数

金沢市図書館資料収集方針に基づき収集している。

平成26年度	平成27年度	平成28年度
1,443,549冊	1,479,988冊	1,519,784冊

- レファレンスサービス取扱件数

来館、電話、メール等による、市民からの問い合わせや調査研究を支援した。

平成26年度	平成27年度	平成28年度
4,937件	5,056件	5,813件

- レファレンス事例データベースの公開

レファレンス記録を整理して、図書館ホームページ及びレファレンス共同データベースに新たに公開し、利用者へのレファレンスサービスの効率化と情報提供の充実を図った。

<点検（分析）>

- 年間約6万冊の資料を受入れ整備し、市民1人当たり約3.3冊の蔵書となった。
- 所蔵資料を活用したレファレンスサービスの利用が増加した。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 玉川図書館と泉野図書館では、収蔵可能冊数を満たしており、今後保存資料の精査や電動書架の導入による収蔵能力の向上に計画的に取り組む必要がある。
- 近年、資料のデジタル化が進んでいることから、これに対応できる環境整備に取り組むことにより、今後とも市民の課題解決への支援を充実させていきたい。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に 取り組めます
--------	---

1. 事業名

キゴ山3施設の統合

2. 事業概要（目標、目的）

- ふれあいの里、少年自然の家、天体観察センターの条例及び規則を一本化し、一体的運用を行うことにより、教育研修機能の充実、利用者の利便性向上と利用活動内容の拡大、施設運営の効率化を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 料金体系の見直し
本市内の義務教育諸学校及び少年団体並びに幼稚園、保育所等の団体については使用料を無料とした。
- 施設の相互利用
統合により、施設の共用が可能となり、宿泊利用等を弾力的に運用することができるようになった。（3団体、165人）
- 宿泊利用状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
青少年交流棟	7,631人	7,674人	6,532人
こども交流棟	8,060人	8,542人	6,908人

<点検（分析）>

- 施設の一体的運用により、人材配置、業務分担まで柔軟な運営を行うことができた。
- 天候等により、大口の利用団体の急なキャンセルがあったこともあり、新規の団体利用が伸び悩んだ。

評価

B

4. 今後の課題と方向性

- 宇宙教育や里山教育を推進する中で、利用者の拡充を図るため、企業や教育団体に向けPRを積極的に進めていく。
- 施設運営の効率化をさらに推進し、利用者の利便性向上に努める。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に 取り組めます
--------	---

1. 事業名

宇宙教育の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 平成25年度に J A X A（宇宙航空研究開発機構）と締結した宇宙教育に関する協定を活かし、幼児からシニア世代に至る幅広い世代を対象とした宇宙教育プログラムを充実することにより、創造性豊かな子供の育成及び市民の生涯学習の振興を図る。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢市宇宙教育推進計画を策定（事業費：1,000千円）
- 宇宙教育分野の有識者による金沢市宇宙教育推進懇話会を2回開催した。
- 宇宙教育推進事業の実施（事業費：1,560千円）

キゴ山宇宙塾（中高生）	4回	68人
ジュニア宇宙塾（小学3～6年生）	2回	46人
キッズ宇宙塾（年長児～小学2年生と保護者）	2回	74人
シニア宇宙塾（18歳以上）	6回	101人
親子でスターウォッチング（小中学生と保護者）	1回	35人
金曜日は星見の日（誰でも）	25回	930人
合計	40回	1,254人

<点検（分析）>

- 宇宙教育分野の有識者による宇宙教育推進懇話会を開催し、宇宙教育の推進に関する施策等について議論を重ね、金沢市宇宙教育推進計画を策定することで、宇宙教育を推進する基盤が構築された。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 金沢市宇宙教育推進計画に基づき、J A X Aに続き、国立天文台との協定を締結し、連携を強化する。
- 宇宙塾を統合し、「金沢宇宙塾」とし、開催回数増と内容充実を図る。
- 老朽化したプラネタリウムをリニューアルし、施設の魅力向上・教育環境の充実に
を図る。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に 取り組みます
--------	---

1. 事業名

キゴ山の豊かな環境を活かした里山教育の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成26年度
- キゴ山の豊かな森を教育資源とした「里山教育」を進めるため、自然体験活動や自然観察、森の恵みを活用する体験活動等のプログラムを実施し、キゴ山を里山教育及び里山交流の拠点とする。

3. 実績と点検・評価

<実績>

親子里山体験塾 石窯ピザづくり、ミニ門松づくり等	9回	236人
市民里山教室 医王山トレッキング、大根寿司づくり等	3回	49人
自然観察指導者研修会	1回	12人
合計	13回	297人

※その他にプログラム実施用備品等を購入

<点検（分析）>

- 親子里山体験塾、市民里山教室を開催し、里山教育を推進するとともに、教諭や保育士等を対象に自然観察指導者研修会を開催し、指導者育成につなげることができた。
- 魅力あるプログラムの提供と情報発信が課題である。

評価

B

4. 今後の課題と方向性

- キゴ山の魅力をさらに発信するため、プログラムの実施回数及び内容を見直し、体験プログラムを充実させるとともに、利用環境の整備を進めていく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に 取り組みます
--------	---

1. 事業名

長土堀青少年交流センター（仮称）の整備

2. 事業概要（目標、目的）

- 始期：平成26年度 終期：平成30年度
- 早期改築が必要とされる長土堀交流館について、青少年を核とした市民の交流拠点施設として改築整備する。
- 地区公民館を併設するほか、市内に分散している青少年の活動場所を集約し、コンパクトなエリア内で多様な青少年活動を行うことのできる、まちなかの生涯学習施設として整備する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 長土堀青少年交流センター（仮称）整備事業 事業費：40,562千円
 - ・ 実施設計費（建築・設備・外構） 34,655千円
 - ・ 調査費（測量・地質調査・埋文試掘・電波障害） 4,899千円
 - ・ 手数料（不動産鑑定・計画通知・構造計算適合判定） 1,008千円

<整備スケジュール>

H26	整備基本計画策定
H27	建設工事基本設計
H28	建設工事实施設計、測量、地質調査 等
H29	建設工事、長土堀交流館解体工事实施設計、埋蔵文化財発掘調査
H30	建設工事、長土堀交流館解体工事、外構工事
H31	全面供用開始（予定）

<点検（分析）>

- 建設予定地の測量や地質調査を行うとともに、埋蔵文化財試掘調査や地デジ放送電波障害事前調査等、建設に向けた各種調査を実施した。
- 建設による周辺環境への影響について、隣接住民への説明会と十分な協議・調整のうえ、実施設計を終えることができた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 関係団体等との連携を密にし、円滑に建設工事や外構工事を実施する。
- 運用方法や休館日、利用料金、人員配置などの管理運営体制を固める。
- 長土堀交流館の解体に伴う条例の廃止に合わせ、新施設の条例を制定する。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性4 学習の拠点整備・情報システムの活用など、生涯学習環境の充実に 取り組めます
--------	---

1. 事業名
地区公民館の施設整備

2. 事業概要（目標、目的）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元からの要望に応え、地区公民館の建設及び改修を行うことで、 地域コミュニティの中核である地区公民館の機能の充実を図る。 ○ ルールに基づいて、地元から負担金を徴収している。 (負担ルール) 建設費（既存建物改修移転含む）・・・原則 市3／4 地元1／4 ※用地費については別途ルール有り

3. 実績と点検・評価		
<p><実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大浦公民館（新築して移転 H27実施設計、H28～H29工事） 事業費：56,553千円（H28年度） （工事費 50,991千円、工事管理費 3,564千円、水道負担金等 1,998千円） ○ 旭日公民館（旧朝日小を改修して移転 H28実施設計及び工事） 事業費：9,147千円（H28年度のみ） （工事費 8,059千円、設計費等 1,088千円） 		
<p><点検（分析）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大浦公民館：H29年10月の完成を目指し、H28年11月に工事に着手した。 ○ 旭日公民館：地元や関係他課と協議を重ね、適正なスケジュール管理のもと、 H29年3月に竣工を迎えた。 		
<table border="1" style="float: right;"> <tr> <td style="width: 100px;">評価</td> <td style="width: 100px;">A</td> </tr> </table>	評価	A
評価	A	

4. 今後の課題と方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区公民館は地域コミュニティの核となる施設であることから、引き続き、地元の要望を大切にしながら、施設整備に取り組んでいく。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性5 金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます
--------	--

1. 事業名

ふるさと教育の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 金沢ふるさと体験学習の実施（平成25年度開始）
金沢の歴史・伝統文化等を学ぶことのできる体験・見学プログラムを組み合わせたバスツアーの実施を通して、子供たちのふるさとに対する興味関心を高めることを目的とする。
- ジュニアかなざわ検定（平成18年度開始）
「ジュニアかなざわ検定」の開催を通して、子供たちが金沢について学び、ふるさと金沢への愛着や誇りを持ち、将来、金沢を発信することができる人材の育成を目指している。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢ふるさと体験学習(事業費：939千円) ○ ジュニアかなざわ検定（事業費3,731千円）
 - ・参加者数：539人
 - （学校5回、一般2回、子ども会4回）
 - ・対象：市内の小中学生
 - ・内容：茶道、金箔貼等の伝統文化体験
- | | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
|------|--------|--------|--------|
| 申込者数 | 6,542人 | 7,124人 | 7,459人 |
| 受検者数 | 5,979人 | 6,454人 | 6,770人 |
- ・対象者：小学4年生～中学3年生、保護者
 - ・実施主体：ジュニアかなざわ検定実行委員会

<点検（分析）>

- 金沢ふるさと体験学習では、伝統文化体験の内容や見学施設を毎年見直し、子供たちにより良い体験学習の場を提供することで、ふるさと教育の推進に寄与した。
 - ジュニアかなざわ検定では、最優秀受検校表彰を創設し、団体受検を促進した。
 - 受検者数が過去最高の6,770人となり、検定を通して金沢の歴史や文化を知ろうとする児童生徒の意欲の向上につながっている。
- | | |
|----|---|
| 評価 | A |
|----|---|

4. 今後の課題と方向性

- 金沢ふるさと体験学習については、学習テーマに応じた見学・体験プログラムを選択できることが好評を得ており、今後もプログラム内容の充実を図りたい。
- ジュニアかなざわ検定については、対象となる生徒の29.2%が受検しており（昨年度比1.7%増加）今後も新しい取り組みをしながら、受験者数の増加を図りたい。

個別評価票

計画・方向性	生涯学習振興基本計画 方向性 5 金沢らしい個性ある学習文化都市づくりに取り組みます
--------	---

1. 事業名

姉妹都市提携図書館との交流促進

2. 事業概要（目標、目的）

- 平成27年に全州市の図書館と提携したことにより、蘇州市と併せて3都市間での図書館交流となったことを市民に周知し、姉妹都市への理解を深める。
また、共同研究を始め、各図書館のサービスに対する相互理解に取り組む。

3. 実績と点検・評価

- <実績> 事業費：1,149千円
- ミニシンポジウム「中国・韓国・日本にみる 家庭でできる子どもの読書推進」の開催（10月10日）
 - 企画展示「姉妹都市 蘇州市・全州市を知ろう!」の実施（10月6日～25日）
 - 蘇州市寄贈図書読書会「唐詩の世界」の開催（10月22日）
 - 新たに外国語版金沢海みらい図書館パンフレット（中国語、韓国語、英語）を作成
 - 蘇州図書館訪問団（副館長他5名）との意見交換会の開催（1月17日）

- <点検（分析）>
- 市民向けシンポジウム、企画展、寄贈図書を活用した読書会を開催することで、金沢市図書館と蘇州図書館、全州市図書館との姉妹都市提携図書館交流について市民に周知するとともに、姉妹都市交流促進の一助となった。
 - 外国語パンフレットの作成により、図書館を通じた、多文化共生への理解や、国際交流促進の一翼を担うことができた。
 - 蘇州図書館関係者と意見交換を行い、両市図書館の図書館サービスについての相互理解が深まった。

評価	A
----	---

4. 今後の課題と方向性

- 今後も姉妹都市提携図書館同士の人的交流や文化交流等を継続することにより、一層の相互理解と友好の醸成を図りたい。
- 共同研究の成果については、今後本市の図書館サービスの向上に活かしていきたい。

個別評価票

計画・方向性	文化財の保護 文化財の保存・整備
--------	---------------------

1. 事業名

文化財指定の推進

2. 事業概要（目標、目的）

- 加賀一向一揆関連遺跡と古道の詳細調査（平成25年度～平成30年度）
加賀・越中間に残る一向一揆関連遺跡について、砂子坂道場跡（金沢市）、土山御坊跡（南砺市）等の詳細調査を行い、一体として価値付けを図り、史跡指定をめざすとともに、両市民の交流促進を図る。
- 市内に残る未指定の文化財について詳細調査を行い、歴史的・文化的価値を明らかにし、文化財として指定する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 加賀一向一揆関連遺跡と古道詳細調査事業費（事業費 4,445千円）
国の財源を活用し、二俣本泉寺所蔵古文書調査、同寺庭園発掘調査等を実施した。
- 文化財保存調査費・国登録有形文化財登録調査費（事業費 1,296千円）
文化財としての価値付けを図るため、本龍寺（金石町）及び大野町界隈の歴史的建造物についての調査を実施した。

<点検（分析）>

- 加賀一向一揆関連遺跡と古道について、史跡指定に向けた資料を整備した。
- 「石造金剛力士立像」を金沢市指定文化財として指定した。

- 「加賀纏製作」を金沢市選定保存技術として選定した。

〈文化財の新規指定件数〉 (H29.3.31現在)

指定区分	26年度	27年度	28年度	合計
国	2	1	1	75
県	1	0	1	140
市	6	7	2	218
計	9	8	4	433

- 文化財調査を実施し、指定・登録に向けた資料を整備した。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 本市では、新たな文化財指定を目指して、様々な調査・準備を行っており、その成果として国・県・市指定件数が増加し、歴史に厚みを加えている。引き続き、調査や関係者との協議を行いながら、文化財指定に向けた手続きを推進していく。

個別評価票

計画・方向性	文化財の保護 文化財の保存・整備
--------	---------------------

1. 事業名

文化財の保存・整備

2. 事業概要（目標、目的）

- 前田家墓所及び辰巳用水附土清水塩硝蔵跡の保存整備（平成21年度～平成33年度）
国史跡加賀藩主前田家墓所及び辰巳用水附土清水塩硝蔵跡の保存整備について、保存整備計画に基づく整備等を行い、後世に継承・活用していく。
- 文化財保存に対する助成（始期：昭和58年度）
国・県・市指定文化財や保存建造物等を良好な状態で保存・活用していくため、修理等に対して助成を行い、後世に継承していく。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 前田家墓所史跡整備事業費（事業費 9,202千円）
国の財源を活用し、参道整備工事、石廟保存修理等を実施
- 辰巳用水附土清水塩硝蔵跡保存整備事業費（事業費 47,538千円）
国の財源を活用し、隧道補修工事、復元整備に向けた指定地買上げを実施
- 文化財保存助成費（事業費 28,071千円）
指定文化財や指定保存対象物の修理等に対して助成し、文化財を保存

<点検（分析）>

- 前田家墓所について、参道整備工事及び石廟保存修理（基礎造成工）を実施した。
- 辰巳用水について、隧道部分の緊急修繕を実施するとともに、土清水塩硝蔵跡史跡整備地として指定地4筆（1,224㎡）を取得した。
- 指定文化財等44件に対して助成を行い、文化財の適切な保存を図った。

〈文化財等に対する助成件数〉

指定区分	26年度	27年度	28年度
国	0	0	1
県	3	6	4
市	34	38	39

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 国史跡である前田家墓所、辰巳用水について、年次計画に基づき、着実に整備を進めている。今後も史跡の本質的価値を顕在化するための整備を推し進める。
- 指定文化財や保存建造物等の保存修理に対する所有者への助成を適正に実施している。今後も文化財の適切な継承に向けた助成を行っていく。

個別評価票

計画・方向性	文化財の保護 文化財の保存・整備
--------	---------------------

1. 事業名

伝統的建造物群保存地区の保存・整備の促進

2. 事業概要（目標、目的）

- 伝統的建造物群保存地区への支援（始期：平成13年度）
- 重要伝統的建造物群保存地区における歴史的なまちなみを保存していくため、同地区の伝統的建造物の修理修景工事や環境整備の実施、及び防災計画に基づく防災施設の整備を実施している。
- ・ 東山ひがし重伝建地区 1.8ha
 - ・ 主計町重伝建地区 0.6ha
 - ・ 卯辰山麓重伝建地区 22.1ha
 - ・ 寺町台重伝建地区 22.0ha

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 伝統的建造物群保存地区保存対策事業費補助（事業費：154,662千円）
- ・ 国庫補助等を活用して、修理修景工事等に対する助成を実施した。
 - ・ H28年度建造物の修理件数：26件
- 伝統的建造物群保存対策費（事業費：15,251千円）
- ・ 寺町台地区における防火水槽設置に係る実施設計、同地区における消火器設置等を実施した。

<点検（分析）>

- 伝統的建造物群保存地区における修理修景が進み（累計：建造物272件、環境物件15件）、新たに寺町台地区において、防災計画に基づき防災施設の整備を行った。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 今後とも、伝建地区内の伝統的建造物等の修理修景工事に対する助成を行い、地区住民と連携を図り、歴史的まちなみの保存に努めるとともに、地区の防災性の向上を図るため、各地区の防災計画に基づく施設整備を推進する。

個別評価票

計画・方向性	文化財の保護 文化財の活用
--------	------------------

1. 事業名

文化財の魅力発信

2. 事業概要（目標、目的）

- 歴史遺産の探訪（始期 平成20年度）
金沢に残る多くの歴史遺産について、市民にその魅力に触れていただくことを目的として、さまざまな広報・啓発活動を展開する。
- 歴史ふれあい講座、縄文体験コーナーの開催（始期 平成12年度）
市民に金沢の遺跡や史跡についての理解を深めてもらうことを目的に、実際に出土した土器等を用いた古代体験講座等を開催する。

3. 実績と点検・評価

<実績>

- 金沢歴史遺産探訪月間開催事業（事業費 301千円）
歴史遺産をより身近に感じてもらうため、広く市民を対象とした探訪会等17事業を開催した。
- 縄文文化体験講座開催費・埋蔵文化財ふれあい事業費（事業費 3,227千円）
国の財源を活用し、金沢縄文ワールド内の体験コーナーで勾玉づくりなどさまざまな古代体験講座を実施したほか、小学校への出前講座も継続して実施した。

<点検（分析）>

- 歴史遺産探訪月間には総計5,436人が参加

〈歴史遺産探訪月間・参加者数〉

年度	26年度	27年度	28年度
参加者	3,160人	4,395人	5,436人

- 縄文体験コーナー利用者 1,919人 小学校への出前講座 29校 2,144人
- 文化財について、市民の関心を高め、事業の目的に対する成果を上げられた。

評価

A

4. 今後の課題と方向性

- 歴史遺産探訪月間における探訪会等への参加者数は年々増加しており、本市の文化遺産に対する理解が広がっている。今後もこの活動を継続し、金沢の魅力発信に努めていく。
- 小学校への出前講座、縄文体験コーナーでの古代体験ともに参加者から好評を得ている。今後も引き続き金沢の歴史遺産についての普及と啓発に努めていく。

用語等説明

頁	用語	説明
P. 14	金沢型学校教育モデル	金沢市学校教育振興基本計画の基本理念や、めざすべき金沢の子ども像実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や、金沢への愛着と誇りを持てる教育を推進するために平成27年7月に構築した、「金沢型学習プログラム」「金沢型学習スタイル」「金沢型小中一貫教育」の3つの要素で構成され、平成28年度から実践している。
P. 14	金沢型学習プログラム	全小中学校の基準となる学習内容を明確にすることにより、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進することを目的とする。 具体的には、「金沢ベーシックカリキュラム」「金沢ふるさと学習」「金沢『絆』活動」が3本柱となっている。
P. 14	金沢型学習スタイル	全小中学校の基本となる学習方法や指導方法を明確にすることにより、児童生徒に必要な資質・能力を育成することを目的とする。 具体的には、全小中学校において基本となる学習スタイルを確立するため、課題を発見し、その解決に向けて主体的・共働的に学習するアクティブ・ラーニングの視点などを取り入れた「自分でみんなで考える金沢型学習スタイル」を策定した。
P. 14	教務主任	校長が、自校の指導教諭又は教諭から任命する。校長の監督を受け、教育計画の立案その他の教務に関する事項について連絡調整及び指導、助言にあたる。
P. 14	研究主任	校長が、自校の指導教諭又は教諭から任命する。校長の監督を受け、学習指導に関する事項をつかさどり、当該事項について連絡調整及び指導、助言にあたる。
P. 16	別室登校児童生徒	在籍する学級には登校せず、保健室や相談室等に登校する児童生徒のこと。
P. 21	デジタル教科書	指導者用あるいは学習者用に、教科書発行者から補助教材として制作・販売されている教材。教科書紙面の内容に加えて、多種多様な教材が付加されていたり、拡大や音声による読み上げなど従来の教科書にはない機能が付加されているため、活用により児童生徒の学習の充実を図ることが期待できる。
P. 21	教育振興基本計画	教育基本法第17条第1項に基づき政府が策定する、教育の振興に関する総合計画（第2期計画期間：平成25～29年度）
P. 22	小中一貫英語教育推進アドバイザー	小中学校の英語科授業等を参観し、指導案や授業進行等について学識経験者の立場から指導助言する。金沢大学人間社会学域准教授滝沢雄一氏、同大学人間社会研究域准教授久保拓也氏を委嘱している。
P. 22	新学習指導要領	全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省で定めた、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準。これまで、ほぼ10年ごとに改訂が行われており、平成29年3月に公示された。小学校では平成32年度から、中学校では平成34年度から新要領の全面実施が予定されている。

P. 25	金沢市健康教育推進プラン2014	金沢子ども条例の理念や「金沢子どもを育む行動計画2013」を健康づくりの視点から具現化するため、小・中学生の心と体の健康づくりに特化し、平26年3月に策定された総合的プラン。学校、家庭（地域）、行政が連携・協働し、子どもの健康づくりのための環境の整備や相互の連携の確保に努め、自らの健康課題を発見し、解決できる能力や資質を身に付けた子どもの育成をめざす。（現行プランは平成26年4月～平成31年3月）
P. 27	金沢ふるさと学習	金沢のもつ伝統や文化、自然、歴史、食などの多様な素材や人材を活用し、金沢について学び、考え、かかわり、広めることを通して、金沢のまちに愛着と誇りを持ち、まちづくりの担い手を育むことをめざす学習。
P. 28	ユネスコスクール	ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足した。世界中の学校がこのネットワークに参加しており、加盟が承認された学校をユネスコスクールと呼んでいる。グローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざしている。
P. 31	特別支援教育	障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施される。
P. 31	金沢市特別教育指針	特別な支援を必要とする児童生徒一人一人が、自己の能力を最大限発揮し、自らの選択に基づき自立した生活を送り、主体的に社会に参加できるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた、多様できめ細やかな学校教育を行っていくことを理念とし、その基本的な方針を定めたもの。
P. 31	特別支援教育支援員	特別支援教育における児童生徒の学習等を補助する臨時職員。
P. 32	適応指導教室	不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充のため、児童生徒及びその保護者の相談・適応指導を継続的に行い、学校復帰、社会的自立を支援する機関。
P. 32	そだちPersonal	個別対応 個別に1対1で話したり、学習や創作、運動をしたりしながら、小グループ活動に参加し、学校復帰の支援を行う。
P. 32	そだちFriendship	小集団対応 個々の状態に応じ、学習活動や体験活動を通して集団への適応性を高め、学校復帰への支援をする。
P. 36	非構造部材	柱、梁、床などの構造体ではなく、天井材や外壁（外装材）など、構造体と区分された部材。 出典先：「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック（改訂版）」
P. 36	耐震化率	昭和57年以降に建築された棟数と昭和56年以前に建築された棟数のうち、耐震診断の結果において耐震性があると判定された棟数及び補強済みの棟数が、全体棟数に占める割合。
P. 48	国連寄託図書館	国連の認定を受け、国際連合の各種委員会の会議録、調査結果報告書等の寄贈を受けて、一般に公開している図書館のこと。国際連合の活動を広く普及し、世界における国際連合の理解を深めることを目的としている。

P. 50	地域教育協議会	各校の学校支援地域本部における活動方針や活動内容の企画・立案・審議等を行う組織。学校やPTAをはじめ、公民館等の社会教育関係者や町会関係者など、多様な地域住民で構成される。
P. 50	地域学校協働活動	地域全体で子供たちの成長を支援するとともに、地域の活性化を図るため、各校区において地域学校協働本部を立ち上げ、地域と学校が連携・協働しながら、子供を育む活動を推進するもの。
P. 52	地区公民館ブロック	市内に60館ある地区公民館を、7つの地域ごとに区分したもの。1つのブロックにつき、6館～12館の地区公民館が含まれる。 (全7ブロックのうち、毎年3ブロックを対象に「人権ネットワーク学習」を年1回ずつ開催)
P. 52	金沢市人権教育・啓発行動計画	金沢市において、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」第5条に基づき平成25年4月に策定した、平成25年度から平成34年度までの10年間を対象とした人権教育・啓発に関する総合的な行動計画。平成15年3月に策定した前身の行動計画の趣旨を受け継ぎながら、その後の新しい人権諸課題についても検討し、数値目標の設定や、基本的視点の整理を行ったもの。
P. 53	金沢子ども読書推進プラン21	「子どもの読書活動の推進に関する法律」及び「金沢子ども条例」を受け、平成16年3月に策定されたものであり、すべての子供があらゆる機会とあらゆる場所において、自ら進んで読書活動を行うことができるよう、家庭、地域、企業、学校、行政の各方面での読書活動の推進に関する方向性や取り組みを示している。 平成26年には第三次プラン（計画期間：平成26年度～30年度）を策定した。
P. 55	レファレンス共同データベース	国立国会図書館が全国の図書館等と共同で構築している調べ物のためのデータベース。全国の調べ物事例の検索・閲覧や調べ方の支援を受けることができる。金沢市立図書館は、平成27年度に参加館登録し、平成28年度から本格的に活用を開始した。
P. 55	レファレンスサービス	図書館において、利用者が日常生活や学習、仕事、調査研究等のために、必要な情報や資料を求めた際に、図書館職員が資料等を検索し、求める情報や資料を提供、または回答し、調べ物を支援する業務。
P. 57	宇宙教育	宇宙に関する科学的知見、宇宙の開発及び利用を支える科学技術等に係る体験的な学習等を通じて、宇宙及び科学について関心を深めるとともに、探求する意欲を喚起し、青少年の夢及び希望を育むことを目的として行われる教育。
P. 58	里山教育	里山における生物の多様性、人々の農林漁業による営み、文化等について、体験的な学習等により理解を深め、自然を大切にする心を育むことを目的として行われる教育。
	小学校	金沢市立小学校
	中学校	金沢市立中学校
	小学生	金沢市立小学校の児童
	中学生	金沢市立中学校の生徒
	市内の小学校	金沢市内にある小学校
	市内の中学校	金沢市内にある中学校
	市内の小学生	金沢市内にある小学校の児童
	市内の中学生	金沢市内にある中学校の生徒

金沢市指定文化財の指定について

1. 有形文化財 建造物 「ほんりゅうじほんどう本龍寺本堂・さんもん山門・どべい土塀・しょうろう鐘楼 つけたりむなふだ附棟札」
2. 記念物 史跡 「かなざわじょうそうがまえあと金沢城惣構跡」

本龍寺本堂・山門・土塀・鐘楼

- 1 種 別 有形文化財建造物
- 2 名 称 ほんりゆうじほんどうさんもんどべいしょうろうつけたりむなふだ
本龍寺本堂・山門・土塀・鐘楼 附棟札
- 3 員 数 4棟 附1枚
- 4 所 在 地 金沢市金石西3丁目59番
- 5 所 有 者 宗教法人 本龍寺 金石西3丁目2番23号
- 6 構造形式 本堂：木造、入母屋造、棧瓦葺
山門：木造、棟門、脇塀・潜戸付、切妻造、棧瓦葺
土塀：版築構造、棧瓦葺
鐘楼：木造、入母屋造、棧瓦葺
- 7 規 模 本堂：604.55 m²
山門：門口 3.03m
土塀：延長 41.56m
鐘楼：11.11 m²
- 8 建築年代 本堂：寛政10年（1798）〔棟札〕
山門：寛政10年（1798）頃
土塀：江戸時代末期
鐘楼：江戸時代末期

9 説 明

本龍寺は、文明元年（1469）、本願寺第五世しゃくによ ひまご綽如の曾孫で、越中井波の瑞泉寺第四世れんきん蓮欽が梅原村（現在の南砺市梅原）に創建したのが始まりであり、第四世けんえい（注1）賢恵の時に本願寺第十一世けんによ顯如より本龍寺の寺号を賜り、慶長7年（1602）に現在地へ移転した。正徳元年（1711）の火災により堂宇を焼失し、同5年（1715）に本堂は再建されたが、その後再び、寛政10年（1798）に現在の本堂が再建された（注2）。

境内は旧宮腰往還の金石への入口東側に位置し、境内正面は、旧宮腰往還と直交し金石を東西に横断する主要道路からの小路を参道とし、北面して山門を建てる。山門脇に土塀が連なり、山門を潜ると西側に末寺本堂が位置し、境内は東側に大きく広がる。本堂は境内東寄りに位置し、鐘楼は北東隅に位置する。

【本堂】

本堂は、実長正面桁行九間半、側面十間半の規模で、屋根は入母屋造棧瓦葺（注3）とし、正面に向拝を設け北面して建つ。

建立年代は、棟札から寛政10年(1798)であることが判明しており(注4)、寛政9年(1797)に建立された近隣の金沢市指定文化財である専長寺本堂とほぼ同時期に建立されている。

本堂の平面は、実長正面七間半、奥行九間半の身舎を中心に、三方に広縁と落縁を廻し、背面に香部屋^{こうべや}など置く。間取りはほぼ左右対称で、正面から奥に向かって外陣、矢来内、内陣と続き、内陣の左右に余間、御簾の間を並べる構成で、典型的な真宗寺院本堂形式であるが、落縁に下屋を架けて、縁先に建具を設け(注5)、落縁を室内に取り込んでいる点は特徴的で、市内に残る同時期の真宗寺院(注6)では落縁に下屋を架ける発達は見られない(注7)。また矢来内で梁間方向に虹梁を架ける内陣正面における装飾化に加え、内外陣境の龍の彫刻は、柱間を飛び越えた躍動感のあるもので、市内の寺院建築には見られない手法であり、獅子や仙人の臺股^{たいこ}*¹彫刻は細部にわたり精緻で秀逸な作品である。棟札より、棟梁は越中井波の拝領地大工・柴田清右衛門(注8)であることが明らかで、瑞泉寺式台門(寛政4年/1792・南砺市指定文化財)や千光寺山門(寛政9年/1797・砺波市指定文化財)を手掛けた大工棟梁である。

以上のとおり、本堂は、寛政10年(1798)の建立であることが棟札より明らかで、典型的な真宗寺院本堂の平面形式であるが、同時期の金沢城下やその周辺の真宗寺院本堂と比較して、内外陣周りの虹梁や彫刻欄間などによる装飾が発達しており、その背景として、棟梁が越中井波の拝領地大工・柴田清右衛門であり、藩政期の城下における井波大工の活躍の一端を示すとともに、同時期の市内の寺院建築に見られる細部意匠とは全く異なる様式を持つ点で、地域的特徴を示すひとつの指標となる建物である。

【山門・土塀】

山門は北面して建ち、切妻造平入、棧瓦葺^{むなもん}の棟門形式で、左側に袖塀、右側に袖戸を設け、さらに左右に土塀が続く。

山門及び土塀の建立年代を示すものはないものの、山門については細部様式が本堂と共通しており、江戸時代後期に建てられたものと推測され、土塀については石積や臺股の絵様から江戸時代末期と推測される。

山門の構造は、主柱を控柱で支え、主柱間は虹梁形頭貫で繋ぎ、先端は獅子鼻とする。男梁^{おぼり}*²で桁を受け屋根を架け、先端に絵様繰形を設けた女梁^{めぼり}*²で男梁を受ける。柱頭には皿斗付き大斗を据

え、拳鼻を飾り、実肘木で化粧棟木を受ける。正面扉は棧唐戸とし、扉中央に寺紋である三つ牡丹の彫刻を付ける。虹梁中備には獅子の親子の彫刻を板墓股に取り付けたものを飾る。

土塀の構造は、胴割り石の石積みの上に土台石を載せ、上部の躯体は版築工法^{※3}によるものと推測される。現在はモルタル塗仕上げであるが、古写真から境内側は漆喰塗仕上げであったことが分かる。本堂正面にあたる箇所箇所に小さな門を設け、総延長は約41mもの長さを有する。

以上のとおり、山門は、本堂と一式の建築として価値があり、土塀は山門とともに寺院の表構えを形成する重要な遺構である。

【鐘楼】

鐘楼^{しょうろう}は、境内北東隅に位置し、赤戸室石の基壇石積の上に建つ。一間四方吹き放しで柱を内転びとし、入母屋造棧瓦葺の屋根を架ける。組物は出組、中備は墓股とし、内部天井は格天井とする。墓股は各面に2つずつ設け、青龍、玄武、白虎、朱雀の彫刻が施され、隅木下の持ち送りには竜頭彫刻^{りゅうず}、妻飾には波をかたどった彫刻を用いるなど、彫刻装飾が各所に用いられている。

建立年代は、寺蔵史料と細部意匠から江戸時代末期と推測される。寺蔵史料は寺の功労者及び寄附人の氏名を連ねた帖装本^(注9)で、その中に「鐘楼堂寄附人 川端嘉左エ門」^(注10)とあり、同氏は大野の北前船を率いて日本海を漕ぎ回った大野湊における代表的な大船主のひとりであり、江戸時代末期の活躍がうかがえる。細部意匠については本堂とは異なるもので、江戸時代末期の城下の寺院建築に類似する^(注11)。

以上のとおり、鐘楼は、井波大工の手による本堂に劣らず、精緻な彫刻が各所に施されており、土塀越しにそびえ立つ景観は寺院の表構えを象徴する存在である。また寄進者である川端嘉左衛門はこの地域の代表的な大船主であり、幕末期における北前船交易の繁栄ぶりを偲ぶ遺構としても貴重である。

■ 注記

(注1) 「梅原本龍寺由緒」(文政4年・写し/1821)には、「第五世」と載る。

(注2) 「石川県石川郡誌」(昭和2年/1927)に、「然るに堂宇不幸にして祝融の災いに罹りしを以て寛政十年三月上棟式を挙ぐるを得たり。」とあり、正徳5年(1715)に再建後、再度火災に遭ったことが記載されている。

(注3) 大野湊神社旧拝殿絵馬(文政2年/1819)に画かれた本堂屋根は入母屋

造であり、「宮腰町風俗図屏風」（安政 5 年／1858）に画かれた本堂屋根には赤瓦が葺かれている。小屋裏に掲げられている棟札より昭和 59 年（1984）に西側妻屋根改修工事が行われ、本堂屋根大修復記念冊子より、平成 3 年（1991）に屋根下地及び瓦が葺き替えられたことが分かる。

（注 4）本堂落縁の擬宝珠柱先端金具に「奉寄進 施主 山岸屋 市郎右衛門 寛政 九 加賀城 鋳物師 村山 藤右衛門」の刻銘がある。

（注 5）昭和 30 年代の古写真では、縁先には木製雨戸が設けられているが、現在は金属製建具に替わっている。建立当初より縁先に建具が設けられていたかについては今後の修理工事等において明らかにすべき点である。

（注 6）平成 28 年度の調査報告書において、光専寺本堂（野町・寛政 9 年／1797）、願念寺本堂（野町・文化 5 年／1808）、専長寺本堂（金石西町・寛政 9 年／1797）を本龍寺本堂と同時期の真宗寺院本堂として比較している。

（注 7）本龍寺と同じ金石地区にある専長寺本堂（金石西町・寛政 9 年／1797）の現状は、落縁に下屋を架け、縁先に建具を設けた形式であるが、材は新しく、後の改造である可能性が大きい。

（注 8）加賀藩主前田利家・利長は、金沢城普請、高麗陣、伏見城普請、関ヶ原陣、大阪陣（夏冬）に従事した大工に屋敷扶持を与えており、井波には 10 人の拝領地大工がいた。そのうちのひとりである才右衛門が柴田清右衛門の先祖にあたる。宝暦 13 年（1763）に行われた瑞泉寺（井波）の御堂 鋦^{ちょうなはじめ}始式に参加した柴田清右衛門は井波拝領地大工の筆頭にあり、棟梁名代をつとめて大工を指揮したとされ、その倅である柴田清右衛門が本龍寺本堂の大工棟梁であり、大工肝煎を務めた人物である。

（注 9）寺蔵史料には年代が記されていないものの、「鐘楼堂寄附人 川端嘉左エ門」の記述は、本堂再建に関する功労者の名簿と宗祖六百回忌法要の功労者の名簿の間に記載されていることから、鐘楼の建立は、寛政 10 年（1798）から安政 6 年（1859）までの間であることが推測される。

（注 10）大野町史によると、川端屋嘉左衛門は、大野湊の北前船主であり、嘉永年間（1848～53）に奉納された日吉神社の鳥居に「川端屋嘉左衛門」の名があるなど、江戸時代末期の活躍が確認されている。

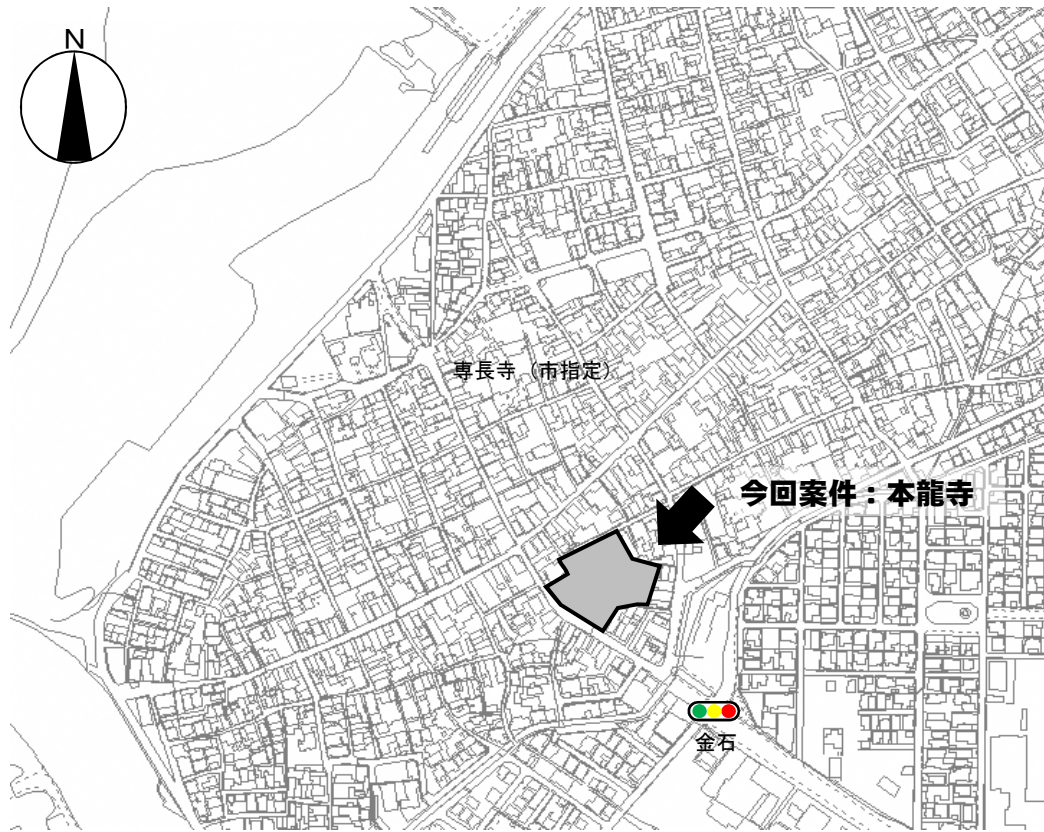
（注 11）金沢市指定文化財・高岸寺本堂（寺町 5 丁目・文久元年／1861）の妻飾に見られる細部意匠と本龍寺鐘楼に見られる細部意匠が酷似しており、同時期の作品であることが推測される。

用語の説明

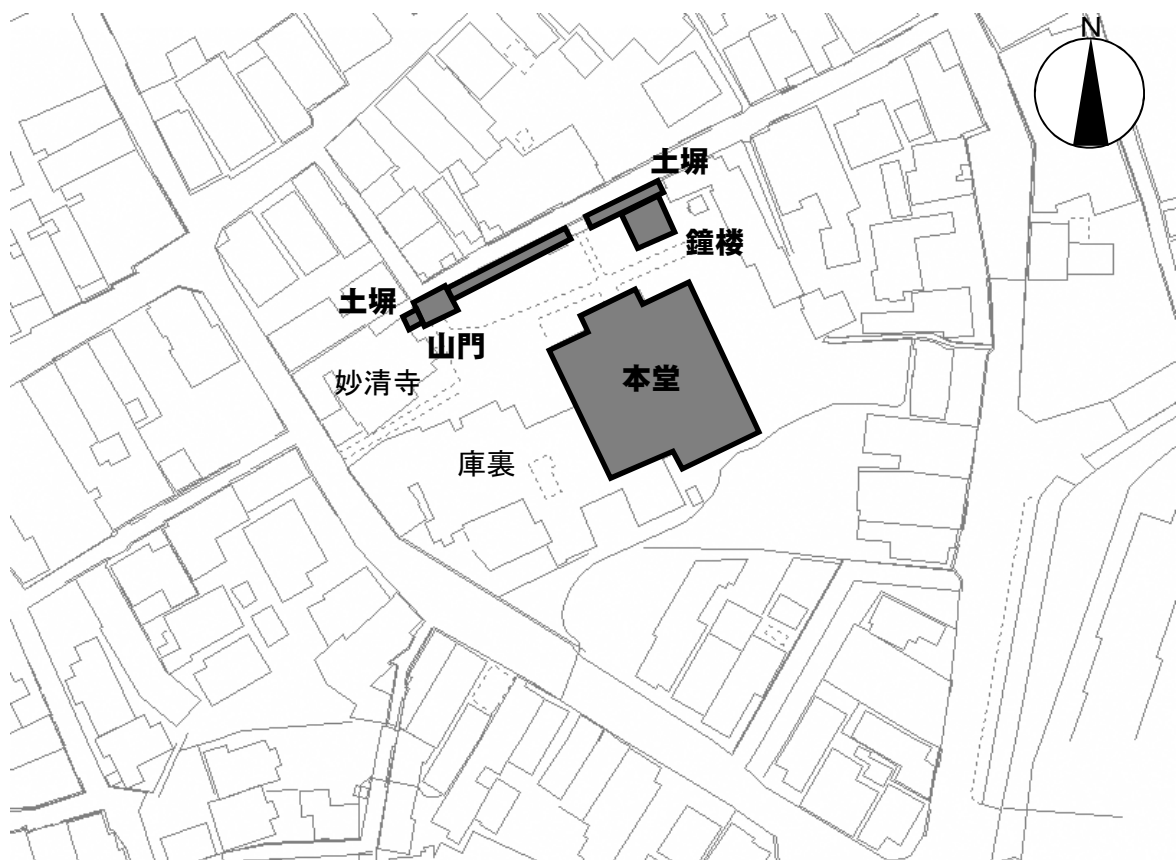
※ 1 墓股：虹梁上の斗栱間の中備、あるいは梁に据え虹梁、桁、棟木などの上部の荷重を支える横広がりの装飾的部材。蛙が股を広げたような形をしているので、この称がある。

※ 2 男梁・女梁^{よつあしもん}：四脚門、棟門など伝統的な門で、冠木や楣^{まぐさ}と直交方向に柱から二重に梁が差し出されている場合、上の長い方の梁を男梁、下の短い方の梁を女梁と呼ぶ。

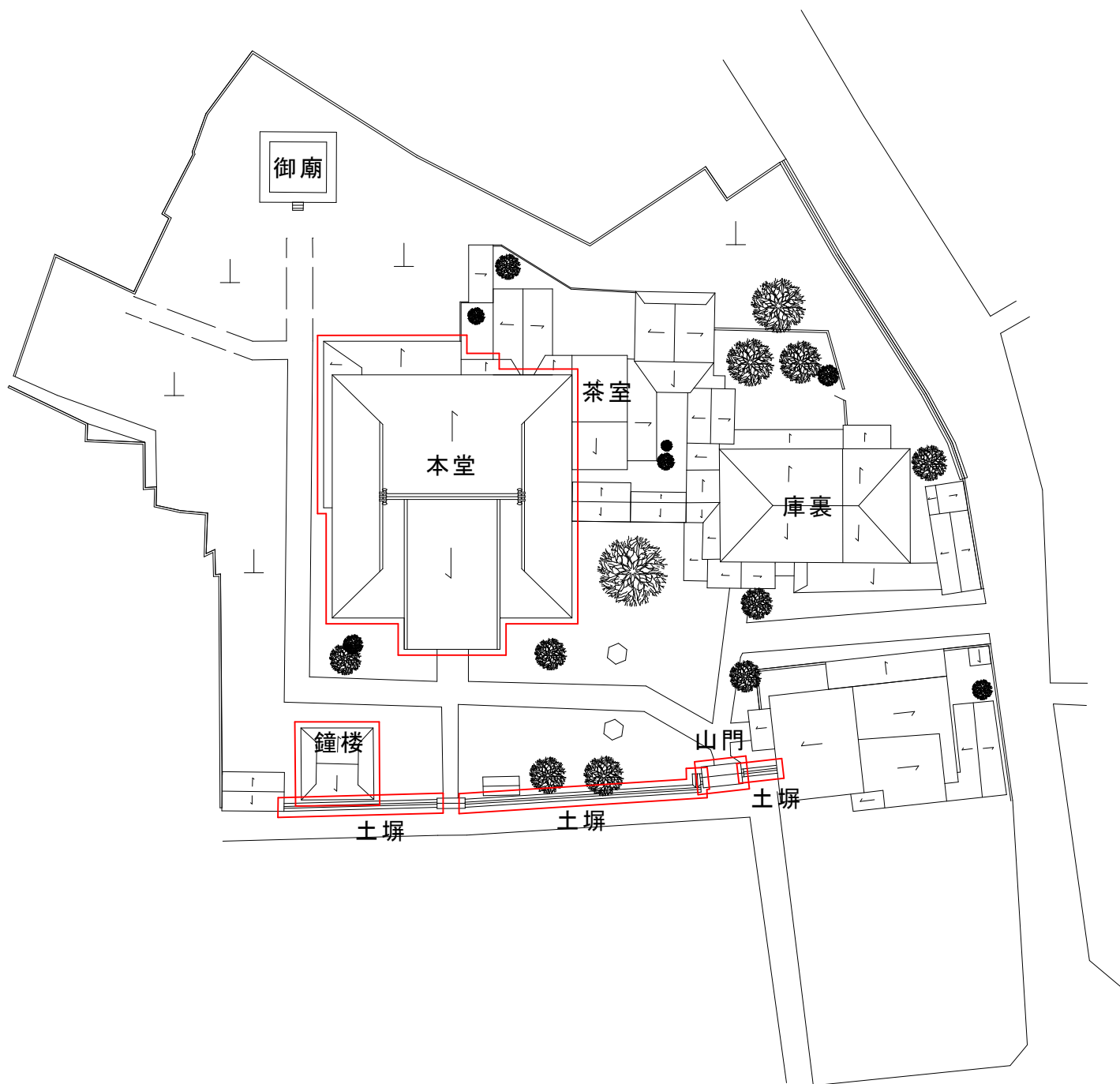
※ 3 版築工法：砂利等を含んだ土を棒等で突き固める作業を繰り返し、所定の高さまで積み上げて土塀を築造する工法。




位置図

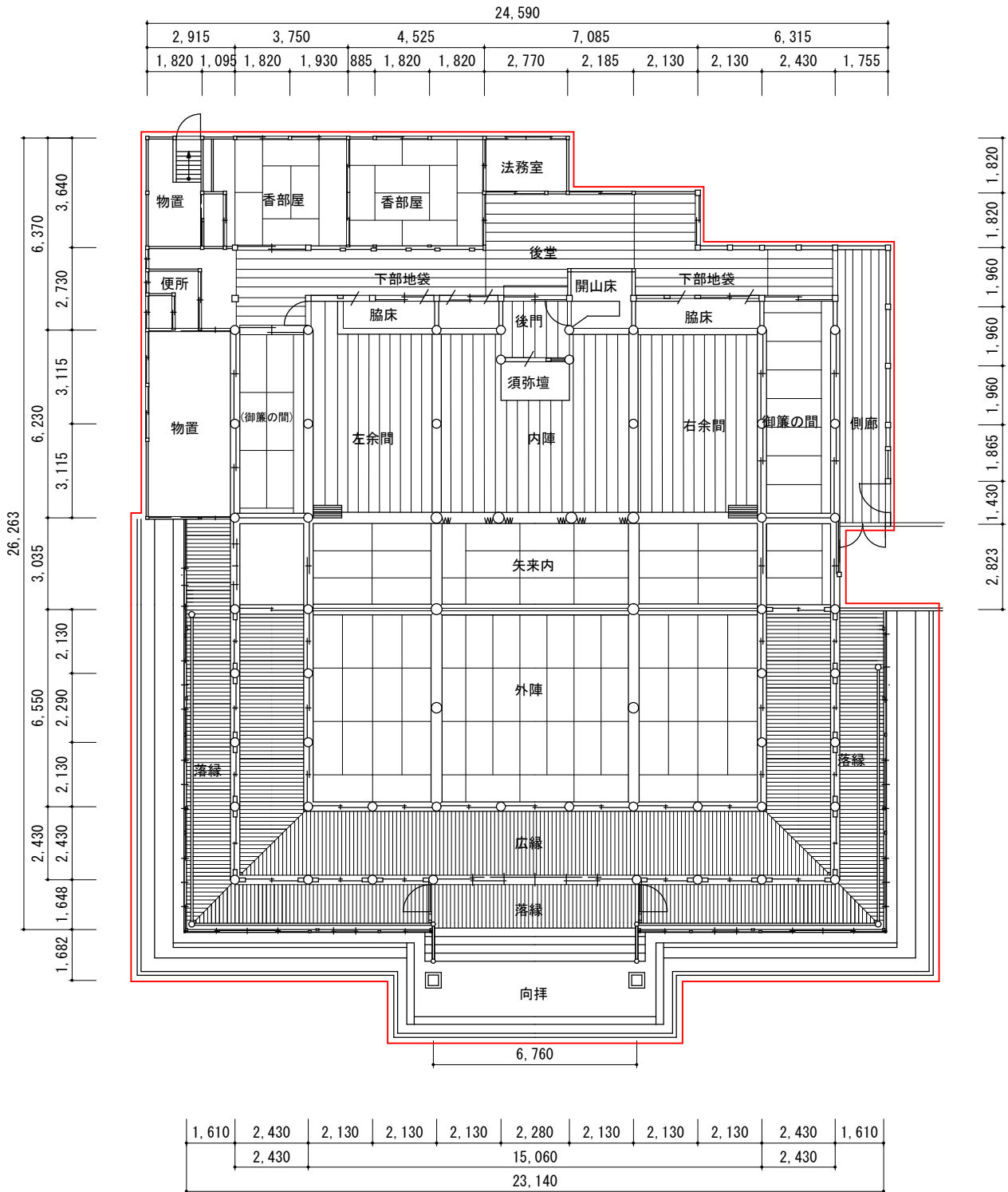



附近見取図



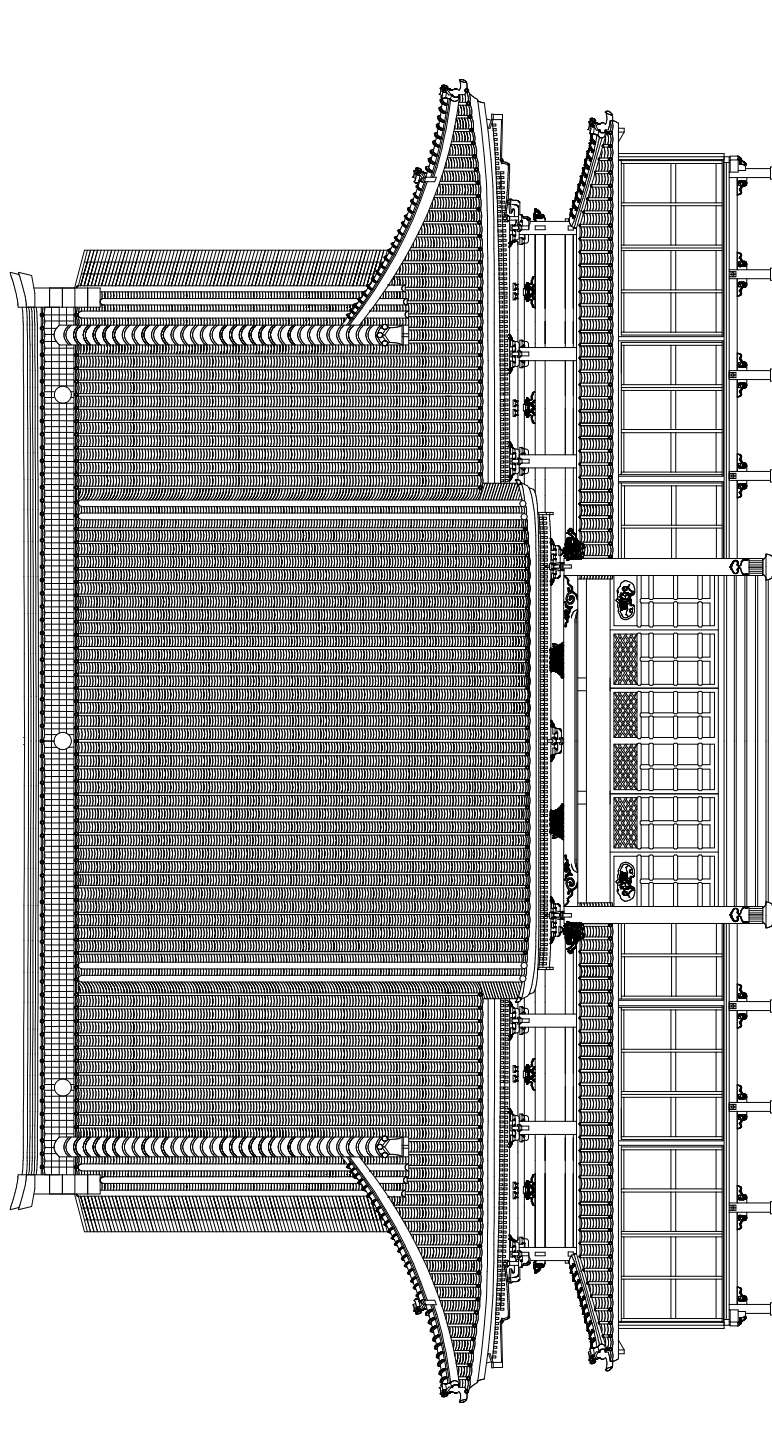
 : 今回指定候補範囲

配置図 1/600

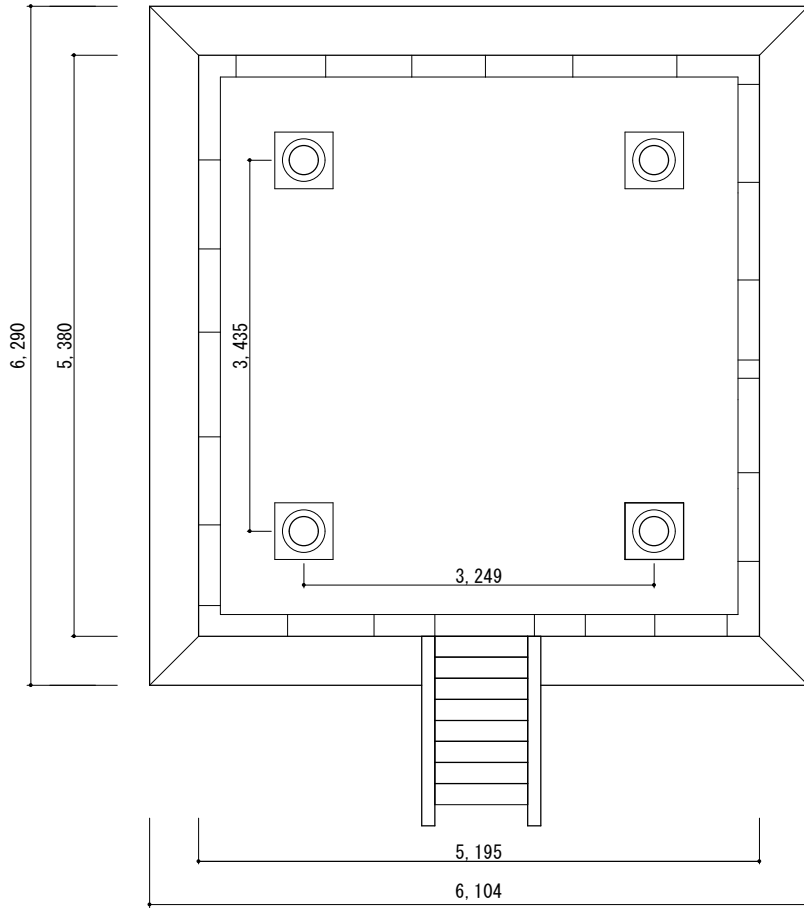
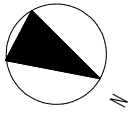


 : 今回指定候補範囲

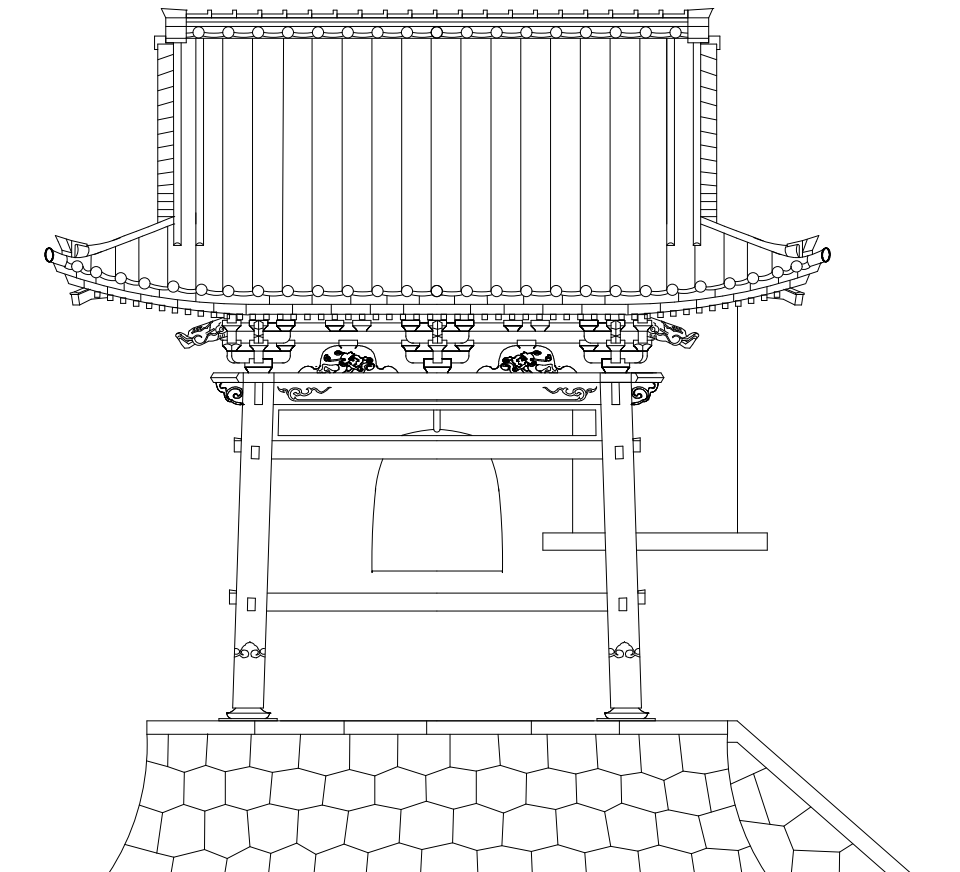
本堂平面図 1/200



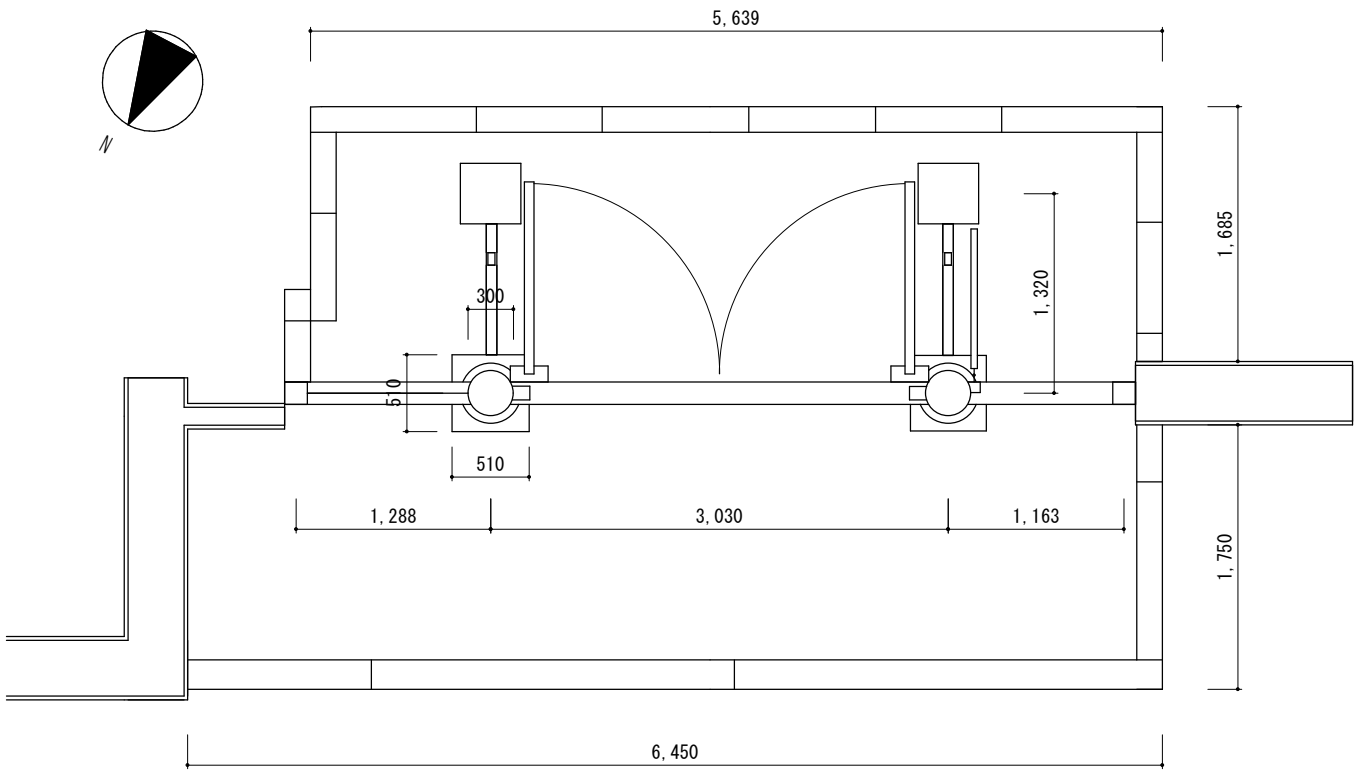
本堂北立面图 1/150



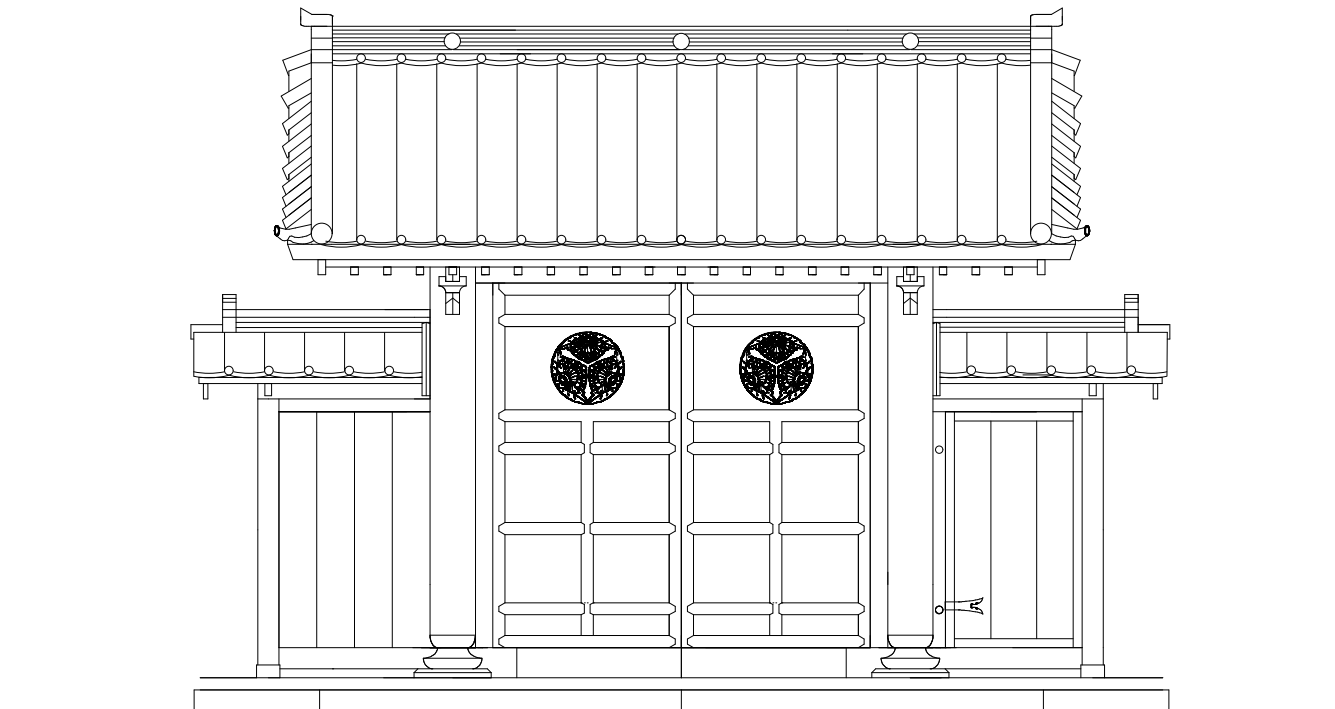
鐘樓平面圖 1/70



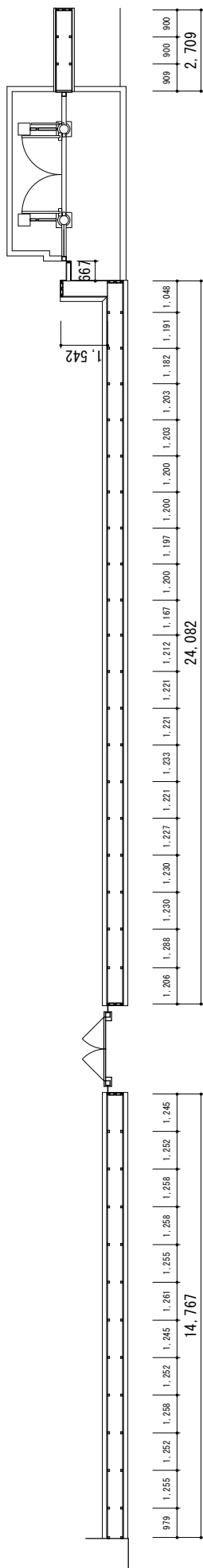
鐘樓南立面圖 1/70



山門平面図 1/50

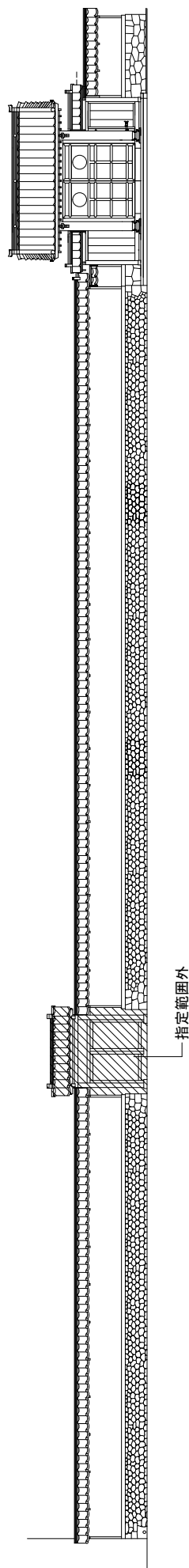


山門北立面図 1/50



土塀総延長：41.56m

土塀平面図 1/200



土塀立面図 1/200



本堂正面



本堂内外陣境



本堂内外陣境 龍彫刻欄間



本堂内陣



本堂矢来内



山門正面



東側土塀



山門獅子鼻及び組物



山門臺股



東側土塀



東側土塀臺股



鐘楼



當御堂建立發起神徳院殿釋賢授
 綽如聖人創建蓮欽法師再興加賀國石川郡宮腰梅原本龍寺
 第十四世
 寬政十戌午歲三月廿九日上棟
 寺務釋乘恵

棟札（表）



大工棟梁
 柴田清右衛門藤原貞國
 同清之佑貞重
 同李之輔國光

棟札（裏）

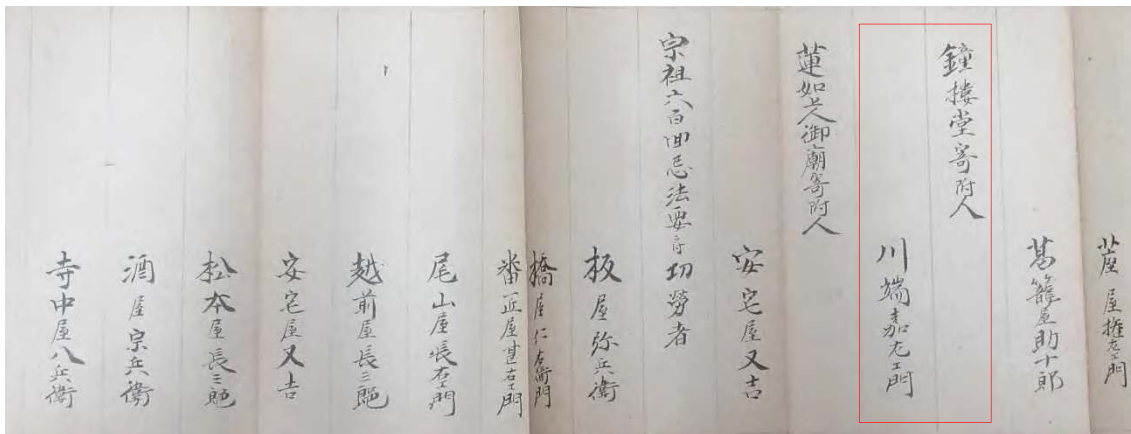
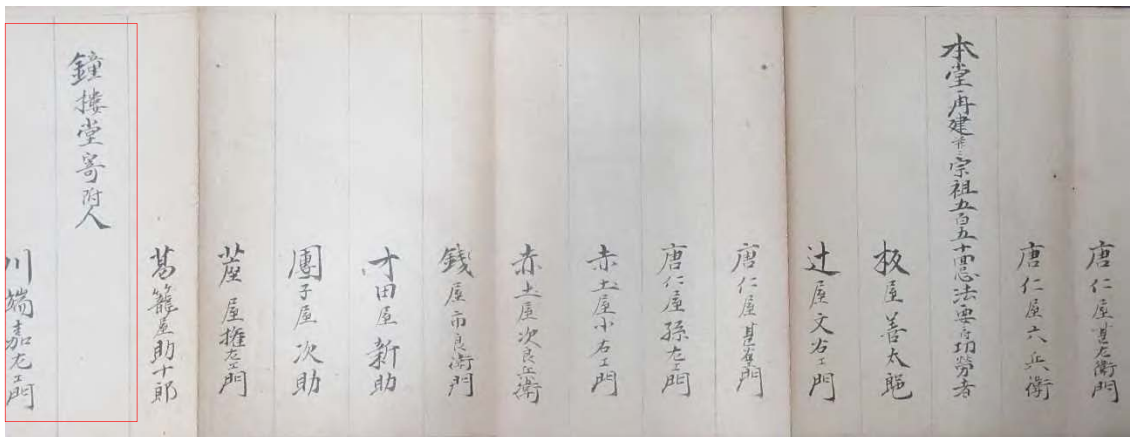


落縁擬宝珠柱金具刻銘

奉寄進
 施主 山岸屋
 市郎右衛門
 寬政九
 加賀城
 村山
 鑄物師 藤右衛門



大野湊神社旧拝殿絵馬（文政2年／1819）



寺蔵史料 「鐘樓堂寄附人 川端嘉左工門」の記載

市内に残る同時期の真宗寺院本堂



本龍寺本堂
寛政10年(1798)



同左古写真(昭和30年代)



金沢市指定文化財・専長寺本堂 寛政9年(1797) 金石西



光専寺本堂
寛政9年(1797) 野町



願念寺本堂
文化5年(1808) 野町

本龍寺本堂と柴田清右衛門の他の作品との比較



瑞泉寺式台門
(寛政4年 / 1792・南砺市指定)



千光寺山門
(寛政9年 / 1797・砺波市指定)



虹梁 / 本龍寺本堂



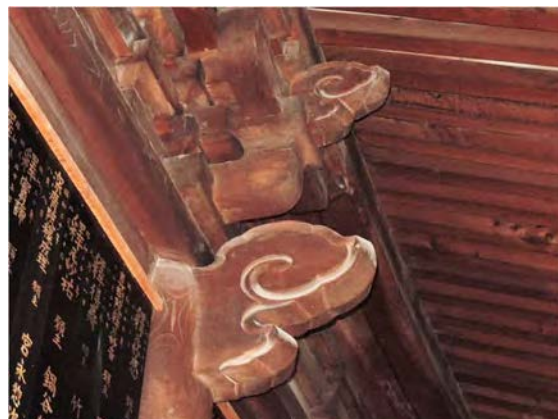
虹梁 / 瑞泉寺式台門



獅子彫刻 / 本龍寺本堂



獅子彫刻 / 瑞泉寺式台門



木鼻 / 本龍寺本堂



木鼻 / 千光寺山門

本龍寺鐘樓と江戸時代末期の城下寺院との比較



金沢市指定文化財・高岸寺本堂（寺町5丁目・文久元年／1861）



同上妻飾 虹梁・木鼻



同上妻飾 拳鼻



本龍寺鐘樓 拳鼻



本龍寺鐘樓 木鼻

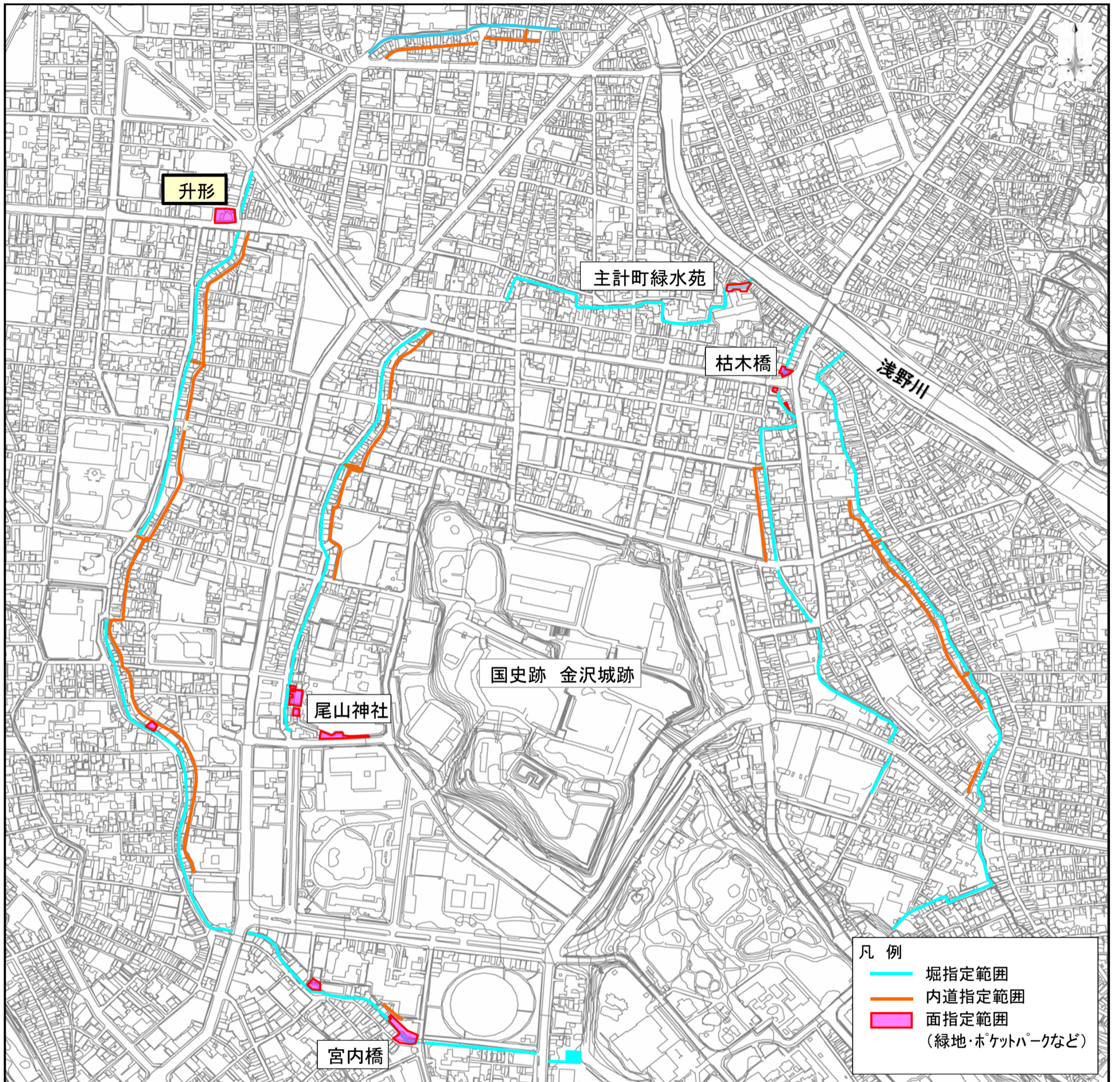
金沢城惣構跡

- 1 種 別 記念物 史跡
- 2 名 称 金沢城惣構跡
- 3 所在地 金沢市広坂1丁目128番 ほか
- 4 所有者 石川県、金沢市
- 5 年 代 安土桃山時代～江戸時代前期（造営）
- 6 面 積 追加指定前：33,901 m²
虎口 1,989 m²（9ヶ所）、堀 19,388 m²、
土居 2,413 m²、内道 10,111 m²
追加指定後：34,167 m²
（追加指定面積：虎口 266 m²）
虎口 2,255 m²（9ヶ所）、堀 19,388 m²、
土居 2,413 m²、内道 10,111 m²
- 7 指定年月日 平成20年12月26日
- 8 追加指定理由

金沢市指定文化財である史跡「かなざわじょうそうがまえあと金沢城惣構跡」は、城を中心に城下町外縁を二重に囲った防御施設である。惣構とは、出入口である虎口こぐち、城下への進入を妨げる堀と土居等からなる遺構である。

本町1丁目地内では、出入口の前面に方形の空間を設けたます升形虎口の一部が発掘調査で確認されたことから、遺構の保護を目的として用地取得及び史跡整備の計画が進められた。今回は平成29年度実施の史跡整備に伴い試掘調査を行った結果、これまでの調査で確認されていた堀岸の対岸が確認されたことから、市史跡への追加指定を行うものである。

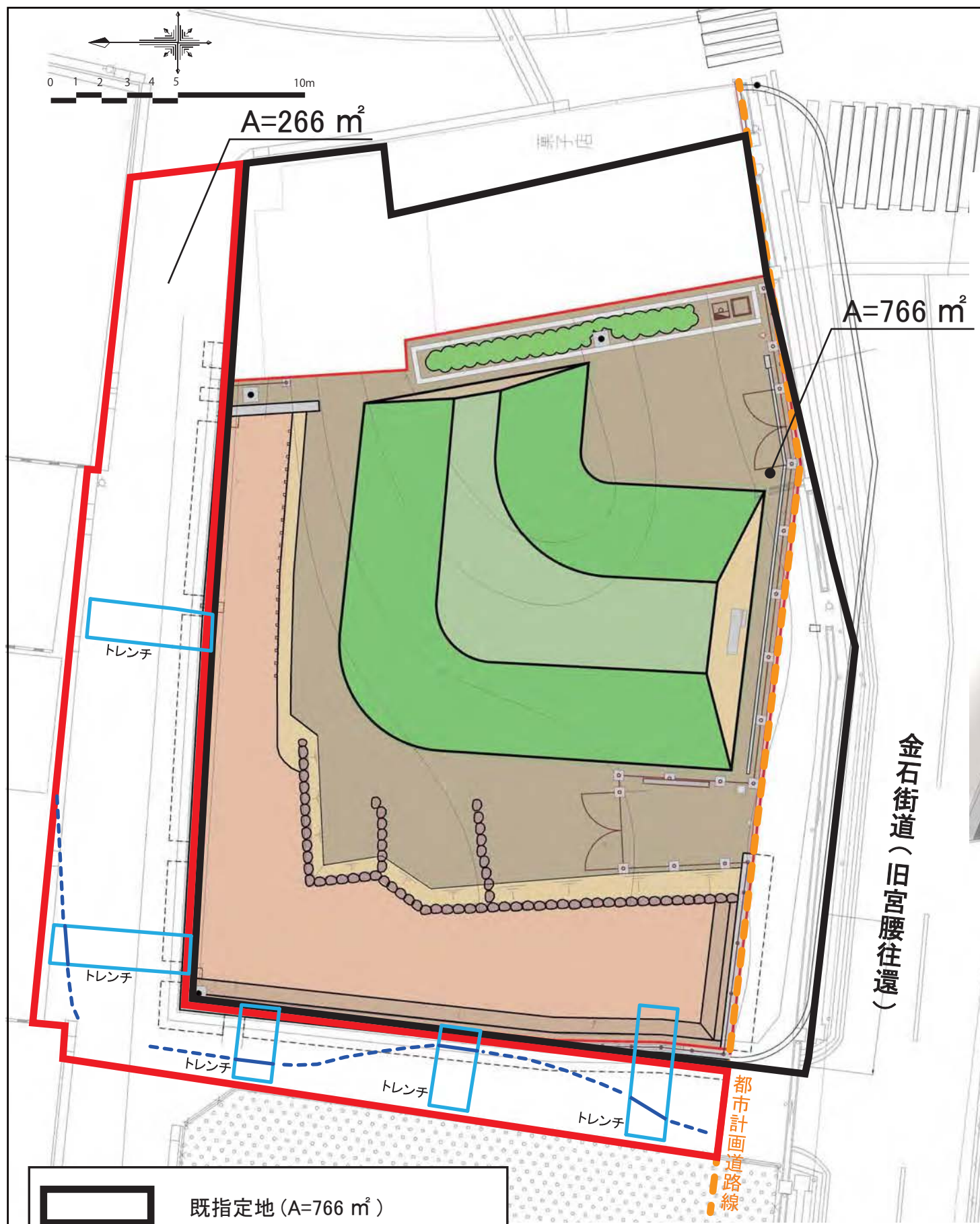
本史跡で惣構築造当初の堀幅が遺構として確認できたのは、当該地だけであり、重要な遺構といえる。升形の堀の規模が明らかとなったことから、史跡整備地の説明板等にその調査成果を活用すると共に、市道としての機能を保った状態で遺構の保護を図る。



市史跡「金沢城惣構跡」指定範囲図



金沢城惣構跡（升形虎口） 文化財追加指定



- 既指定地 (A=766 m²)
- 追加指定地 (A=266 m²)
- 今回確認された築造当初の堀岸
- 築造当初の堀岸推定線

[復元整備計画平面図]



[鳥瞰図]



升形築造当初の北側堀岸検出状況（東より）



升形築造当初の西側堀岸検出状況（北より）

資 料

報告第32号

平成29年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」の
結果概要について

平成29年度「金沢市『携帯電話・インターネット』アンケート」集計結果

【調査人数】 小学校：11,523名 中学校：11,148名 高等学校：718名

問1 自分専用の携帯電話やスマートフォンを持っていますか。

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 携帯電話を持っている	23.2%	25.5%	26.8%	11.5%	12.2%	12.4%	13.2%	9.5%	12.0%
イ スマートフォンを持っている	4.7%	5.2%	5.8%	16.6%	19.2%	24.7%	83.4%	87.0%	85.2%
ウ 両方持っている	0.9%	1.0%	1.3%	1.8%	2.1%	2.4%	1.7%	1.0%	1.4%
エ どちらも持っていない	71.2%	68.3%	66.1%	70.1%	66.5%	60.5%	1.7%	2.5%	1.4%

問2 携帯電話やスマートフォンには、フィルタリングサービスが設定されていますか。
【割合は、問1の（ア+イ+ウ）の人数に対するもの】

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 設定されている	52.3%	49.8%	51.1%	38.5%	41.2%	42.3%	55.9%	50.7%	47.2%
イ 設定されていない	15.3%	16.5%	15.5%	15.0%	15.1%	15.0%	26.0%	26.4%	21.8%
ウ 分からない	32.4%	33.7%	33.4%	46.5%	43.7%	42.7%	18.1%	22.9%	31.0%

問3 インターネットができるパソコン・ゲーム機・携帯音楽プレイヤーなどを持っていますか。（複数回答可）

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア パソコン	42.8%	40.7%	36.4%	49.0%	46.1%	42.4%	60.5%	57.0%	47.2%
イ ゲーム機	55.8%	55.9%	55.7%	52.1%	56.4%	54.7%	51.9%	58.8%	52.6%
ウ 携帯音楽プレイヤー	7.3%	6.6%	6.5%	25.4%	21.3%	18.1%	27.8%	23.8%	17.1%
エ タブレット端末など	28.1%	33.8%	36.8%	35.1%	41.3%	43.5%	21.5%	32.7%	28.3%
オ 持っていない	16.1%	15.6%	15.1%	10.5%	10.1%	11.0%	12.0%	11.4%	15.7%

問4 携帯電話・スマートフォン・パソコン・その他の機器を1日にどれくらい使いますか。

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 1時間まで	41.9%	40.6%	39.8%	28.7%	27.6%	26.1%	6.9%	4.9%	6.5%
イ 1時間から3時間	32.5%	33.9%	35.4%	45.8%	47.6%	48.2%	52.7%	58.7%	59.9%
ウ 3時間から5時間	5.3%	5.9%	6.7%	9.5%	10.4%	11.5%	30.0%	26.3%	25.1%
エ 5時間以上	2.1%	2.5%	2.7%	3.9%	3.6%	4.6%	8.5%	8.4%	6.4%
オ 使わない	18.2%	17.1%	15.4%	12.1%	10.8%	9.6%	1.9%	1.7%	2.1%

問5 携帯電話・スマートフォン・パソコン・その他の機器の使い方についてどのようなルールがありますか。（複数回答可）

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 使う時間を決めている	46.7%	48.8%	49.5%	30.2%	31.4%	33.4%	5.0%	11.0%	9.6%
イ 使う場所を決めている	26.0%	29.8%	30.8%	20.0%	22.3%	24.3%	5.2%	6.4%	6.3%
ウ してはいけないことを決めている	30.6%	31.4%	30.2%	19.8%	23.4%	25.7%	10.5%	12.5%	10.3%
エ その他のルールを決めている	19.1%	19.8%	19.5%	13.8%	14.5%	15.4%	7.8%	7.7%	9.2%
オ 特に決めていない	26.0%	24.5%	23.5%	44.1%	40.4%	38.5%	74.6%	72.6%	71.7%

問6 インターネットをよく使うのは、どれですか。(複数回答可)

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 調べ物	46.0%	45.7%	46.2%	59.6%	62.3%	64.2%	66.2%	65.7%	57.8%
イ メール	8.8%	9.4%	11.4%	30.5%	31.6%	35.6%	44.6%	40.8%	50.1%
ウ ゲーム	57.7%	60.6%	62.7%	59.7%	61.4%	62.7%	76.8%	75.8%	68.7%
エ 音楽などのダウンロード	8.0%	7.9%	8.5%	30.5%	29.3%	31.2%	48.1%	53.3%	46.7%
オ 買い物	2.5%	2.2%	2.0%	7.0%	7.4%	8.1%	22.5%	23.1%	23.5%
カ ブログやプロフ	0.9%	0.9%	0.9%	3.5%	3.8%	3.9%	3.9%	3.5%	4.7%
キ コミュニティサイト	1.8%	1.5%	1.4%	14.8%	12.7%	12.9%	44.1%	51.7%	45.4%
ク 無料通話アプリ	8.3%	9.0%	10.1%	28.4%	30.1%	31.1%	61.9%	63.5%	53.2%
ケ その他	15.1%	16.9%	17.6%	14.5%	14.7%	16.4%	11.3%	11.4%	11.1%
コ 使わない	17.3%	16.0%	14.7%	8.4%	6.9%	6.4%	1.4%	1.3%	1.9%

問7 インターネット上で、次のようなことをされたことがありますか。(複数回答可)

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 悪口を書かれた	0.5%	0.6%	0.5%	1.2%	1.2%	1.4%	2.2%	2.2%	1.4%
イ チェーンメールを送られた	1.1%	1.0%	1.1%	11.3%	11.4%	9.7%	9.1%	8.4%	7.4%
ウ 個人情報・写真を流された	0.2%	0.2%	0.2%	1.5%	2.2%	1.7%	4.0%	4.2%	2.2%
エ 特になし	97.6%	98.2%	98.2%	86.2%	85.2%	87.4%	86.3%	87.2%	89.7%

問8 インターネット上で、次のようなことをしたことがありますか。(複数回答可)

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 悪口を書いた	0.2%	0.2%	0.1%	0.8%	0.6%	0.7%	1.7%	2.2%	0.6%
イ チェーンメールを送った	0.5%	0.2%	0.3%	4.6%	3.6%	3.0%	1.8%	1.7%	1.0%
ウ 他人の写真等を流した	0.03%	0.1%	0.1%	0.6%	0.6%	0.6%	2.0%	2.6%	0.7%
エ 知り合った人と電話・メールした	0.9%	0.9%	0.8%	3.7%	3.5%	3.9%	8.4%	10.2%	7.1%
オ 知り合った人に会った	0.6%	0.2%	0.1%	1.4%	0.7%	1.1%	2.9%	3.3%	1.5%
カ 特になし	97.4%	98.5%	98.6%	89.4%	91.0%	91.0%	86.5%	85.2%	91.1%

問9 インターネットに関する内容について、次の(1)～(3)のことをどう思いますか。

(1) インターネット上に悪口や人を傷つけることを書き込むことは犯罪である

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 思う	91.6%	90.8%	91.9%	88.7%	89.0%	88.9%	85.9%	83.7%	85.1%
イ 思わない	1.3%	2.0%	1.6%	2.4%	2.6%	2.6%	5.6%	7.4%	6.3%
ウ 分からない	7.1%	7.2%	6.5%	8.9%	8.4%	8.5%	8.5%	8.9%	8.6%

(2) インターネット上に一度書き込んだ情報は、完全に消すことはできない

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 思う	71.6%	72.1%	73.4%	85.9%	88.0%	88.0%	94.4%	95.2%	95.0%
イ 思わない	4.0%	4.2%	4.0%	2.7%	2.6%	2.4%	1.4%	1.3%	1.7%
ウ 分からない	24.4%	23.7%	22.6%	11.4%	9.4%	9.6%	4.2%	3.5%	3.3%

(3) インターネットへの書き込みは、誰が書いたかを調べることができる

	小学校			中学校			高等学校		
	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度	H27年度	H28年度	H29年度
ア 思う	47.9%	49.8%	52.2%	69.4%	69.2%	68.5%	86.4%	87.4%	85.8%
イ 思わない	9.7%	9.7%	8.4%	4.7%	4.9%	5.0%	3.1%	3.3%	3.5%
ウ 分からない	42.4%	40.5%	39.4%	25.9%	25.9%	26.5%	10.5%	9.3%	10.7%